

多摩地域が一体で取り組む 観光地域づくり

—誇りと愛着のある豊かな地域づくりに向けて—

平成29年2月
東京都市長会

目 次

はじめに	1
第1章 「観光地域づくり」の意義 ―多摩地域における観光地域づくりのすすめ―	
1 世界的スポーツ大会について	7
2 観光について	12
3 多摩地域において観光に取り組む意義	24
4 本提言では	28
第2章 多摩地域における観光振興施策等の現状及び学生の地域活動に関する意識調査 ―多摩地域26市における地域資源の活用状況等及び観光地域づくりの担い手となる学生の意識について―	
第1節 観光振興施策等に関する取組状況（26市アンケート結果から）	
1 「観光振興施策等に関するアンケート調査」の概要	31
2 地域資源について	32
3 観光振興計画、観光協会等の組織について	34
4 観光振興・産業振興分野における大学等や民間企業との連携について	35
5 観光振興に関する課題について	37
6 学生の市政参画について	38
7 観光振興施策等に関するアンケート調査から見えてきたこと	39
第2節 観光地域づくりの担い手としての学生の意識調査	
1 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査の概要	41
2 学生の地域活動参加状況	41
3 地域活動参加に関連する行動や意識について	46
4 参加活動数が多い学生の行動や意識について	49
5 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査から見えてきたこと	53
6 2つの調査結果からの考察	54
第3章 広域的観光振興による事業展開の先進事例調査	
第1節 多摩地域における連携活動の事例調査	
1 国分寺・府中観光振興連絡協議会における取組について	60
2 三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！コミュニティサイクル促進事業連絡会における取組について	62
3 秋川流域ジオパーク推進会議における取組について	64
4 昭島・福生・羽村観光推進協議会における取組について	66

第2節	日本版DMOについての先進事例調査	
1	日本版DMO候補法人登録制度の現状について（観光庁）	68
2	日本版DMOの設立事例	69
第3節	調査結果から－多摩地域26市が一体となった観光地域づくりに向けて見えてきたもの－	
1	既にある多摩地域の連携活動の事例から見えるもの	83
2	DMOの設立・運営事例から見えてくるもの	84
第4章	提言－多摩地域の魅力協創に向けて－	
1	多摩地域における観光	87
2	多摩地域が一体となって取り組む広域的観光事業の実施【提言①】	90
3	観光地域づくり推進体制の整備【提言②】	93
おわりに	－「観光地域づくり」の先にあるもの－	99
参考文献		101
資料編		105
1	観光振興施策等に関するアンケート調査単純集計結果	
2	多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査結果	
3	政策提言概要版	

はじめに

時代は、動いている。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に向け、世界中の眼差しが東京に注がれている中、大会の成功に向けた準備がなされている。大会エンブレムが決まり、新国立競技場が着工し、各競技種目の会場も決まりつつある。

また、2016 年リオデジャネイロ大会の閉会式におけるハンドオーバーで、リオデジャネイロ市長から東京都知事に引き継がれた旗（オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグ）が東京都内 62 市区町村を巡回し、各地でフラッグの到着を歓迎するセレモニーが、実施されている。

東京都では、新知事のもと、「新しい東京」を目指し、動き始めている。

2020 東京大会の成功と、それを梃子とした、東京ひいては日本の持続的成長に向けて、都政を強力に前に進めていくべきと、平成 28（2016）年 12 月に「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020 年に向けた実行プラン～」を策定・公表した。

一方、全世界の旅行者数は増加傾向にあり、2010 年には約 9.5 億人に達し、2030 年にはその 2 倍程度の 18.1 億人との予測が出ている。訪日外国人旅行者もこの 10 年で約 3 倍に増加し、2016 年は前年より 430 万人増の 2,403 万 9,000 人となり、4 年連続で過去最多を更新している。2015 年の訪日外国人旅行者による消費額は 3.5 兆円で、訪日外国人一人当たりの旅行消費額では約 17 万 6,000 円に及んでいる。

日本では、少子高齢化の一層の進展により、これまで経験したことのない人口減少局面を迎えている。

そのような中、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会は、参加者で 204 の国・地域から 15,000 人、来場者で 1,000 万人（海外から 80～100 万人程度）が見込まれる大きな大会である。しかもその前年には、2019 年ラグビーワールドカップ日本大会が開催され、参加者が 20 チームで 1,000 人、来場者が 200 万人と見込んでいる。活用しない手はない。

本会では、平成 25 年度「多摩地域におけるシティプロモーションについて」で、多摩地域の魅力の向上や活力に満ちたまちづくりを目指し、平成 26 年度「多摩地域における『まち歩き』のすすめ」で、「市町村ごとの個性」を見つけ、住民のまちへの愛着を高めていくための「まち歩き」をすすめ、そして、昨年度「多摩地域における誇るべき生活文化とは」で、東京の中の多摩という対比の中で、改めて多摩地域における生活を見つめ直し、「生活文化」として再認識し、その魅力を内外に伝えようとした。

これまでの政策提言の流れを受け、本年度のテーマは「観光地域づくり」とした。

これまでの政策提言は、各市において、各市の実情に応じて取り組むことを促すものであった。多摩地域は広く、各市での実情は様々である。そこで、政策提言の内容については、必ずしも全ての市で直ちにに取り組むべきということではなく、取り組む場合でも、その手法は様々であり、大切なことは、同じ目標を持った市同士が、相互に連携しつつ、実行できる政策から着手していくことが望ましいのではないかと考えたのである。

本提言においても、基本はこれまでと同様ではあるが、これに加えて今回は、「観光地域づくり」を多摩地域が一体となって取り組む可能性について、その実現に向けた具体的な取組手法にまで踏み込み、提言とした。

この試みは、実現するまでにはあまりにも課題が多く困難を伴うものとの認識はある。数えれば、できないことの理由の方が多いであろう。

しかしながら、多摩地域には地域資源が豊富に存在し、観光の面で、まだまだ大きく飛躍する可能性を持っている。この時代が動いている中で、本年度は、多摩の持っている可能性を信じ、その魅力を磨き光り輝かせ、持続的な成長により、誇りと愛着のある豊かな地域づくりを目指したい。

このような思いを持って、本年度の政策提言を行う。

(本提言の構成)

本提言の構成は以下のとおりである。

第1章では、2年連続で世界的スポーツ大会が開催されるという最大の機会を活用し、多摩の魅力や存在を内外に訴求し、大会後にも持続した成長が可能となる取組として「観光地域づくり」を取り上げ、これに関する国や東京都の動向のほか、多摩地域における状況などの背景を整理し、どのように取り組んでいくか、考え方の方向性を示すこととする。

第2章では、2つの調査結果に基づき考察する。前半では、多摩地域26市を対象に行った「観光振興施策等に関するアンケート調査」の結果を示し、観光振興施策等の現状や課題を明らかにする。そして、後半では、若者（学生）を対象とした「多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査」の結果を用いて、若者の地域活動に対する意識や参画への動機付けなどについて考察する。

第3章では、多摩地域26市が一体となった「観光地域づくり」を進めるに当たっては、各市がどのように連携し、どのように取り組んでいくのかという点が重要になることから、日本版DMO候補法人登録制度等現状について観光庁へ聞き取り調査するとともに、既に複数の市町村等が連携して「観光地域づくり」に取り組んでいる事例について、どのような手法を用いて進めているのか、どのような課題があつてこれをどのように克服しているのかなどを聞き取り調査し、多摩地域26市の連携に向けた取組の参考にする。

第4章では、第1章から第3章までの成果を踏まえ、多摩地域における人口減少による地域経済の停滞を防ぎ、更なる発展を目指すため、多摩地域が一体となって観光地域づくりに取り組むことを提言する。

(本提言の位置付け)

平成 25 年度

『多摩地域におけるシティプロモーションについて』

シティプロモーションの重要性を示し、
「多摩全体に共通する強み」と「市町村ごとの個性」を内外に訴求していく
ことを提言

平成 26 年度

『多摩地域における「まち歩き」のすすめ』

「市町村ごとの個性」の訴求について、
シビックプライド醸成に向け、「まち歩き」の活用を提言

平成 27 年度

『多摩地域における誇るべき生活文化とは』

「多摩全体に共通する強み」の訴求について、
多摩地域の誇るべき「生活文化」を再認識し、更なる発展・深化に向けて提
言

多摩地域の誇るべき「生活文化」

- 「リサイクル活動に率先して取り組む」
- 「自宅等で園芸・家庭菜園を行い、地産地消を心がける」
- 「身近なみどりを守る取組をしている」
- 「ボランティア活動に参加する」
- 「家族や住民同士のあいさつなどによるコミュニケーションを大切にする」

平成 28 年度

『多摩地域が一体で取り組む観光地域づくり』

多摩地域が一体で「観光地域づくり」に取り組むことにより、多摩地域の
魅力をPRし、観光交流人口の拡大による地域活性化を目指す

- ・この好機を逃さない
- ・多摩地域内の様々な地域資源を活用
- ・体験と交流で周遊・滞在する「着地型観光」を開発
- ・『観光地域づくり』に、多摩地域の多様な主体が一体となって取り組む
- ・観光交流人口の拡大による地域活性化を目指す

第1章 「観光地域づくり」の意義

ー多摩地域における観光地域づくりのすすめー

今回の政策提言のテーマ選定の背景に、2つの世界的なスポーツ大会が開催されることがある。すなわち、2019年開催のラグビーワールドカップ2019日本大会と2020年開催の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）である。

この2年連続で世界的なスポーツ大会の開催地となる「東京」では、今後、これらの大会の成功に向けた取組が行われるとともに、大会後を見据えて、持続的成長に向けた取組が行われ、益々、国内外から注目を集めることが予想される。

この最大の機会を活用し、「東京」の一員である多摩地域においても、多摩の魅力や存在を内外に訴求し、大会後にも持続した成長が可能となる取組を行う好機である。

そこで本章では、持続的な成長を可能にする取組として「観光地域づくり」を提言する前提として、国や東京都の動向のほか、多摩地域や26市各市の取組状況などについて整理し、取組の考え方の方向性を示すこととする。

1 世界的スポーツ大会について

ここでは、2つの世界的スポーツ大会、すなわち、平成31（2019）年に開催される「ラグビーワールドカップ2019日本大会」と、その翌年の平成32（2020）年に開催される東京2020大会について、これらの概要とともに、開催に向けての種々の取組についてまとめる。

（1）世界的スポーツ大会の概要

ラグビーワールドカップ2019日本大会は、日本国内12会場で48試合が行われるが、そのうち東京スタジアム（調布市）では、開幕戦を含めた数試合が予定されている。

また、東京2020大会では、オリンピックの競技種目のうち7人制ラグビー、近代五種（水泳・馬術・ランニング・射撃）、サッカーが東京スタジアム（味の素スタジアム）で、近代五種（フェンシング）、バドミントンが武蔵野の森総合スポーツ施設（仮称）で開催され、また、パラリンピックの競技種目うち車椅子バスケットボールが武蔵野の森総合スポーツ施設（仮称）で開催されることとなっている。

図表 1-1 多摩地域で開催される競技種目一覧

大会名	競技種目	開催会場
東京 2020 オリンピック	7人制ラグビー	東京スタジアム
	近代五種（水泳、馬術、ランニング、射撃）	
	サッカー	
	近代五種（フェンシング）	武蔵野の森総合スポーツ施設（仮称）
	バドミントン	
東京 2020 パラリンピック	車椅子バスケットボール	

これら世界的スポーツ大会の概要をまとめたものが、図表 1-2 である。

図表 1-2 世界的スポーツ大会の概要

2019年ラグビーワールドカップ	・名 称：第9回ラグビーワールドカップ2019 ・開催期間：2019年9月20日～11月2日（44日間） ・試合会場：日本全国12会場 ・試合数：48試合 ・開幕戦：東京スタジアム（9月20日） ・参 加：20チーム、1,000人 ・来場者：200万人
2020年東京オリンピック・パラリンピック	・名 称：第32回オリンピック競技大会（2020/東京） ・開催期間：2020年7月24日～8月9日（17日間） ・競技数：33競技 ・名 称：東京2020パラリンピック競技大会 ・開催期間：2020年8月25日～9月6日（13日間） ・競技数：22競技 ・参加者：204の国・地域から15,000人 ・来場者：1,000万人（海外から80～100万人程度）
【参考】 2021年関西ワールドマスタースゲームズ	・2021年9月10日～11月2日（54日間） ・関西広域8府県4政令市 ・30競技約50種目 ・参加者150の国・地域、5万人（うち国外2万人） ・来場者20万人
【参考】 1964年東京オリンピック（第18回オリンピック競技大会）	・1964年10月10日～24日（15日間） ・20競技163種目 ・参加者：93の国・地域から5,152人
【参考】 ロンドン2012大会の実績	・参加する国地域：オリンピック204 パラリンピック164 ・選 手 数：オリンピック10,500人 パラリンピック4,237人 ・チケット販売数：オリンピック880万枚 パラリンピック250万枚 ・チケット売上額：1,041億2,200万円 ・ライブサイト来訪者数：810万人 ・ボランティア数：78,000人 ・テレビ配信された国と地域の数：220 ・テレビ配信の総視聴者数：48億人

(2) ラグビーワールドカップに開催に向けた多摩地域の動向

2019年にラグビーワールドカップ日本大会、2020年に東京2020大会の7人制ラグビーが、東京スタジアム（味の素スタジアム）で開催されることから両大会の成功に向けて気運醸成を図るため、調布市、府中市、三鷹市の3市は、相互に連携し、連携活動組織「ラグビーフェスティバル実行委員会」を立ち上げた。

同委員会は、平成28（2016）年5月28日、ラグビーフェスティバル2016を開催し、府中市内を活動拠点とする東芝ブレイブルーパスとサントリーサンゴリアスの府中ダービーマッチに併せて、観戦イベントを実施し、ラグビーを体験できるコーナーや飲食物の販売などにより、3,000人を集め、気運醸成を図った。

今後、連携によるイベント開催を通じて、両大会の成功に向けて気運醸成を図る活動を実施していく。

(3) 東京2020大会に係る動向

平成25（2013）年9月、東京は2度目のオリンピック・パラリンピックの開催都市と決まった。

前回の1964年の東京大会は、アジアで初めて開催されたオリンピックであり、日本の戦後の復興を世界に示し、その後の高度経済成長を導いた。

来る東京2020大会は、成熟社会における開催であり、東日本大震災の復興を世界に示し、人口減少社会において地方創生、持続可能性が求められている。

そこで、大会の成功に向けて気運醸成を図る取組が行われるとともに、レガシーとして大会後に何をどのように残すか、検討がなされている。

そのうち、主な動きを掲げると、次のとおりである。

■ホストシティ・タウン構想事業

「ホストシティ・タウン構想事業」とは、東京2020大会の開催により多くの選手や観客が来訪することを契機に、全国の地方公共団体と大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに、地域の活性化等を推進することを目的とした構想である。

平成28（2016）年12月の第三次登録の終了時点で、第一次、第二次登録の91件と合わせた登録数は、138件（複数の地方公共団体による共同申請があるため、団体数としては186、相手国・地域数は63）となる。

ホストタウン一覧（2016年12月9日現在）によると、多摩地域では、武蔵野市（ルーマニア）、青梅市（ドイツ）、調布市（サウジアラビア）、町田市（南アフリカ）の4市で登録を受けている。

■事前キャンプ地

「事前キャンプ」とは、各国オリンピック委員会・パラリンピック委員会や、競技団体等が、それぞれの責任と費用負担において独自に場所を確保し、大会前に任意に行うトレーニングキャンプをいう。

自国内はもとより、開催都市だけでなく、開催国各地や近隣国等で実施する。

平成 27（2015）年 4 月の東京都による調査結果によると、26 市中 2 市を除く 24 市において、事前キャンプの誘致について誘致を希望する又は未定としている（1 市は非公表）。

■東京自治会館の活用・4 団体連携事業

多摩地域での東京 2020 大会への気運醸成を図るため、平成 27（2015）年 11 月から、主に東京都市町村職員向けに、東京自治会館を活用した取組を開始した。

この事業は、東京都（オリンピック・パラリンピック準備局）、東京市町村総合事務組合、東京都市長会、東京都町村会の 4 団体連携事業として位置付けている。

事業内容としては、東京自治会館の館内でのオリンピック・パラリンピック競技大会に関連した展示、市町村職員向けのセミナーの開催である。

■ライブサイト 2016

2016 年リオデジャネイロ大会の開催を契機として、気運醸成を図ることを目的として、オリンピック・パラリンピック競技の生中継を無料で観戦し、大会の雰囲気を感じることができるライブサイト（パブリックビューイング）を IOC 公認プログラムとして開催した。上野公園（台東区）のほか、多摩地域では昭和記念公園（立川市）が会場となった。

■東京 2020 オリンピック・パラリンピックフラッグツアー

2016 年リオデジャネイロ大会の閉会式におけるハンドオーバーで、東京都知事がリオデジャネイロ市長から引き継がれた旗（オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグ）が東京都内 62 市区町村を巡回するフラッグツアーを開催し、各地ではフラッグの到着を歓迎するセレモニーと展示を行い、併せて関連イベントを実施することになっている。

なお、フラッグツアーに使用するオリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグは、IOC、IPC から特別に承認を得て、フラッグツアーのために製作したものであり、伝統工芸品「多摩織」の指定産地である、八王子のシルク生地を使用している。

■東京 2020 参画プログラム

「東京 2020 参画プログラム」とは、大会に向けた盛り上がり、レガシー創出に向けて、2020 年までの 4 年間でオールジャパンで取り組む参加型のプログラムである。オリンピック・パラリンピックは、参加することに意義があるという考えのもと、一人でも多くの方が参画（アクション）し、大会をきっかけにしたアクションの成果を未来に継承するレガシーのためのプランとしている。（「東京 2020 大会」「地域」「全国」「未来」の 4 つのつながりをもたらすとしている。）

■ほかに ■文化プログラムの展開

■アーツカウンシル東京「東京地域芸術文化助成」などがある。

(4) 多摩地域 26 市における東京 2020 大会開催に関する取組状況

世界的スポーツ大会開催を控え、観光施策が注目を集めている動きの中、多摩地域の各市では、どのような動きがあるのか、公益財団法人東京市町村自治調査会（以下「自治調査会」という。）の報告書をもとに現状を確認する。

この報告書は、自治調査会が平成 28（2016）年 3 月に公表した「2020 年東京オリンピック・パラリンピックにおける多摩・島しょ地域の可能性と展望に関する調査研究報告書」であり、地域の課題解決につながるレガシーを創出すべく、現状や意向、特性を把握・分析した上で、各市町村が取り組むべき効果的かつ継続可能な実践方策を提案している。

この報告書の中で、多摩・島しょ地域の 39 市町村を対象に、東京 2020 大会に向けた取組体制、取組状況、取組意向等を把握するためのアンケート調査を実施している。

これによると、多摩・島しょ地域では、東京 2020 大会に関する取組を実施済又は実施予定の取組があると回答した市町村が全体の 87.2%を占める。東京 23 区では 95.5%、都外の首都圏市町村では、44.6%である。

具体的な取組としては、「東京五輪の気運醸成・理念普及のためのイベント開催」が最も多く、続いて「オリンピック・パラリンピック教育の推進」、「あらゆる世代がスポーツ・運動をする機会や環境の充実」の順となっている。

また、単独での実施が難しい取組については、広域連携の意向が比較的強い傾向にある。広域連携をする上での問題点・課題としては、「調整に時間がかかる」が最も多い。

住民が東京 2020 大会を通じてアピールしたい地域の魅力については、「運動のできる緑地・広場・公園」「武蔵野らしい原風景・景観」「郷土料理・地元グルメ」の順に多い。地域らしさ、日常生活の中で比較的身近な地域資源を挙げている。

また、外国人旅行者の受入環境については、「あまり進んでいない」の回答が 62.1%で一番多く、「まったく進んでいない」と回答した 16.1%を加えると、78.2%となり、約 8 割が外国人観光客の来訪に配慮したまちづくりが進んでいないと感じていることとなる。

そして、必要な取組としては外国語でのサービス充実、多言語表記、宿泊施設の充実、無料 Wi-Fi 環境の整備を挙げている。

この市町村アンケートによれば、約 6 割の市町村が地域の魅力や文化のアピールについて取り組む意向を有している。また、経済観光分野において活用したい地域資源としては、「地域の恒例イベント・祭りや伝統芸能」「農林水産物特産品」「郷土料理・地元グルメ」が上位となっている。

2 観光について

(1) 国における観光施策の動向

■「観光立国」としての日本

平成 13 (2001) 年に首相に就任した小泉純一郎氏は、平成 14 (2002) 年の通常国会の施政方針演説の中で、歴代の首相としては初めて観光の問題に触れ、平成 15 (2003) 年には「観光立国行動計画」が策定された。

そして、この計画に法的根拠を与えるために、平成 18 (2006) 年に「観光立国推進基本法」ができ、平成 19 (2007) 年、この法律の下の基本計画という形となった。

平成 14 (2002) ～17 (2005) 年に「観光カリスマ」100 人の選定が行われ、また、平成 16 (2004) 年から「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が始まった。

■観光立国推進基本法

平成 18 (2006) 年 12 月 13 日に観光立国推進基本法が議員立法により成立し、平成 19 (2007) 年 1 月から施行された。この法律において、観光は 21 世紀における日本の重要な政策の柱として初めて明確に位置付けられた。

【観光立国推進基本法の概要】

- 1 昭和 38 (1963) 年に制定された旧「観光基本法」の全部を改正し、題名を「観光立国推進基本法」に改め、観光を 21 世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置付けている。
- 2 観光立国の実現に関する施策の基本理念として、地域における創意工夫を生かした主体的な取組みを尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要である という認識の下に施策を講ずべきこと等を定めている。
- 3 政府は、観光立国の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「観光立国推進基本計画」を定めることとしている。
- 4 国は、基本的施策として、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成、観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成、国際観光の振興、観光旅行の促進のための環境の整備に必要な施策を講ずることとしている。

【観光立国推進基本法前文】

観光は、国際平和と国民生活の安定を象徴するものであって、その持続的な発展は、恒久の平和と国際社会の相互理解の増進を念願し、健康で文化的な生活を享受しようとする我らの理想とするところである。また、観光は、地域経済の活性化、雇用の機会の増大等国民経済のあらゆる領域にわたりその発展に寄与するとともに、健康の増進、潤いのある豊かな生活環境の創造等を通じて国民生活の安定向上に貢献するものであることに加え、国際相互理解を増進するものである。

我らは、このような使命を有する観光が、今後、我が国において世界に例を見ない水準の少子高齢社会の到来と本格的な国際交流の進展が見込まれる中で、地域における創意工夫を生かした主体的な取組を尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の実現を促進し、我が国固有の文化、歴史等に関する理解を深めるものとして

その意義を一層高めるとともに、豊かな国民生活の実現と国際社会における名誉ある地位の確立に極めて重要な役割を担っていくものと確信する。

しかるに、現状をみるに、観光がその使命を果たすことができる観光立国の実現に向けた環境の整備は、いまだ不十分な状態である。また、国民のゆとりと安らぎを求める志向の高まり等を背景とした観光旅行者の需要の高度化、少人数による観光旅行の増加等観光旅行の形態の多様化、観光分野における国際競争の一層の激化等の近年の観光をめぐる諸情勢の著しい変化への的確な対応は、十分に行われていない。これに加え、我が国を来訪する外国人観光旅客数等の状況も、国際社会において我が国の占める地位にふさわしいものとはなっていない。

これらに適切に対処し、地域において国際競争力の高い魅力ある観光地を形成するとともに、観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成、国際観光の振興を図ること等により、観光立国を実現することは、二十一世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題である。

ここに、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する。

■明日の日本を支える観光ビジョン―世界が訪れたくなる日本へ―

国は、平成 27（2015）年 11 月に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を開催し、次の時代の新たな目標と、そのために必要な対応の検討を行い、その結果として、平成 28（2016）年 3 月 30 日に、「明日の日本を支える観光ビジョン」（以下「観光ビジョン」という。）をとりまとめた。

観光ビジョンでは、我が国は、「自然」「文化」「気候」「食」という観光振興に必要な 4 つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであるとし、これらの豊富な観光資源を真に開花させることにより、裾野の広い観光を一億総活躍の場とすることが可能であり、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟が必要である、としている。

観光立国の本格的な取組が始まった平成 15（2003）年に 512 万であった訪日外国人旅行者数は、平成 25（2013）年に 1,036 万人、26（2015）年は 1,974 万人と 4 倍近くにまで増加しており、訪日外国人旅行者数 2,000 万人というこれまでの目標を達成する状況を踏まえ、観光ビジョンでは、従来の政府目標を大幅に前倒しし、かつ、質の高い観光交流を加速させるべく、新たな目標を設定した。

○訪日外国人旅行者数	2020 年：4,000 万人	2030 年：6,000 万人
	（従来目標：2020 年 2,000 万人 2030 年 3,000 万人）	
○訪日外国人旅行消費額	2020 年：8 兆円	2030 年：15 兆円
	（従来目標：2,000 万人が訪れる年に 4 兆円）	
○地方部（三大都市圏以外）での外国人延べ宿泊者数	2020 年：7,000 万人泊	2030 年：1 億 3,000 万人泊
○外国人リピーター数	2020 年：2,400 万人	2030 年：3,600 万人
○日本人国内旅行消費額	2020 年：21 兆円	2030 年：22 兆円

そして、「めざせ！「観光先進国」として、すなわち、全国津々浦々その土地ごとに、日常的に外国人旅行者をもてなし、我が国を舞台とした活発な異文化交流が育まれる、真に世界へ開かれた国を目指すとしている。

また、平成 27（2015）年の訪日外国人旅行者による旅行消費額は、約 3.5 兆円となっている。これは、自動車部品の輸出額に匹敵するものであり、訪日外国人旅行者による消費は日本経済を下支えするものとなっていると言われている。

一方、平成 27（2015）年の国内における旅行消費額約 24.8 兆円のうち、約 82% を占める約 20.4 兆円は、日本人国内旅行者によるものとなっている。全体の旅行消費額から見ると、依然として日本人国内旅行者の存在感は大きい。

■日本版DMOとは（「日本版DMO候補法人登録制度」について）

地域の活性化の実現のためには地域が一体となった経営ができる仕組みと組織が必要との考えから、国（観光庁）は、「広域観光圏」、「観光地域づくりプラットフォーム」と続き、現在は、観光を取り巻く環境の変化の中、新たに「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを担う体制整備に取り組むアプローチとして、「日本版DMOの形成・確立」を推進している。

この「日本版DMO」について、国（観光庁）は次のとおり説明している。

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた「観光地域づくり」を実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人
DMO = Destination Management / Marketing Organization

国（観光庁）は、国内外からの観光客の地域への流れを戦略的に創出し、交流人口の拡大や地域の活性化を図り、観光による地方創生を実現していくためには、観光に関する各種データの継続的な収集・分析、明確なコンセプトに基づいた戦略の策定、KPI（Key Performance Indicator：主要業績評価指標）の設定など、各地域の「稼ぐ力」を引き出す、明確なコンセプトを持った「観光地域づくり」に取り組むことが重要であるとし、また、地域住民の自らの地域への誇りと愛着を醸成する「住んでよし、訪れてよし」の豊かな地域づくりにより、地域住民の地域外への流出を防ぎ、ひいては地域を訪れた観光客の定住の促進につなげていくということは、「地方創生」の実現における観光の重要な役割としている。

DMOは、地方自治体と民間事業者による観光ビジネスの共同体であり、観光地経営を担うための機能と高い専門性を有し、観光行政との役割分担による権限と責任を明確にしたプロフェッショナルな組織である。地域に持続的な経済効果をもたらすために、持続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、地域の観光関連事業者はもとより農林水産業・商工業関係者など観光地域における様々な主体と調整をしながら観光事業を管理・遂行することとなる。

【これまでの観光振興の体制に関する課題】

これまでの我が国の地域における観光振興の体制には、必ずしも効果的な観光地域づくりが十分に進められてきたとはいえなかったとして、次の3つの課題を掲げている。

①多様な関係者の巻き込みが不十分

行政と宿泊業、飲食業等のこれまで一般に「観光関連事業者」とされてきた関係者を中心に観光振興が行われており、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、環境事業等の関連事業者や地域住民等の多様な関係者の巻き込みが十分になされてきていないことから、地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等の地域の幅広い資源を最大限に活用できず、旅行者のニーズの多様化に対応できていない。

また、これからの観光地域づくりに不可欠な地域住民の視点が不十分なため、観光振興の取組に対する地域住民の理解が得られず、観光振興により地域住民の誇りと愛着を醸成するまで至っていない。

②各種データの収集・分析が不十分

自らの地域を訪れる観光客に関する各種データ等の収集・分析が十分に行われていないことから、結果として、「どんな人が」「どこから」「何を求めて」「どうやって」自らの地域を訪れているのか把握できておらず、観光客を十把一絡げに扱っている地域が少なくないというのが現状。このため、自らの地域のターゲットとすべき顧客層や地域のコンセプトが十分に練られておらず、大きく変化している旅行者マーケットに十分に対応できていない。

③民間的な手法の導入が不十分

明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを行うためには、効果的なブランディング・プロモーションといった民間的な手法を取り入れることが必要とされているが、現在の観光振興の体制においては、民間的な手法の導入が不十分となっている。

国（観光庁）は、日本版DMOが有する基礎的な役割・機能（観光地域マーケティング・マネジメント）として、次の3点が必要であるとしている。

- ①日本版DMOを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- ②各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、KPI の設定・PDCA サイクルの確立
- ③関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

そして、観光庁を登録主体として、日本版DMOの候補となり得る法人を「登録」する制度を立ち上げ、登録を行った法人及びこれと連携して事業を行う関係団体に対して関係省庁が連携して支援を行い、日本版DMOの形成・確立を支援している。

観光ビジョンでは、「2020 年までに世界水準DMOを全国で 100 組織形成する」という目標を掲げている。

【「日本版 DMO 候補法人登録制度」の登録要件】

この「日本版 DMO 候補法人登録制度」における登録の要件については、以下のとおりである。

- (1) 日本版 DMO を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成（以下の①～④のいずれかに該当する又は該当する予定であること。）
 - ①取締役、理事など日本版 DMO の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画すること。
 - ②日本版 DMO の組織内に行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置すること。
 - ③日本版 DMO が行う取組に関する連絡調整を行うため、行政や関係団体から構成される協議会等を DMO とは別に設置すること。
 - ④その他、関係者の合意形成が有効に行われる仕組みが存在すること。
- (2) 各種データ等の継続的な収集・分析、データ等に基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、KPI の設定・PDCA サイクルの確立（以下の①～③のすべての取組を日本版 DMO が行う又は行う予定であること。）
 - ①各種データ等の継続的な収集・分析
 - ②データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定（地方公共団体が策定する観光振興計画が存在する場合は、当該計画と戦略との整合性が留意され、当該計画の策定・見直し等への関与がなされること）
 - ③KPI の設定（少なくとも旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率の4項目については必須とする。この他に各日本版 DMO が独自に KPI を設定することも可能）・PDCA サイクルの確立
- (3) 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション（以下の①～③の全ての取組を日本版 DMO が行うこと又は行う予定であること。）
 - ①地域社会とのコミュニケーション・地域の観光関連事業者への業務支援を通じて、戦略を多様な関係者間で共有すること。
 - ②地域が観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制を構築すること。
 - ③観光客に対して地域一体となって戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーションを行うこと。
- (4) 日本版 DMO の組織（以下の①～③の全てに該当すること又は該当する予定であること。）
 - ①法人格を取得していること。
 - ②意思決定の仕組みが構築されていること。※日本版 DMO の業績について対外的に最終的な責任を負う者が明確化されていること。
 - ③専門人材が存在すること。※データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー等）が DMO 専従で最低一名存在していること又は確保する予定であること。
- (5) 安定的な運営資金の確保
 - ◎日本版 DMO が自律的・継続的に活動するための安定的な運営資金が確保される見通しがあること。※資金確保の手段としては、収益事業（物販、着地型旅行商品の造成・販売等）、特定財源（法定外目的税、分担金）、行政からの補助金・委託事業等が想定される。

■「まち・ひと・しごと創生基本方針 2016」「日本再興戦略 2016」

「まち・ひと・しごと創生基本方針 2016」（平成 28 年 6 月 2 日閣議決定）及び「日本再興戦略 2016」（平成 28 年 6 月 2 日決定）においても、観光は「地方創生」の「切り札」として位置付け、日本版 DMO の効果的運用による施策展開を図るとしている。

(2) 東京都における観光振興の取組

■東京都長期ビジョンに基づく取組

東京都は、東京都長期ビジョンに掲げた世界有数の観光都市の実現に向けた取組を進めており、東京 2020 大会とその先を見据えつつ、更に充実強化していくとしている。そして、世界から東京に旅行者を誘致するため、旅行地としての東京を強く印象付ける「東京ブランド」の取組を推進するとともに、MICE 誘致・開催に対する支援により、東京での MICE 開催を拡大させていくとともに、観光案内窓口の充実等により、急増する訪都外国人旅行者の受入環境を着実に整備し、そして更に、多摩・島しょ地域をはじめ、都内各地における観光資源の発掘を後押しし、東京都全域での観光振興に取り組むとした。

※MICE とは、M: Meeting (企業系会議)、I: Incentive (報奨・研修旅行)、C: Convention (国際会議)、E: Exhibition/Event (展示会、イベント等) を総称した造語です。

【東京都の主な観光産業対策（平成 28 年度）】（多摩地域に係る施策を中心として）

1 外国人旅行者誘致の新たな展開

東京に広く世界から旅行者を誘致するために、東京が一体となったブランディングを進めるとともに、効果的で的確なプロモーション活動を実施し、東京の魅力を積極的に国内外にアピールしていく。

2 MICE 誘致の推進

MICE の開催は、多くの外国人旅行者に対し東京の魅力を集中的に PR できる絶好の機会であるとともに、幅広い産業分野への経済波及効果をもたらすものであり、都市としての存在感の向上などにもつながることから、「東京都 MICE 誘致戦略」に基づき、戦略的にプロモーション活動を展開し、東京における MICE 開催を拡大させていく。

3 魅力を高める観光資源の開発

東京が持つ様々な観光資源を生かし、旅行者のニーズを把握しながら、多様な観光資源を複合的に組み合わせ、旅行者を惹きつけるとともに、来訪者の回遊性を高める。

○自然と調和した観光

- ・多摩・島しょ地域観光施設整備等補助事業
- ・多摩・島しょ魅力発信事業
- ・多摩・島しょ旅行商品造成・販売支援事業
- ・多摩・島しょ地域内観光交通支援事業

○観光まちづくり

- ・東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業

○地域資源発掘型実証プログラム事業

など

■「2020 年に向けた実行プラン」における観光産業振興の動き

平成 28 (2016) 年 12 月、東京都は、東京 2020 大会成功と、それを梃子とした、東京・日本の持続的成長に向けて都政を進めていくために、平成 29 (2017) 年度から平成 32 (2020) 年度までの新たな 4 か年の実施計画として、「2020 年に向けた実行プラン」を策定した。この実行プランは、「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」を実現し、新しい東京をつくるための今後の都政の具体的な政策展開を示す計画としている。

この実行プラン中、「世界に開かれた、人々をひきつける、国際・観光都市になろう」において、4か年の政策展開として次の7つを定めている。

政策展開1：東京の魅力発信と観光プロモーションの効果的な展開

政策展開2：消費拡大に向けたインバウンド対応力の向上

政策展開3：多言語対応の推進

政策展開4：外国人旅行者の受入環境の向上

政策展開5：集客力が高く良質な観光資源の開発

政策展開6：MICE 誘致の新たな展開

政策展開7：東京のプレゼンス向上

また、この実行プランでは、「多摩・島しょの振興」について、「活気ある東京をつくっていくためには、東京の人口の3分の1、面積では3分の2を占める多摩・島しょ地域の発展が欠かせない。多摩・島しょの振興においては、それぞれの地域が持つ特性や課題に的確に対応する取組を展開しなければならない」とし、「分野横断的な政策の展開」の項目の一つとして、次のような政策展開を定めている。

政策展開1：多摩地域の強みを生かした産業の展開と実情に即した雇用対策

政策展開2：農林水産業の更なる発展と魅力の強化・発信

政策展開3：多摩・島しょにおける観光振興

～魅力を生かした観光資源の創出と効果的な情報発信

～外国人をはじめとする旅行者等の受入環境の整備

～多摩地域における MICE 開催の推進

政策展開4：多摩・島しょ地域の豊かな自然環境の保全

政策展開5：地域資源を生かした文化政策の推進

政策展開6：スポーツの振興

～東京2020大会とラグビーワールドカップ 2019を活かした地域活性化等

■「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2017～」の策定

東京都は、観光を巡る急速な環境の変化に迅速かつ的確な対応を図るため、中長期的な視点に立ち、総合的かつ体系的な施策の展開を目指し、「東京都観光産業振興実行プラン」を策定することとし、平成 29（2017）年 1 月 27 日に「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2017～」を公表した。

この「実行プラン 2017」では、国内外からの旅行者数に加えて、新たに外国人リピーター数や消費額をプランの総合目標として設定している。

○訪都外国人旅行者数	2020 年：2,500 万人	2024 年：3,000 万人
○外国人リピーター数	2020 年：1,500 万人	2024 年：1,800 万人
○訪都外国人消費額	2020 年：2 兆 7,000 億円	
○訪都国内旅行者数	2020 年：6 億人	
○訪都国内旅行者消費額	2020 年：6 兆円	

この「実行プラン 2017」は、観光産業振興に向け、取組の柱となる 6 つの戦略を示し、具体的な施策を展開するとしている。(多摩地域に係る主な施策展開を付記)

- 1 消費拡大に向けた観光経営
- 2 集客力が高く良質な観光資源の開発
～多摩・島しょの自然や農林水産業、自然公園を活用した観光振興
～協議会による観光振興の企画を検討し、実現を図る取組をサポート
- 3 観光プロモーションの新たな展開
- 4 MICE 誘致の新たな展開
～多摩地域での MICE 開催に向けた地域の取組を支援
- 5 外国人旅行者の受入環境の向上
～多摩地域での観光情報センター機能の整備
- 6 日本各地と連携した観光振興

図表 1-3 国のプランの目標

国 の 目 標	2015 年	2020 年目標	2030 年目標
訪日外国人旅行者	1,974 万人	4,000 万人	6,000 万人
訪日外国人消費額	3.5 兆円	8 兆円 20 万円/人	15 兆円 25 万円/人
地方部での外国人宿泊者数	6,640 万人泊	7,000 万人泊	1 億 3,000 万人泊
外国人リピーター数	—	2,400 万人	3,600 万人
日本人国内旅行消費額	20.7 兆円	21 兆円	22 兆円
訪日外国人旅行者数の内訳 (2015 年)	アジア系 (83%) : 中国 25%・韓国 20%・台湾 19%・香港 8%・ その他アジア 11% 欧米その他 (17%) : 北米 6%・欧州主要 4%・その他 7%		

図表 1-4 東京都のプランの目標

東 京 都 の 目 標	2015 年	2020 年目標	2024 年目標
訪都外国人旅行者(年間)	1,189 万人	2,500 万人 2015 年の約 2 倍	3,000 万人
外国人リピーター数(年間)	—	1,500 万人 訪都外国人旅行者の 60%	1,800 万人
訪都外国人消費額(年間)	1 兆 1,150 億円	2 兆 7,000 億円 2015 年の約 2.4 倍	—
訪都国内旅行者数	5 億 1,670 万人	6 億人	—
訪都国内旅行者消費額	4 兆 8,470 億円	6 兆円	—

図表 1-5 観光を取り巻く現状

※平成 28 年 11 月 24 日東京都資料などを参考に作成

世界の旅行者数の推移（今後の予測） 出典：「Tourism Highlights 2016 Edition」 （世界観光機関）	・全世界の旅行者数は増加傾向にあり、2010 年には約 9.5 億人に達している。 ・2030 年には約 18.1 億人と、2010 年の 2 倍程度に増加することが予測されている。
訪日外国人旅行者数の推移 出典：日本政府観光局（JNTO）	・訪日外国人旅行者数はこの 10 年間で約 3 倍に増加 ・平成 17 年 673 万人（うちアジアから 463 万人） ⇒平成 27 年 1,974 万人（うちアジアから 1,665 万人） ・2016 年の訪日外国人旅行者数は 10 月までの累計で 2,000 万人を突破
国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳（2015 年） 出典：日本政府観光局（JNTO）	・2015 年の訪日外国人旅行者の内訳は、中国 25%、韓国 20%、台湾 19%などのアジアからの旅行者が全体の 84% を占める。
外国人旅行者受入数の国際比較（2015 年） 出典：「外国人旅行者受入数の国際比較（2015 年）」（観光庁）	・2015 年の日本における外国人旅行者受入数は 1,974 万人で、世界で 16 位（アジアで 5 位） ・空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較（2014 年）2014 年の日本における空路・水路の受入数は 1,341 万人で、世界で 14 位（アジアで 6 位） ・世界の観光先進国であるイギリスやイタリアも空路・水路による受入数は 2,000 万人台
日本人出国者数の推移	・2015 年の日本人出国者数が 1,621 万人となり、1970 年以来 45 年ぶりに訪日外客数を下回った。
訪都旅行者数の推移 出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）	・2015 年の訪都外国人旅行者数は約 1,189 万人で、この 10 年間で約 2.6 倍に増加。 ・訪都国内旅行者数も増加傾向にあり、2015 年は過去最高の約 5 億 1,670 万人
訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域（2015 年） 出典：「平成 27 年度国別外国人行動特性調査報告書」（東京都）	・訪都外国人旅行者が多く訪れた地域は、①新宿・大久保 57.7、②浅草 49.9、③銀座 48.9、④秋葉原 43.9、⑤渋谷 40.3 の順で、都心部が中心となっている。 ・都心部と比べ、多摩・島しょ部への送客（⑮吉祥寺・三鷹 6.4、⑯八王子・高尾山 2.8、⑳伊豆諸島・小笠原諸島 0.9）は進んでいない。

国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2015 年） 出典：「訪日外国人の消費動向 平成 27 年次報告書」（観光庁）	・ 訪日外国人旅行者の約 5 割はリピーターが占める。 ・ リピーター率の高い国・地域は、香港(80.5%)、台湾(77.8%)、シンガポール(65.3%)である。 ・ 一方、中国は初めて訪日する旅行者が 72.5%で、新規訪日客が多い。
国際旅行収支の推移 出典：「国際収支統計」（財務省）	・ 国際旅行収支は恒常的に赤字が続いていたが、2015 年は 1962 年以来 53 年ぶりに黒字化を達成 ・ 国際旅行収支額： 平成 8 年△35,880 億円⇒平成 27 年 10,905 億円
訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移 出典：「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）、「東京都観光客数等実態調査」（東京都）	・ 2015 年の訪日外国人による消費額は約 3.5 兆円 (平成 23 年 8,135 億円⇒平成 27 年 34,771 億円) ・ 訪都外国人による消費額は約 1.1 兆円 (平成 23 年 3,130 億円⇒平成 27 年 11,150 億円) ・ 2015 年の訪都日本人旅行者による消費額は約 4.8 兆円で、2011 年以降は増加傾向 (平成 23 年 40,781 億円⇒平成 27 年 48,465 億円)
国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合（2015 年）	・ アジアからの旅行者の消費額は、約 2 兆 8411 億円で全体の 8 割を占めた。 ・ 国・地域別では、中国が初めて 1 兆円を超え、総額の 4 割を占めた。
国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位 10 位（2015 年）	・ 中国などアジアからの旅行者は買物代の消費が多く、欧米豪は宿泊料金や交通費の消費が多い。
訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移 出典：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）、「東京都観光客数等実態調査」（東京都）	・ 2015 年までは訪日・訪都ともに外国人一人当たりの旅行消費額は増加傾向 ・ 2016 年 1 月から 9 月の訪日外国人一人当たりの旅行消費額は前年より減少し、約 15 万 9000 円 ・ 訪日外国人一人当たりの旅行消費額は、 平成 22 年 13.3 万円⇒<u>平成 27 年 17.6 万円</u> ・ 訪都外国人一人当たりの旅行消費額は、 平成 22 年 7.7 万円⇒平成 27 年 9.4 万円

都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移 出典：「宿泊旅行統計調査（観光庁）」	・2015年の都内延べ外国人宿泊者数は約1,756万人であり、2011年から増加傾向 ・2015年の都内ホテルの稼働率は約8割に達しているが、旅館の稼働率は約6割に留まる。 ・都内延べ外国人宿泊者数： 平成23年565万人⇒平成27年1,756万人(3.1倍) ・客室稼働率： 平成27年都内ホテル83%⇔都内旅館59%
都内宿泊施設数・客室数の推移 出典：「衛生行政報告例（年度報）」（厚生労働省）	・ホテル・旅館の施設数はやや減少傾向にあるが、2015年度はそれぞれ682施設・1,209施設と前年度に比べ微増となっている。 ・一方、客室数は増加傾向にあり、2010年度と2015年度を比べると、ホテルは約4,500室・旅館は約6,400室増加している。 ・都内ホテル客室数： 平成22年度95,642室⇒平成27年度100,122室 ・都内旅館客室数： 平成22年度42,794室⇒平成27年度49,164室
世界各都市における国際会議の開催件数の推移 出典：「国際会議統計」（日本政府観光局）、UITA（国際団体連合）資料	・東京における国際会議の開催件数は、この10年間で約4.3倍(249件)と増加しているが、依然として競合都市であるシンガポール(736件)やソウル(494件)等に後れを取っている。 ・東京：平成18年58件(30位)⇒平成27年249件(6位)
訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷 出典：「東京都観光客数等実態調査」（東京都）詳細数値調査中	・旅行者が観光情報を収集する主な手段は、ガイドブックなどの紙媒体から、リアルタイムで情報を容易に入手できるインターネットへと移行している。
外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2015年） 出典：「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」（総務省、観光庁）	・訪日旅行中に「最も困ったこと」、「困ったこと」の第一位はいずれも無料公衆無線LAN環境 ・困ったこと：46.6%・最も困ったこと：30.2%
西多摩地域の入込観光客数の推移 出典：「西多摩地域観光入込客調査報告書」（西多摩地域広域行政圏協議会）	・訪都旅行者全体の数が増加しているなか、西多摩地域への旅行者数はこの約10年間でわずか6%の増加に留まっている。 ・平成13年772万人⇒平成24年819万人
伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移 出典：「伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書」（東京都）	・島しょ地域への旅行者数は、昭和48年をピークに長年に渡り低迷しており、依然としてピーク時の3割程度の旅行者数に留まっている。 ・昭和48年137万人⇒平成27年45万人

(3) 多摩地域における観光施策に関する動きについて

多摩地域における観光施策に関して、現在の各市の動きや、取組の可能性について、2つの調査結果から概観する。

■東京都市長会による26市対象の「観光振興施策等に関するアンケート調査」

今回の政策提言に当たり、多摩地域26市を対象に行った「観光振興施策等に関するアンケート調査」の結果、現在、観光振興計画を策定している市は、26市中9市(34.6%)であるが、実際に取り組まれている観光振興事業は、26市すべての市で行われ、62事業ある。各市何らかの観光振興事業に取り組んでいることがわかった。

一方、シティプロモーションに関する基本方針等を策定している市は、現在、26市中6市(23.1%)であるが、シティプロモーション事業に取り組んでいる市は、26市中22市(84.6%)である。4市を除き、何らかのシティプロモーション事業に取り組んでいることがわかった。

また、各市の市域にどのような地域資源があるかとの質問に対して、26市すべての市から回答があり、1,203の地域資源が挙げられた。

各市における観光振興に関する取組等の詳細については、第2章で記述する。

■多摩信用金庫経営戦略室地域経済研究所のレポート「多摩けいざい」

多摩信用金庫経営戦略室地域経済研究所がまとめたレポート「多摩けいざい」(2016年4月発行)では、多摩地域のインバウンドの動向について、「目的地型」と「経由地型」の2つに分類している。

旅行プランの中にメインとして組み込まれるような名所のことを「目的地型」とし、目的地から目的地へ移動する間の宿泊施設などの立ち寄り地として多く利用される場所を「経由地型」としている。

この視点から多摩地域を見ると、吉祥寺など一部の外国人旅行者が多く訪れる地域はあるものの、全体としては多摩地域が目的地となることはまだ少ないようだとのことである。

しかしながら近年、外国人旅行者の旅行スタイルに変化が見られ、プラスの要因もあるとのことである。

レポートでは、JTB総合研究所の研究員の話として、

「外国人旅行者の旅行スタイルは変わってきている。団体よりも個人の割合が増え、リピーターも増えてきている。それに伴い、観光地訪問ばかりでなく、日本人の日常生活に触れたい、日本の自然を楽しみたいなどの目的が多様化し、地方に分散している傾向がある。」

と紹介し、多摩地域が選ばれるチャンスも、今後増加していくものと思われるとしている。

3 多摩地域において観光に取り組む意義

次に、多摩地域において、なぜ「観光地域づくり」なのか。「観光地域づくり」に取り組む意義について、明らかにする。

(1) 多摩地域における人口の動向と観光振興

■多摩地域における人口の動向

平成 28（2016）年 10 月 26 日、総務省から平成 27（2015）年 10 月に実施された国勢調査の集計結果が公表された。全国の人口は、1 億 2,709 万 4,745 人で、大正 9 年の調査開始以来、初めての減少（平成 22（2010）年から 0.8%減）となった。

東京都の人口は、1,351 万 5,271 人で、人口増加率 2.7%増は、全国で沖縄県に次いで 2 位であった。人口増加は、東京都を含め 8 都県であり、一方、人口減少は、今回増加から減少に転じた大阪府を含め 39 道府県であった。

多摩 26 市（東京市部）の人口は、415 万 7,706 人で、平成 22（2010）年からの人口増加率は 2.74%増であった。平成 17（2005）年から 22 年の人口増加率が 3.2%増であったことから、増加率は減少している。

市ごとに見てみると、前回調査と比べて人口が増加したのは、日野市が 6,231 人、武蔵野市が 5,996 人、調布市が 5,468 人それぞれ増加するなど、17 市で増加である。増加率では、武蔵野市（4.32%）日野市（3.46%）稲城市（3.30%）の順で高い。

一方で、前回調査時と比べて減少した市は、今回初めて減少に転じた八王子市（△0.44%）立川市（△1.88%）東村山市（△2.35%）の 3 市を始め 9 市であり、減少数の多い順では、東村山市が 3,601 人、立川市が 3,373 人、八王子市が 2,540 人である。

図表 1-6 多摩地域の人口（国勢調査（総務省）による）

	平成 27(2015)年 人 口(人)	平成 22(2010)年 人 口(人)	平成 22 年～27 年の 人口増減数(人)	平成 22 年～27 年の 人口増減率(%)
東京都	13,515,271	13,159,417	355,854	2.70
市部	4,157,706	4,127,157	30,549	2.74
郡部	84,825	86,565	-1,740	-2.01
特別区部	9,272,740	8,945,695	327,045	3.66
八王子市	577,513	580,053	-2,540	-0.44
立川市	176,295	179,668	-3,373	-1.88
武蔵野市	144,730	138,734	5,996	4.32
三鷹市	186,936	186,083	853	0.46
青梅市	137,381	139,339	-1,958	-1.41
府中市	260,274	255,506	4,768	1.87
昭島市	111,539	112,297	-758	-0.67
調布市	229,061	223,593	5,468	2.45
町田市	432,348	427,016	5,332	1.25
小金井市	121,396	118,852	2,544	2.14

小平市	190,005	187,035	2,970	1.59
日野市	186,283	180,052	6,231	3.46
東村山市	149,956	153,557	-3,601	-2.35
国分寺市	122,742	120,650	2,092	1.73
国立市	73,655	75,510	-1,855	-2.46
福生市	58,395	59,796	-1,401	-2.34
狛江市	80,249	78,751	1,498	1.90
東大和市	85,157	83,068	2,089	2.51
清瀬市	74,864	74,104	760	1.03
東久留米市	116,632	116,546	86	0.07
武蔵村山市	71,229	70,053	1,176	1.68
多摩市	146,631	147,648	-1,017	-0.69
稲城市	87,636	84,835	2,801	3.30
羽村市	55,833	57,032	-1,199	-2.10
あきる野市	80,954	80,868	86	0.11
西東京市	200,012	196,511	3,501	1.78
西多摩郡	58,334	58,750	-416	-0.71

■観光交流人口増大の経済効果

国（観光庁）の資料（「魅力ある観光地域づくり」（平成 29 年 2 月 14 日））によると、図表 1-7 のとおり、1 人当たりの年間消費額は、125 万円である。

一方、旅行消費額は、訪日外国人旅行では、訪日外国人旅行者 1,974 万人で 3.5 兆円であり、1 人 1 回当たりの消費額は 17 万 6,167 円となる。また、国内旅行では国内旅行者のうち宿泊が 3 億 2,199 万人、日帰りが 2 億 9,173 万人、計 6 億 472 万人で 20.4 兆円（うち宿泊が 15.8 兆円、日帰りが 4.6 兆円）であり、1 人 1 回当たりの消費額は宿泊が 5 万 520 円、日帰りが 1 万 5,758 円となる。

これらのことから、定住人口 1 人当たりの年間消費額（125 万円）は、旅行者の消費に換算すると、外国人旅行者 8 人分、国内旅行者（宿泊）で 25 人分、国内旅行者（日帰り）で 80 人分にあたる。

図表 1-7 観光交流人口増大の経済効果(2015 年)（観光庁資料による）

定住人口＝1 億 2,711 万人 1 人当たり年間消費額＝125 万円		定住人口 1 人減少分
旅行消費額 訪日外国人旅行：3.5 兆円	国内旅行者(海外分を除く)20.4 兆円 宿泊 15.8 兆円/日帰り 4.6 兆円	外国人旅行者 8 人分 又は 国内旅行者(宿泊) 25 人分 又は 国内旅行者(日帰り) 80 人分
旅行者数 訪日外国人旅行者 1,974 万人 (延べ人数)	国内旅行者(宿泊＋日帰り) 6 億 472 万人 (延べ人数) 宿泊 3 億 2,199 万人 /日帰り 2 億 9,173 万人	
1 人 1 回当たり消費額 17 万 6,167 円	1 人 1 回当たり消費額 宿泊 5 万 520 円/日帰り 1 万 5,758 円	

【図表 1-7（出典：観光庁資料『魅力ある観光地域づくり』平成 29 年 2 月）の脚注から】

* 定住人口は 2015 年国勢調査 人口速報集計結果（総務省）、定住人口 1 人当たり年間消費額は 2015 年家計調査（総務省）による。

* 旅行消費額の訪日外国人旅行は訪日外国人消費動向調査（2015 年）より算出、国内旅行は旅行・観光消費動向調査（2015 年）から算出

* 訪日外国人旅行者は JNTO（2015 年）発表数値、国内旅行者は旅行・観光消費動向調査（2015 年）より算出

* 訪日外国人旅行者 1 人 1 回当たり消費額は訪日外国人消費動向調査（2015 年）、国内旅行者（宿泊/日帰り）1 人 1 回当たり消費額は旅行・観光消費動向調査（2015 年）より算出

* 定住人口 1 人減少分に相当する旅行者人数は、定住人口 1 人当たり年間消費額を訪日外国人旅行者又は国内旅行者 1 人 1 回当たり消費額で除したもの（観光庁資料）

■多摩地域における「観光振興」のもつ意義

前述のように、現在のところ、多摩地域においては全体としては人口減少に至っていないものの、既に人口減少局面に入った市もあり、人口減少社会への流れは着実に多摩地域にも到来している。

定住人口が年間 100 人単位で減少すると、それだけで年間 1 億円単位の消費額が地域内から失われていることとなり、定住人口 100 人の減少による年間消費額の減少分を旅行者の消費額で補うとすると、外国人旅行者であれば 800 人を誘客し、宿泊の国内旅行者であれば 2,500 人、日帰りの国内旅行者であれば 8,000 人を地域内に誘客することとなる。

このように、年々減っている定住人口分の消費を補うために、地域外からの外貨獲得手段として、観光振興が全国的に推進されている。

多摩地域においても、定住人口の減少局面に備え、地域内の消費額減少が地域経済に与える影響への対応を考えると、今からそれに相応した対応としての観光振興を、戦略的に取り組むことが必要であると考え。

（2）新たな「観光地域づくり」の考えと多摩地域における取組

■観光の新たなステージとその対応

わが国は、「世界が訪れたくなる日本」という新たなステージへと進んでいくことを目指しており、今後、訪日外国人旅行者数を増やすのみならず、旅行者の滞在日数を伸ばし、消費額を増大させるとともに、旅行者の満足度を高め、リピーターを増やしていく施策を実施していくこととなる。

訪日外国人旅行者が急激に増加し、旅行市場が大きく変化している中、各地域では、旅行者ニーズに柔軟かつ的確に対応することが重要とされ、その対応が求められている。

すなわち、これまでの地域における観光振興とは異なり、自らの地域を訪れる観光客に関するデータの収集・分析を十分にを行い、自らの地域がターゲットとすべき顧客層や地域のコンセプトを十分に練ることが求められている。

そして、これには、多様な関係者を巻き込んだ観光振興の体制を構築し、地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等の地域の幅広い資源を最大限に活用し、旅行者のニーズの多様化に対応する、新たな発想による「観光地域づくり」の取組が必要となる。

幸い、多摩地域は、自然・文化・気候・食という観光振興に必要な4つの条件を兼ね備え、豊富な地域資源が各市に存在し、観光分野で成長していくポテンシャルを有している。そこで、このポテンシャルを発揮させるために、誇りを持って地域資源を磨き上げ、真に開花させ、その価値を日本人にも外国人にも伝える努力を、多摩地域全体で、「観光地域づくり」として推進することとする。

■新たな地域資源の発見・再認識

これまでの観光は、「非日常的な資源」すなわち、自然景観やイベントなど、それ自身珍しいものを対象とした「観光」(sightseeing)であり、その地域の生活文化とは直接的な関連を持たないものが対象であった。

これからの観光は「異日常的な資源」すなわち、地域住民にとっては日常的な活動であるが、地域外の者(来訪者)にとっては、珍しく、体験してみたいと感じられるもので、例えば、田植え、地引網、蕎麦打ちなどを活用した「観光」(tourism)が求められるという。特に、訪日外国人の観光ニーズとしては、日本らしさに触れることができる文化体験などの人気は高まり、「モノ消費」(＝買い物中心)から「コト消費」(＝体験中心)へと移っていると言われる。

「異日常的な資源」は、地域住民にとって日常的なものであるため、その価値に気付きにくい。したがって、地域外の者によって観光振興、集客交流という視点から見て初めて、価値のある地域資源として発見されることが多い。また、観光を切り口とした、新たな地域資源の発見(再認識・再編集)と集客数の増加は、地域の住民に誇りと自信をもたらすとともに、地域経済の自立につながるという。

このような「観光」の転換は、多摩地域の地域資源を生かし、新たな観光資源として位置付け、開発することが可能となると考える。この点において、平成27年度東京都市長会政策提言「多摩地域における誇るべき生活文化とは」にあるように、多摩地域には誇ることのできる「生活文化」が、身近なところにある。これらも、多摩地域が一体で取り組む際の参考としたい。

(3) 物産展について

多摩地域が一体となって取り組むことを検討するに当たり、参考になる事例として、平成28(2016)年5月20日(金)に、全国市長会関東支部の総会開催時に併催した物産展がある。

この物産展の目的は、全国市長会関東支部の総会を開催するに当たり、総会へ出席するため関東各県から集まる市長らに対して、物産を通して東京の多様な魅力をPRし、その販売によって各市区の産業活性化及びまちの魅力の発信に資することである。同日は9時から13時ごろまで、ハイアットリージェンシー東京の地下1階「クリスタルルーム」にて開催した。

この物産展開催後に、出展した各市へアンケート調査を行ったところ、次のような意見があった。

- ・市の名産品を通じて関東の区市長及び自治体職員にPRするとともに、他の区市の名産品や交流を深めることで新しい活動に発展できると考えて出展したが、実際に、他の自治体との交流や情報交換ができ、名産品や工芸品を知ることができた。
- ・他の自治体の物産の開発方法やPR方法を知り、観光マップ、チラシ等を見ることができ、今後の活動の参考になった。
- ・都内各所の名産品・特産品が集まることは、貴重な機会であるので、デパートなど一般の方にも多くの方々に来場いただけると良いのではないかと思います。
- ・今後の開催に期待している。次回開催する際も声をかけてほしい。

このように、今回の物産展開催を通じて、各市が一体となって取り組む機会を求める声があることが、明らかになった。

4 本提言では

本提言では、本章で整理した国、東京都、多摩地域の各市等の動きを踏まえ、次章以下において、多摩地域の26市が互いの魅力を共有し、磨きあい、高め合うとともに、協調して、更なる発展に向けて多摩地域が一体となって取り組む「観光地域づくり」について、アンケート調査（第2章）や、先行事例調査（第3章）を参考にし、その目的・目標や手段を明確にしつつ、提言（第4章）する。

第2章 多摩地域における観光振興施策 等の現状及び学生の地域活動に 関する意識調査

—多摩地域26市における地域資源の活用状況等及び観光地域づくりの担い
手となる学生の意識について—

多摩地域において観光地域づくりを進めるには、まず、多摩地域の観光の現状を把握する必要がある。

そこで、本章の前半では、多摩地域 26 市に対して行った「観光振興施策等に関するアンケート調査」の結果をもとに、豊かな緑や自然、特産品、伝統文化、産業、大学など、現在、多摩地域にどのような地域資源が存在するのか整理するとともに、多摩地域 26 市の観光振興施策等の現状や課題を明らかにする。

また、観光地域づくりを進めていくためには行政だけでなく、企業、大学、民間団体、住民等の多様な主体による参画・連携が必要となるが、多摩地域には大学生をはじめ多くの学生が存在している。柔軟な発想力や行動力、発信力を持つ学生を観光地域づくりの担い手として活用することはできないだろうか。

そこで、本章の後半では、学生を対象とした「多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査」の結果に基づき、学生の地域活動に対する意識や参画への動機付けなどについて考察する。

第 1 節 観光振興施策等に関する取組状況（26 市アンケート結果から）

1 「観光振興施策等に関するアンケート調査」の概要

多摩地域の 26 市を対象に、各市に存在する地域資源や、観光振興施策の取組、観光振興、産業振興分野における大学や民間企業等との連携、学生の市政参画等について明らかにするため、「観光振興施策等に関するアンケート調査」を行った。

調査の概要は、図表 2A-1 のとおりである。

図表 2A-1 観光振興施策等に関するアンケート調査の概要

■ 調 査 目 的	多摩地域が一体となった観光地域づくりに向けて、各市の地域資源、観光振興施策の取組等を集約、整理する。
■ 調 査 対 象	多摩地域の市（26 市）
■ 調 査 方 法	電子メールによる回収
■ 調 査 時 期	平成 28 年 9 月
■ 調 査 概 要	・各市の地域資源 ・観光振興施策の取組 ・観光振興・産業振興分野における大学や民間企業等との連携 ・学生の市政参画について
■ 有 効 回 答 数	26 市（100%）
■ 調 査 内 容	アンケートの単純集計結果及び調査票は、資料編参照

2 地域資源について

問 1-1「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」という質問に対しては、各市からそれぞれ回答があり、8 分類総計で 1,203 の地域資源が挙げられた。分類ごとの地域資源の数は図表 2A-2、詳細は資料編にある一覧表のとおりである。

図表 2A-2 多摩地域における地域資源の分類ごとの数

分 類 名	内 容	地域資源の数
自 然 資 源	森、林、里山、川、湖、農地、希少生物、身近な生物等	189
歴 史 資 源	遺跡、文化財、歴史的建造物、郷土出身者（故人）等	218
文 化 資 源	伝承文化、伝統芸能、民話、祭、生活文化、イベント等	259
都 市 資 源	建築物、施設、家屋、市街地、公園、街路、景観等	201
人 的 資 源	技能者、技術者、研究者、郷土出身者（生）等	82
情 報 資 源	研究成果、知財等	40
特 産 資 源	農林水産物、加工品等	126
産 業 資 源	地場産業、伝統産業、地元の有力企業、市における基幹産業、工業製品等	88

問 1-2「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、現在、貴市で最も活用されている地域資源をご記入ください。（3 つまで）」、問 1-3「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、今後、貴市が積極的に活用したいとお考えの地域資源をご記入ください。（3 つまで）」という質問に対する回答を集計したものが、図表 2A-3 である。

図表 2A-3 現在最も活用している資源及び今後活用したい資源

◎問 1-2「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、現在、貴市で最も活用されている地域資源をご記入ください。（3 つまで）」						
◎問 1-3「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、今後、貴市が積極的に活用したいとお考えの地域資源をご記入ください。（3 つまで）」						
※色付きは新たに活用したい資源						
	現在最も活用している資源			今後活用したい資源		
八 王 子 市	明治の森高尾 国定公園	滝山城跡	高尾 599 ミュ ージウム	明治の森高尾 国定公園	滝山城跡	高尾 599 ミュ ージウム
立 川 市	サンサンロード	国営昭和記念公 園	-	ファーレ立川	-	-
武 蔵 野 市	井の頭自然文化 園	武蔵野プレイス	吉祥寺の各商業 施設	井の頭自然文化 園	武蔵野プレイス	吉祥寺の各商業 施設
三 鷹 市	三鷹の森ジブリ 美術館	国立天文台	井の頭恩賜公園	三鷹の森ジブリ 美術館	国立天文台	井の頭恩賜公園
青 梅 市	御岳山	塩船観音寺	小澤酒造	梅の公園	赤塚不二夫会館	岩蔵温泉郷
府 中 市	くらやみ祭	大國魂神社	郷土の森博物館	くらやみ祭	大國魂神社	郷土の森博物館
昭 島 市	深層地下水 100%の水道水	アキシマクジラ	拝島日吉神社例 大祭榊祭り	深層地下水 100%の水道水	拝島ねぎ	拝島日吉神社例 大祭榊祭り
調 布 市	深大寺	調布花火	東京スタジアム	深大寺	東京スタジアム	-
町 田 市	町田薬師池公園 四季彩の杜	-	-	町田市名産品 60 品目	-	-

小 金 井 市	小金井 宮地楽器ホール	小金井公園	小金井阿波おどり	観光大使	小金井桜	江戸東京たても の園
小 平 市	小平グリーンロード	ブルーベリー	日本一丸ポスト	小平グリーンロード	ブルーベリー	FC 東京小平グラ ランド
日 野 市	新選組	TOYODA BEER	焼きカレーパン	新選組	TOYODA BEER	焼きカレーパン
東 村 山 市	菖蒲まつり	-	-	国宝正福寺地藏 堂	多磨全生園	-
国 分 寺 市	お鷹の道・真姿 の池湧水群	日本の宇宙開発 発祥の地（顕彰 記念碑）	武蔵国分寺跡	お鷹の道・真姿 の池湧水群	日本の宇宙開発 発祥の地（顕彰 記念碑）	武蔵国分寺跡
国 立 市	桜	大学通り	くにたち野菜	東京女子体育大 学	ヤクルト中央研 究所	田畑
福 生 市	石川酒造	田村酒造場	-	石川酒造	田村酒造場	-
狛 江 市	多摩川	狛江駅前緑の三 角広場	エコルマホール	狛江駅前緑の三 角広場	近藤春菜（お笑 い芸人・観光大 使）	地元産野菜
東 大 和 市	多摩湖	旧日立航空機機 変電所	プラネタリウム	多摩湖	旧日立航空機機 変電所	プラネタリウム
清 瀬 市	清瀬ひまわりフ ェスティバル	はちみつ	-	台田の杜	病院のまち	清瀬内山運動公 園（サッカー場 ほか）
東久留米市	南沢湧水	柳久保小麦	竹林公園	富士見テラス		-
武蔵村山市	狭山丘陵	村山温泉「かた くりの湯」	村山かてうどん	狭山丘陵	村山温泉「かた くりの湯」	村山かてうどん
多 摩 市	ハローキティ	多摩よこやまの 道	耳をすませばモ デル地	遊歩道	日本アニメーシ ョン	-
稲 城 市	里山	よみうりランド	稲城の梨	大河原邦男氏	穴澤天神社（江 戸の里神楽）	桜・梨の花まつり
羽 村 市	玉川上水	羽村取水堰	はむら花と水の まつり	玉川上水	羽村取水堰	はむら花と水の まつり
あきる野市	川	植物	温泉	川	加工品 （特産品）	温泉
西 京 都 市	「健康」 応援都市	いこいーな	下野谷遺跡	「健康」 応援都市	いこいーな	下野谷遺跡

この表を見ると、各市において回答した地域資源のうち、「現在最も活用している地域資源」及び「今後積極的に活用したいと考える地域資源」とが3つとも同一であった市が10市であるが、一方で、14市が「今後積極的に活用したい」ものとして新たに27の地域資源（図表中、色網掛けの部分）を挙げている。

さらに、資料編に掲載した一覧表を見ると、各市が挙げた地域資源の中に共通のものや、類似したもの、近い関係にあるものなどがあった。例えば、自然資源で「玉川上水」を8市が、特産資源で各種の「うどん」を6市が挙げている。

これらのことから、多摩地域の広い範囲で地域資源とするものについては、多摩地域全体で共有し、連携して活用することにより、効率的かつ効果的に観光施策を進めることが可能となると考える。

また、共通も類似もしない独自の地域資源は、その市にとって個性を醸す重要な資源であると同時に、これらを組み合わせることにより、多摩地域としての新たな魅力の創出ともなり得る大きな可能性を持っていると考える。

3 観光振興計画、観光協会等の組織について

(1) 観光振興計画及び事業について

問 2-1「貴市では、観光振興計画を策定されていますか。」問 2-3「貴市で取り組まれている観光振興事業についてご記入ください。」と聞いたところ、得られた回答をまとめたものが、図表 2A-4 である。

図表 2A-4 観光振興計画について

◎問 2-1「貴市では、観光振興計画を策定されていますか。」			
◎問 2-3「貴市で取り組まれている観光振興事業についてご記入ください。」			
観光振興計画策定状況	あり (9 市)	策定中 (2 市)	なし (15 市)
観 光 振 興 事 業 数	62 事業 (26 市で実施)		

観光振興計画を策定済の市は、26 市中 9 市 (34.6%) であった。また、観光振興事業は多摩地域 26 市全市で実施しており、総事業数は 62 事業に及んでいる。

(2) シティプロモーションに関する基本方針・計画等及び事業について

問 5-1「貴市では、シティプロモーションに関する基本方針、計画等を策定されていますか。」問 5-3「貴市で取り組まれているシティプロモーション事業についてご記入ください。」と聞いたところ、得られた回答をまとめたものが、図表 2A-5 である。

図表 2A-5 シティプロモーション計画について

◎問 5-1「貴市では、シティプロモーションに関する基本方針、計画等を策定されていますか。」			
◎問 5-3「貴市で取り組まれているシティプロモーション事業についてご記入ください。」			
シティプロモーションに関する基本方針等	あり (6 市)	策定中 (4 市)	なし (16 市)
シティプロモーション事業数	76 事業 (22 市で実施)		

シティプロモーションに関する基本方針、計画等を策定済の市は、26 市中 6 市 (23.1%) であった。また、シティプロモーション事業は、26 市中 22 市 (84.6%) で実施しており、総事業数は 76 事業であった。

(3) 観光協会について

問 4-1「貴市には、観光協会(類似組織を含む)がありますか。」、問 4-2「問 4-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような組織ですか。」と聞いたところ、得られた回答をまとめたものが、図表 2A-6 である。

図表 2A-6 観光協会について

◎問 4-1「貴市には、観光協会(類似組織を含む)がありますか。」		
◎問 4-2「問 4-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような組織ですか。」		
観光協会の有無	あり (20 市)	なし (6 市)
法 人 種 別	一般社団法人 (6 市) 特定非営利活動法人 (4 市)	公益社団法人 (1 市) その他 (9 市)

設 立 時 期	昭和の時期 (6 市/20) 平成 10 年～19 年 (5 市/20)	平成元年～9 年 (1 市/20) 平成 20 年～28 年 (8 市/20)
代 表 者 の 身 分	元市職員 (5 市/20) その他 (10 市/20)	市派遣 (5 市/20)
主 な 事 業 内 容	イベント企画・開催、情報発信、観光案内等	
事 務 局 所 在 地	市有施設 (8 市)	その他民有建物 (12 市)
市 の 設 立 支 援	人的支援あり (10 市/20)	財政的支援あり (13 市/20)
市 の 運 営 支 援	人的支援あり (9 市/20)	財政的支援あり (16 市/20)

これによると、観光協会又は類似する組織（以下「観光協会等」という。）が「ある」と答えた市は、26 市中 20 市（77.0%）であった。

観光協会等の半数で、代表者は市の職員・元職員である。

設立時に市からの人的支援を 10 市、財政的支援を 13 市が受けている。運営支援では市からの人的支援を 9 市、財政的支援を 16 市が受けている。

4 観光振興・産業振興分野における大学等（大学、短期大学、専門学校、高等専門学校）や民間企業との連携について

（1）観光振興・産業振興分野における大学等との連携について

問 7-1～問 7-4 で観光振興・産業振興分野における大学等との連携状況を聞いたところ、得られた回答をまとめたものが、図表 2A-7 である。

図表 2A-7 観光振興・産業振興分野における大学等との連携について

◎問 7-1「貴市では、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携して取り組む事業はありますか。」		
◎問 7-2「問 7-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」		
◎問 7-3「貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携したいとお考えですか。」		
◎問 7-4「問 7-3 で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。」		
連 携 状 況	あり (13 市)	なし (13 市)
連 携 方 法	協定 (3 事業) 委託 (7 事業) その他 (13 事業：委員委嘱、イベント参加、運営協力、協働、ボランティア、文書による依頼、会場提供、インターンシップ等	
事 業 内 容	市の PR に関すること (5 事業：情報冊子・CM 作成、キャラクターデザイン等)、観光商品の開発 (1 事業：ハイキングルートの企画)、計画策定への参画 (4 事業：既存施設の利活用、計画策定委員委嘱、計画への助言等)、イベントの企画・運営・出店 (8 事業)、審査委員派遣 (1 事業：観光推奨品審査会)、ボランティア (2 事業：イベント、美術品維持管理)、調査 (1 事業)、創業支援事業 (2 事業)、生涯学習 (1 事業：講座の実施)	
今後の連携意向	あり (19 市)	なし (7 市)

連 携 希 望 分 野	観光ボランティア（13 市） 情報発信（13 市） 計画・戦略策定（8 市） 特産品開発（8 市） 旅行商品開発（3 市） その他（5 市：・特定分野における連携については、現時点で具体的な案はないが、観光施策を立案・推進する上で多様な視点からの意見を参考にしたい ・産業振興 ・観光ルートの新規開拓 ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 ・協定に基づき様々な分野で連携を図っていききたい）
-------------	---

大学等との連携した取組があるのは 13 市で、ちょうど半数であった。

連携事業内容では、イベントの企画・運営・出店が 8 事業と、最も多くなった。次いで、市の PR に関する事が 5 事業、計画策定への参画が 4 事業となっている。開始年度は平成 26 年度からの 3 年間以内が多い。連携希望分野については、観光ボランティア及び情報発信が多くなっている。

（２）観光振興・産業振興分野における民間企業との連携について

問 8-1～問 8-4 で観光振興・産業振興分野における民間企業との連携状況の質問項目の回答を集計したものが、図表 2A-8 である。

図表 2A-8 観光振興・産業振興分野における民間企業との連携について

◎問 8-1「貴市では、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携して取り組む事業はありますか。」	
◎問 8-2「問 8-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」	
◎問 8-3「貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携したいとお考えですか。」	
◎問 8-4「問 8-3 で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。」	
連 携 状 況	あり（14 市） なし（12 市）
連 携 方 法	協定（6 事業）、委託（4 事業）、その他（10 事業：補助金、協賛、実行委員会等） ※協定・委託の重複あり
事 業 内 容	創業支援（7 事業）、イベントへの協賛（2 事業：イルミネーション事業、チューリップオーナー）、イベント企画・実施（5 事業：コンテスト、ハイキング、映画祭、その他大規模イベント等）、プロモーション・情報発信（3 事業：ロゴマーク、キャッチフレーズの使用等）、商品開発（3 事業：ご当地グルメ、ブランディング推進等） 産業・観光振興全般（2 事業）
連 携 意 向	あり（19 市） なし（7 市）
連携希望分野	情報発信（14 市） 特産品開発（13 市） 旅行商品開発（9 市） 計画・戦略策定（9 市） 観光ボランティア（8 市） その他（4 市：・新産業の創出・産業振興イベント・検討中・市民、事業者、行政が連携したまちづくりを目指し、連携を図っていききたい）

14 の市で連携状況が「あり」と回答している。

連携内容は「創業支援」が最も多く、次いで「イベント企画・実施」である。開始年度については、早い市で平成 10 年度から連携を行っている。連携希望分野は「情報発信」が最も多く、次いで「特産品開発」となっている。「情報発信」については大学等との連携希望分野においても最も多くなっており、多摩地域の行政が、外部との連携によって特に強化したいと考えている分野といえる。

5 観光振興に関する課題について

問 10-2 「問 10-1 で(観光振興に関する)課題とされた項目のうち、貴市における最大の課題は何ですか。」との質問項目の回答をまとめたものが、図表 2A-9 である。

図表 2A-9 観光振興に関する最大の課題について

◎問 10-2 「問 10-1 で課題とされた項目のうち、貴市における最大の課題は何ですか。」		
①担い手に関する こと	8 市	・観光案内人だけではなく、地元の住民も一緒に来訪者向けの案内をしてもらう ・観光まちづくり協会との連携 ・観光協会の自立化 ・地域密着の NPO などの育成 ・観光事業を担う観光まちづくり協会の体制が脆弱 ・市の観光振興事業への市民参加の度合いが低い ・市民や観光業者の取組を支援できる組織づくり ・地域を代表する特産品やグルメの開発が遅れており、PR できる商品が少ない ・観光協会のような観光振興に取り組む民間組織がなく、行政による観光施策の中だけで観光振興事業に取り組んでいるため、今後、行政や事業者、関係団体等が相互に連携・協力し、地域の資源を活かすとともに、まちの魅力を高めるような観光振興のための組織づくりが必要
②事業費に関する こと	4 市	・多摩地域の観光資源を考えると、各自治体が個別に観光事業を展開するのはやや効率が悪いようにも感じられる ・東京都等の補助金はあるが、補助対象経費や補助率の拡大の問題 ・市観光協会は、市から補助金交付により運営費・事業費の一部を賄っており、協会独自の収入を得ることが課題 ・滞在型の観光資源から回遊施策の必要性、アクセスの利便性を活用した回遊施策の必要性
③地域資源に関する こと	5 市	・2019 ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人にも PR できる地域資源の掘り起こし ・特出した観光資源が乏しい ・多くの人が集まる場所(駅等)がなく、近隣の市町との明確な違いがない ・都心からのアクセスの利便性等を考慮し、観光地化ではなく市内交流人口の増加を目指す施策を展開する
④計画・戦略策定等に関する こと	2 市	・観光スポットの環境整備等のハード面及びイベント等のソフト面を総合的に見据えた、まち全体の観光まちづくりを検討・推進 ・現在、それぞれで運営している市観光協会と観光案内所の連携を進めていくこと
⑤ 広 報 (情 報 発 信) に関する こと	2 市	・市の魅力をきめ細かく、多様な手段を用いて情報発信すること ・観光案内機能の充実、強化 ・対外的な情報発信が弱く、昔からの市のイメージを塗り替えることができていない
⑥その他	1 市	・観光により地域産業を振興するためには、年間を通じて観光客に市を訪れてもらう必要があることから、既存のイベントの充実を図るとともに、観光客の増加に対する受け入れ環境を整備していく必要がある
なし	3 市	
全て	1 市	

観光振興に関する最大の課題として「担い手に関すること」を挙げた市が最も多く、8市であった。その中では、観光協会等のような観光振興事業を担う組織がない又は体制が脆弱という回答が多く、また、市民やNPOなどとの連携や、NPOなどの育成も課題として挙げられた。

次に多かった課題は「地域資源に関すること」であった。近隣自治体との違いがない、観光資源が乏しいというものである。そのほか、訪日外国人旅行者にも対応できる地域資源の発掘や他市のエリアから回遊させる施策展開の必要性を挙げている市もある。

三番目に多かった課題は「事業費に関すること」であり、その中には「各自治体が個別に観光事業を展開するのはやや効率が悪いようにも感じられる」というものもあった。

多摩地域の地域資源は、複数の市で共通のもの又は類似するものを挙げていることを問1-1でも確認したところである。そして、このような共通又は類似の地域資源を有する市間では、その地域資源を活用した事業展開を行う際には、お互いに協力しやすい。このことを生かすことで、多摩地域全体で観光振興施策の展開ができるのではないだろうか。

また、多摩地域の各市における観光振興事業については、担い手や財源についての課題が多く示されたが、このような状況の下、多摩地域が一体となって観光地域づくりに取り組むことにより、各市の取組体制等を補完し、効率を高めることにつながると考える。

6 学生の市政参画について

(1) 学生の市政参画推進のための取組について

問13-5で「学生の市政参画を推進するため、取り組まれていることはありますか。」と聞いたところ、得られた回答をまとめたものが、図表2A-10である。

図表 2A-10 学生の市政参画推進のための取組について

◎問13-5「学生の市政参画を推進するため、取り組まれていることはありますか。」

大学等を通じての審議会委員募集や行事等の周知 (10市)
会議の夜間・休日開催 (10市)
学生を主な対象とする意見交換会の実施 (タウンミーティングなど) (8市)
学生による事業提案制度の実施 (3市)
審議会委員等における特別枠の設置 (2市)
その他 (1市)
若者(学生)議会の開催 (0市)

学生の市政参画推進のための取組は、「大学等を通じての審議会委員募集や行事等の周知」、「会議の夜間・休日開催」がそれぞれ10市で最も多く、「学生を主な対象とする意見交換会の実施(タウンミーティングなど)」が8市あり、二番目に多かった。

(2) 今後、学生の参画を推進したいと考える分野について

問 13-6 で「貴市が、今後、学生の参画を推進したいと考える分野は、どの分野ですか。」という質問に対する回答をまとめたものが、図表 2A-11 である。

図表 2A-11 今後、学生の参画を推進したいと考える分野について

◎問 13-6「貴市が、今後、学生の参画を推進したいと考える分野は、どの分野ですか。」

シティプロモーション（地域資源の発掘、発信など）（20 市）
 観光振興（ツアーやイベントの企画、ガイドボランティアなど）（18 市）
 情報発信（SNS の活用、マップ作成など）（18 市）
 まちづくり（市の都市計画、施設整備計画など）（16 市）
 地域社会づくり（町会・自治会等が行う地域行事など）（15 市）
 教育・文化（学習支援、芸術振興など）（15 市）
 地域福祉（子育て支援、高齢者支援、障害者支援など）（14 市）
 健全育成（スポーツ指導、健康促進、読書活動など）（14 市）
 地域経済（商店活性化、商品開発など）（14 市）
 環境保全（リサイクル、自然環境保護、緑化、美化、清掃など）（10 市）
 その他（2 市）

学生の参画を推進したいと考える分野は「シティプロモーション」が 20 市と最も多く、その後に「観光振興」、「情報発信」が、それぞれ 18 市で続いている。市の PR や周知、観光に関連した項目に特に集中していることがわかる。

7 観光振興施策等に関するアンケート調査から見てきたこと

(1) 多摩地域の多彩な地域資源

問 1-1 で、多摩地域には、多様な地域資源が存在していることがわかった。各市で地域資源としてとらえているものが、8 分類総計で 1,203 に及ぶ。多摩地域の豊かな自然のほか、伝統的な文化や文化財、地域に根差す産業、多摩地域住民の生活文化など、多摩地域が誇るべき魅力は多種にわたって、様々に存在している。

市域を越えて地域資源を組み合わせることで、様々な施策を展開することができる。例えば、広域的なツーリズムとして、歴史、食、水、酒等のテーマを設定したツアーのように、同じ種類の地域資源を組み合わせたものや、流域が複数市に渡る玉川上水に沿ったウォーキングを行い、その後近隣の温泉で汗を流すツアーのように、種類の異なる地域資源を組み合わせたものが考えられる。

広域的に地域資源を共有し、お互いに活用することで、多摩地域の魅力を更に高めることができる。これまで、各市に存在する地域資源の情報を、広域的に集約、整理、共有、発信することは、積極的になされていなかった。この情報は、広域的な観光振興施策を行う際はもとより、各市にとっても有用なものになるはずである。

（２）観光協会等の現状

問 4-2 において、半数以上の観光協会等では、市の関係者がその代表者を務めており、また、設立及び運営において、人的にも財政的にも市が支援している状況が明らかになった。問 10-2 で観光振興に関する最大の課題を聞いたところ、最も多かったのが「担い手に関すること」であり、「観光事業を担う協会の体制が脆弱」「協会の自立化」「協会独自の収入確保」などの課題が挙げられた。多摩地域の観光協会等の多くは、組織体制や運営に課題を抱えているようである。

問 10-2 の観光振興に関する最大の課題として二番目に多かった「地域資源に関すること」のうち、「近隣自治体との明確な違いがない」という回答に示されるように、多摩地域内の地域資源は自治体同士で共通又は類似していることが多い。これらを踏まえると、多摩地域が一体となって観光施策に取り組み、地域資源や人材、財源を共有し、効率的かつ効果的に事業を進めることについて検討することも必要なのではないだろうか。

（３）多様な主体との連携

観光振興施策を進めるに当たって、欠かせないのが大学や学生、民間企業との連携である。

問 7-1～問 7-4 で大学等との連携、問 8-1～問 8-4 で民間企業との連携、問 13-5～問 13-6 で学生の市政参画について調査したところ、行政側では多くの連携希望があることがわかった。

26 市が大学との連携を希望する分野は、「観光ボランティア」「情報発信」という回答が最も多く、民間企業との連携を希望する分野では「情報発信」「特産品開発」という回答が多かった。

また、26 市が学生の参画を推進したい分野では、「シティプロモーション」「観光振興」「情報発信」が多かった。

「情報発信」がすべてに共通しているが、観光振興には欠かせない分野であるとともに、得てして行政の苦手とする分野であるため、連携による強化を図りたい。

また、情報発信の分野に限らず、観光振興施策において、地域の交通機関や企業との情報共有は必須であろう。また、マーケティングやプロモーション、商品開発等のノウハウを持つ企業との連携も重要である。そして、大学の研究成果等を始めとした知的資源や、学生の行動力、情報発信力も大きな役割を果たす。

本提言における広域的な観光振興の取組を進めるに当たり、大学や学生、民間企業との連携が活発に行われることを期待する。

第2節 観光地域づくりの担い手としての学生の意識調査

1 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査の概要

多摩地域には大学が数多く存在しており、観光地域づくりにおいても、学生たちの新鮮な感性や活力を多いに生かしていくことが期待される。

そこで、学生の地域活動への参加状況や意向を探るため、インターネットリサーチによる「多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査」を実施した。対象は、「多摩地域に居住する」又は「多摩地域の大学等に通っている学生」であり、地域への愛着や、行政への関わり、地域活動への参加状況などを聞いた。概要は、図表 2B-1 のとおりである。

図表 2B-1 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査の概要

■ 調査目的	観光地域づくりを始めとする、地域活動に学生の力を生かす方策を探るため、学生の地域への愛着の度合いや、行政への関わり、地域活動への参加状況を調べる。		
■ 調査対象	18～22歳の男女のうち、多摩地域に居住する、又は多摩地域の大学等（大学のほか短期大学、高等専門学校、専門学校を含む。以下この節で「学校」という。）に通っている学生 居住地と学校所在地の組み合わせにより下表のとおりグループ分けし、比較する。		
		居住地	通学している学校所在地
	A	多摩地域	多摩地域
	B	多摩地域	多摩地域外
	C	多摩地域外	多摩地域
■ 調査方法	インターネットリサーチ		
■ 調査時期	【事前調査】 平成28年10月7日（金）～10月14日（金） 【本調査】 平成28年10月14日（金）～10月17日（月）		
■ 有効回答数	A 多摩地域居住かつ多摩地域の学校通学者：143 サンプル B 多摩地域居住かつ多摩地域外の学校通学者：110 サンプル C 多摩地域外居住かつ多摩地域の学校通学者：108 サンプル 計 361 サンプル		

2 学生の地域活動参加状況

(1) 参加したことがある活動

Q18～Q19「次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）」という質問に対する回答を集計したものが、図表 2B-2 である。

図表 2B-2 参加したことがある活動

◎Q18「あなたが現在住んでいる地域における次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）」		
◎Q19「あなたが学校所在地周辺の地域における次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）」		
単位：％		
	現 在 住 っ て い る 地 域	学 校 所 在 地 周 辺 の 地 域
いずれかに参加したことがある（1個以上）	35.7	20.2
3個以上参加したことがある	7.2	3.3
2個に参加したことがある	9.1	5.0
1個のみ参加したことがある	19.4	11.9
参加したことはない（0個）	64.3	79.8
市民祭等イベントの参加者	21.9	8.6
市民祭等イベントの運営スタッフ	6.6	4.7
地域で行われる防災訓練	6.4	1.9
廃品回収等地域の活動への参加	6.4	1.4
小中学生との交流（授業の補助等）	4.4	3.3
地域のスポーツ団体や活動団体への参加	4.4	1.9
高齢者との交流（高齢者の見守り活動等）	2.8	1.9
ポスターやチラシ作り	2.8	0.8
計画案づくりのための説明会やワークショップ等の参加者	2.5	2.2
外国人との交流（観光案内等）	2.5	1.1
SNSでの広報	2.5	1.1
幼児との交流（絵本読み聞かせ等）	1.9	1.9
自治体でのインターンシップ	1.7	0.6
タウンミーティングの運営	0.8	0.3
観光マップ作成	0.6	0.8
市民会議、付属機関等(市区町村が主催し、公募市民や団体、学識経験者等が参加する会議)の委員	0.6	0.6
まち歩きガイド・案内	0.6	0.3
タウンミーティングの参加	0.3	0.3
市民会議、付属機関等のファシリテーター	0.3	0.0
計画案づくりのための説明会やワークショップ等の説明者、ファシリテーター	0.0	0.8

総じて、学校所在地周辺の地域よりも住んでいる地域での参加経験の方が多い。個別項目では、上位2つの回答が共通する。最多は「市民祭等イベントの参加者」で、手軽な参加方法であるため、妥当な結果であろう。次に多いのは「市民祭等イベントの運営スタッフ」である。

(2) 参加してみたい活動

Q18～Q19「次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。」との質問項目の回答を集計したものが、図表 2B-3 である。

図表 2B-3 参加してみたい活動

単位：％		
	現 在 住 っ て い る 地 域	学 校 所 在 地 周 辺 の 地 域
◎Q18「あなたが現在住んでいる地域における次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）」		
◎Q19「あなたが学校所在地周辺の地域における次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）」		
いずれかに参加したい（1 個以上）	40.4	32.1
参加してみたいものはない（0 個）	59.6	67.9
小中学生との交流（授業の補助等）	11.6	8.0
外国人との交流（観光案内等）	10.2	7.8
幼児との交流（絵本読み聞かせ等）	9.4	6.4
市民祭等イベントの運営スタッフ	6.4	5.5
市民祭等イベントの参加者	6.1	6.9
観光マップ作成	5.8	4.2
自治体でのインターンシップ	5.8	3.6
高齢者との交流（高齢者の見守り活動等）	5.3	4.2
まち歩きガイド・案内	5.0	4.2
地域のスポーツ団体や活動団体への参加	4.4	3.3
SNS での広報	3.9	3.3
地域で行われる防災訓練	3.6	2.8
廃品回収等地域の活動への参加	2.8	2.2
ポスターやチラシ作り	2.5	1.1
タウンミーティングの参加	1.9	1.1
計画案づくりのための説明会やワークショップ等の参加者	1.7	2.2
計画案づくりのための説明会やワークショップ等の説明者、ファシリテーター	1.7	1.4
市民会議、付属機関等(市区町村が主催し、公募市民や団体、学識経験者等が参加する会議)の委員	1.4	1.1
タウンミーティングの運営	1.4	0.6
市民会議、付属機関等のファシリテーター	0.6	0.8

参加してみたい活動についても、参加したことがある活動と同様、現在住んでいる地域の方で参加意向を持っている学生が多いという結果になった。「外国人

との交流(観光案内等)」「幼児との交流(絵本読み聞かせ等)」「小中学生との交流(授業の補助等)」が上位にあり、学生は、人と交流できる活動を重視しているようである。

(3) 地域活動に参加したきっかけ

現在住んでいる地域及び学校所在地周辺の地域で地域活動の経験がある回答者に、Q20「参加のきっかけは何ですか。(回答はいくつでも)」との質問に対する回答を集計したものが、図表 2B-4 である。

図表 2B-4 参加のきっかけ

◎Q20「これまでに地域での活動に参加したことがある方にお伺いします。参加のきっかけは何ですか。(回答はいくつでも)」		
	単位：％	
	現在住んでいる地域	学校所在地周辺の地域
学校の先生や友人に誘われて(口頭、メール、LINE)	27.1	42.5
チラシを見て	17.1	16.4
自治体の広報誌を見て	16.3	4.1
町内会や自治会など学外の掲示板を見て	12.4	5.5
学内の広報を見て	11.6	19.2
学校以外の知人(バイト仲間等)に誘われて(口頭、メール、LINE)	8.5	1.4
自治体のインターネットサイトを見て	5.4	1.4
学校の先生や友人の SNS (Twitter、Facebook 等) を見て	4.7	8.2
タウン情報誌を見て	3.9	2.7
新聞・ラジオ・テレビを見て	2.3	1.4
学校以外の知人(バイト仲間等)の SNS (Twitter、Facebook 等) を見て	0.8	0.0
知人以外の SNS (Twitter、Facebook 等) を見て	2.3	2.7
その他	18.6	26.0

現在住んでいる地域及び学校所在地周辺の地域に共通して参加のきっかけは、「学校の先生や友人に誘われて(口頭、メール、LINE)」が最も多い。ポスターやチラシ等での不特定多数に向けた周知より、直接誘うことが最も効果があることがわかる。一方で、「チラシを見て」や「自治体の広報誌を見て」も一定数の回答があるので、今後も、基本的な広報手段として、チラシや広報誌での周知も継続すべきである。

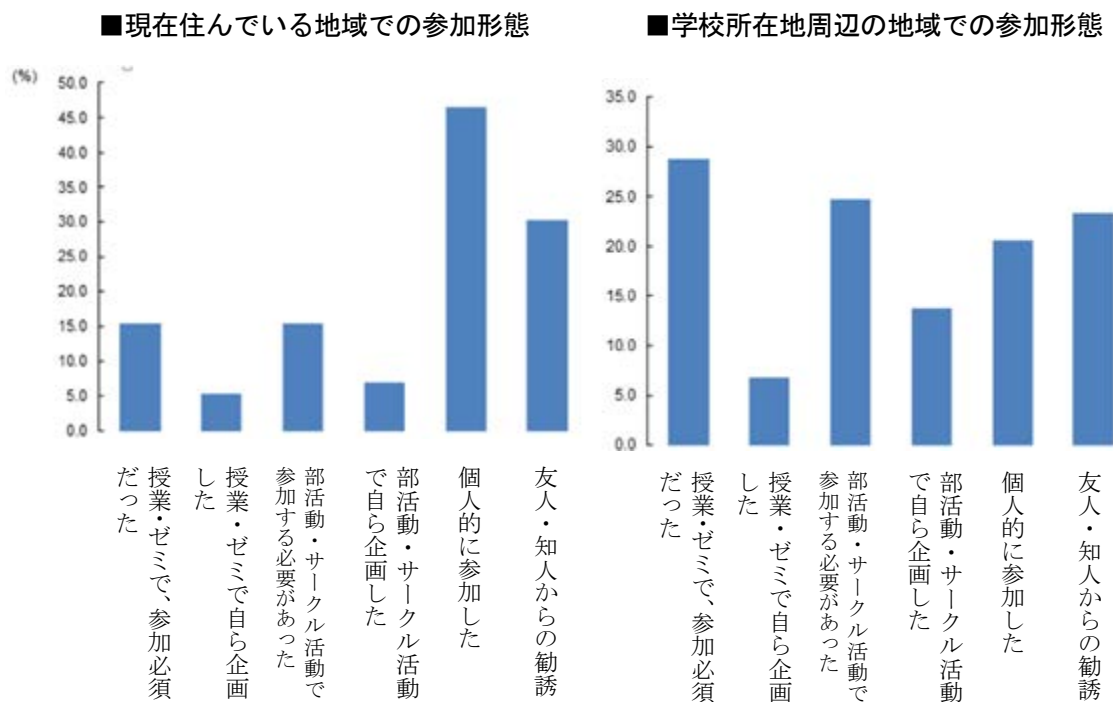
また、学校所在地周辺の地域では、「学内の広報を見て」の割合が高くなっている。学生に働きかけるには、学校を通じた周知も一定の効果があるといえる。

(4) 地域活動に参加した経緯

現在住んでいる地域及び学校所在地周辺の地域で地域活動の経験がある回答者へのQ21「参加形態は次のうちどれですか。（回答はいくつでも）」という質問に対する回答を集計したものが、図表 2B-5 である。

図表 2B-5 地域の活動に参加した経緯

◎Q21「これまでに地域での活動に参加したことがある方にお伺いします。参加形態は、次のうちどれですか。（回答はいくつでも）」



現在住んでいる地域での参加形態は「個人的に参加した」が最も多く、次いで「友人・知人からの勧誘」となった。

学校所在地周辺の地域での参加形態は「授業・ゼミで、参加必須だった」が最も多く、「部活動・サークル活動で参加する必要があった」が次に多い。この2項目は共通して学校の活動関係である。次に多いのは「友人・知人からの勧誘」であり、この選択肢は居住地でも学校所在地周辺でも多数の回答を得た。

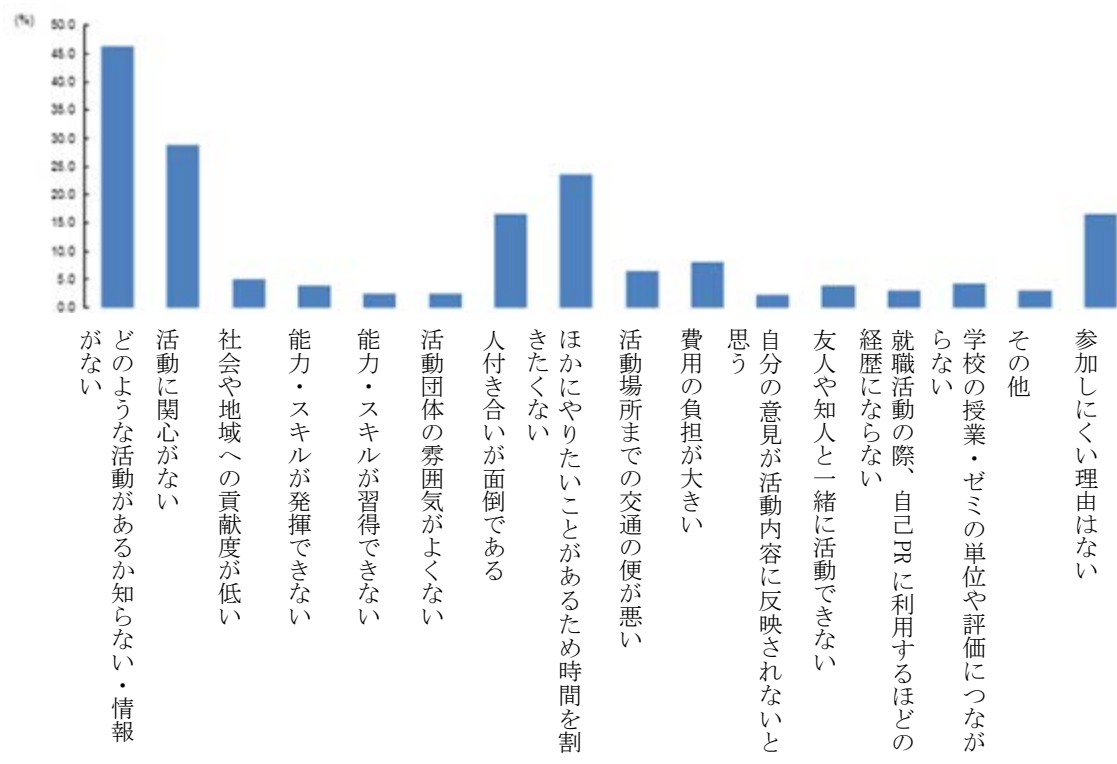
3 地域活動参加に関連する行動や意識について

(1) 地域活動に参加しない、又は参加しにくい理由

Q22「あなたが、地域での活動に参加しない、又は参加しにくい理由はどれですか。（回答はいくつでも）」という質問に対する回答を集計したものが、図表 2B-6 である。

図表 2B-6 地域活動に参加しない、又は参加しにくい理由

◎Q22「あなたが、地域での活動に参加しない、又は参加しにくい理由はどれですか。（回答はいくつでも）」

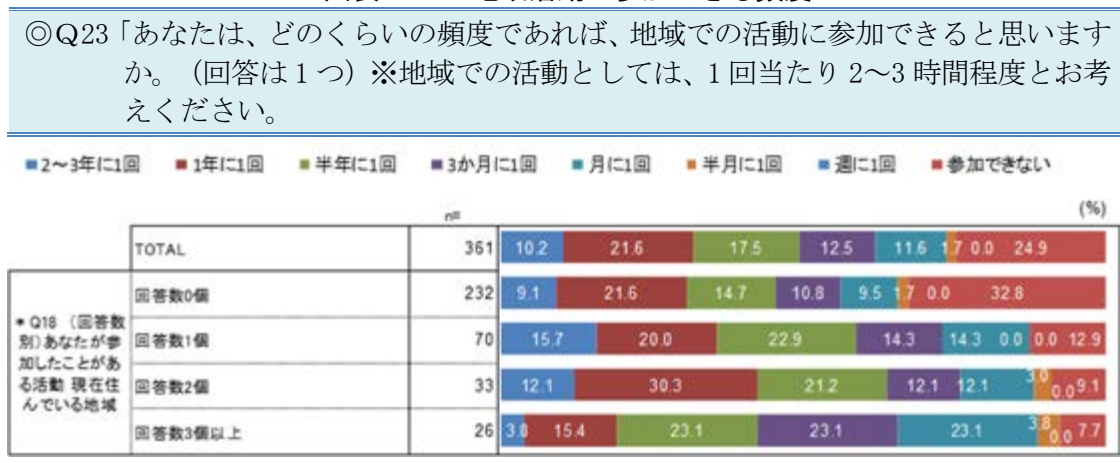


地域活動に参加しない、又は参加しにくい理由としては、「どのような活動があるか知らない・情報がない」が最も多く、回答者の半数近くにのぼる。Q20で参加のきっかけを聞いた際に、「チラシを見て」及び「自治体の広報誌を見て」という回答が一定数あることを鑑みると、チラシや広報誌での伝達も有効な手段ではあるが、全学生に十分に届いているとは言えないようである。

(2) 地域活動に参加できる頻度

Q23「あなたは、どのくらいの頻度であれば、地域での活動に参加できると思いますか。（回答は1つ）※地域での活動としては、1回当たり2～3時間程度とお考えください。」という質問に対する回答を集計した上で、Q18 現在住んでいる地域で参加したことがある活動の回答数と照らし合わせて集計したものが、図表 2B-7 である。

図表 2B-7 地域活動に参加できる頻度



地域活動に参加できる頻度は、「TOTAL」行を見ると、「参加できない」が24.9%で最も多く、次いで「1年に1回」が21.6%となっている。

少なくとも1年に1回の頻度であれば参加できる学生は、合わせると64.9%となる。事業を企画する際の参考となる。

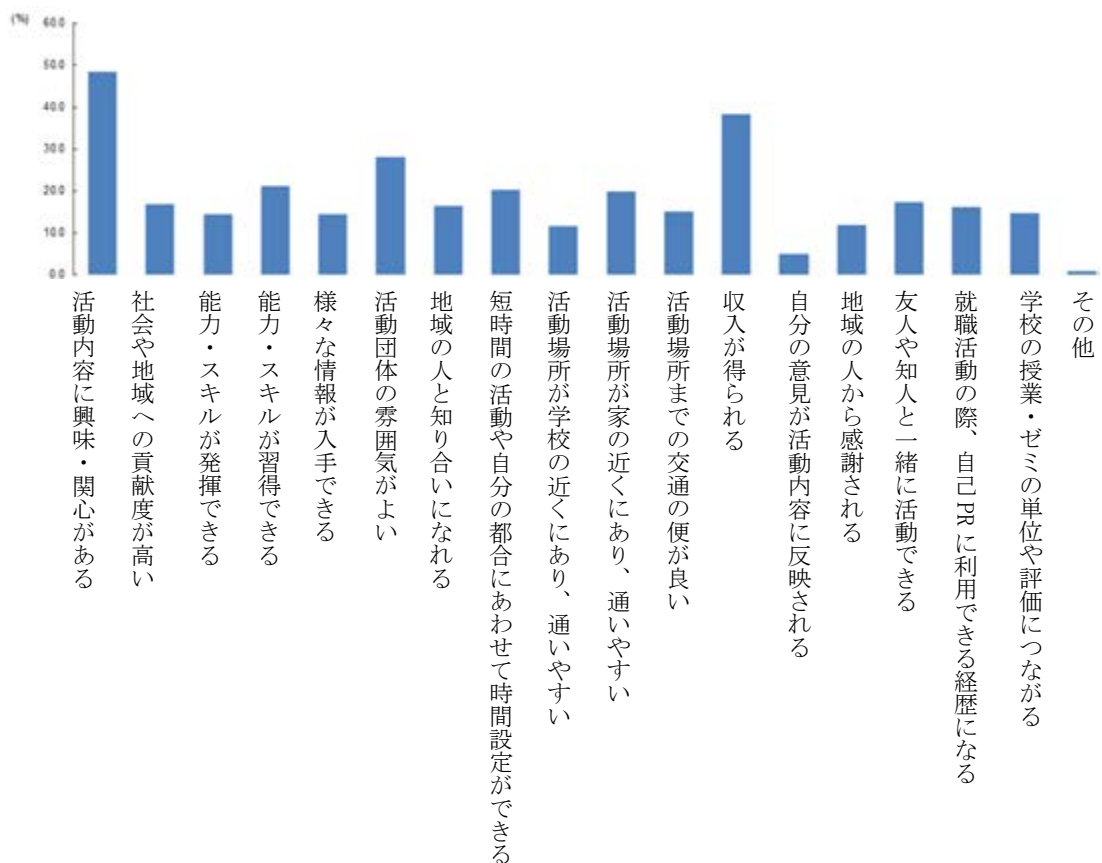
Q18の回答数別に見ると、参加経験数が多い方が参加できる頻度も増えている。これは、地域活動の経験が多い学生はもともと積極的であるためと推察されるが、一方で、実際に経験したところ思ったより大きな負担ではなかった、地域活動にやりがいを感じられたなど、参加することによる実感に伴う可能性もある。一度でも経験すれば、次回以降の参加へのハードルは低くなるのではないかと。

(3) 地域活動に参加しやすくなる条件

Q24「あなたは、地域での活動に参加するに当たり、どのような条件が整えば参加したいと思いますか、又は参加しやすくなると思いますか。（回答はいくつでも）」という質問に対する回答を集計したものが、図表 2B-8 である。

図表 2B-8 地域活動に参加しやすくなる条件

◎Q24「あなたは、地域での活動に参加するに当たり、どのような条件が整えば参加したいと思いますか、又は参加しやすくなると思いますか。（回答はいくつでも）」



地域活動に参加しやすくなる条件としては、「活動内容に興味・関心がある」という回答が最も多い。Q22で、地域活動に参加しない、又は参加しにくい理由を聞いたところ、「どのような活動があるか知らない・情報がない」が最も多かったことを踏まえると、学生が興味や関心を持つように、これまで学生に届いていなかった情報が周知されれば、参加する学生は増えるものと推察できる。次に多いのが「収入が得られる」という回答であった。その次に多いのが「活動団体の雰囲気がよい」という回答である。学生を呼び込むには、団体の雰囲気を良好に保つよう努めることや、その雰囲気を含めて周知する工夫が必要である。

4 参加活動数が多い学生の行動や意識について

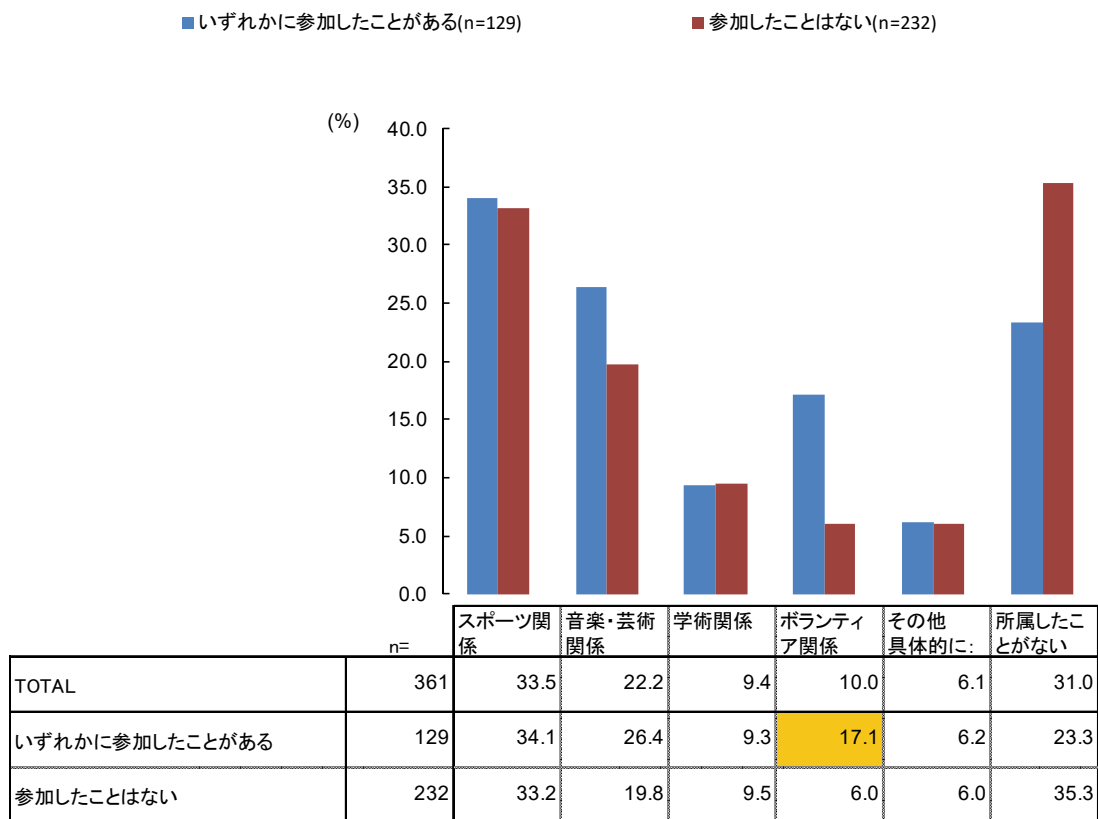
(1) 地域活動への参加経験の有無と所属サークル、部活等の種類

Q5「あなたは、現在通っている学校でサークル、部活等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。（回答はいくつでも）※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。」という質問に対する回答を集計した上で、地域活動に参加したことがある場合とない場合（Q18～Q19）とに分けて集計したものが、図表 2B-9（現在住んでいる地域）及び図表 2B-10（学校所在地周辺の地域）である。

■現在住んでいる地域

図表 2B-9 地域活動への参加経験の有無と所属サークル、部活等の種類
（現在住んでいる地域）

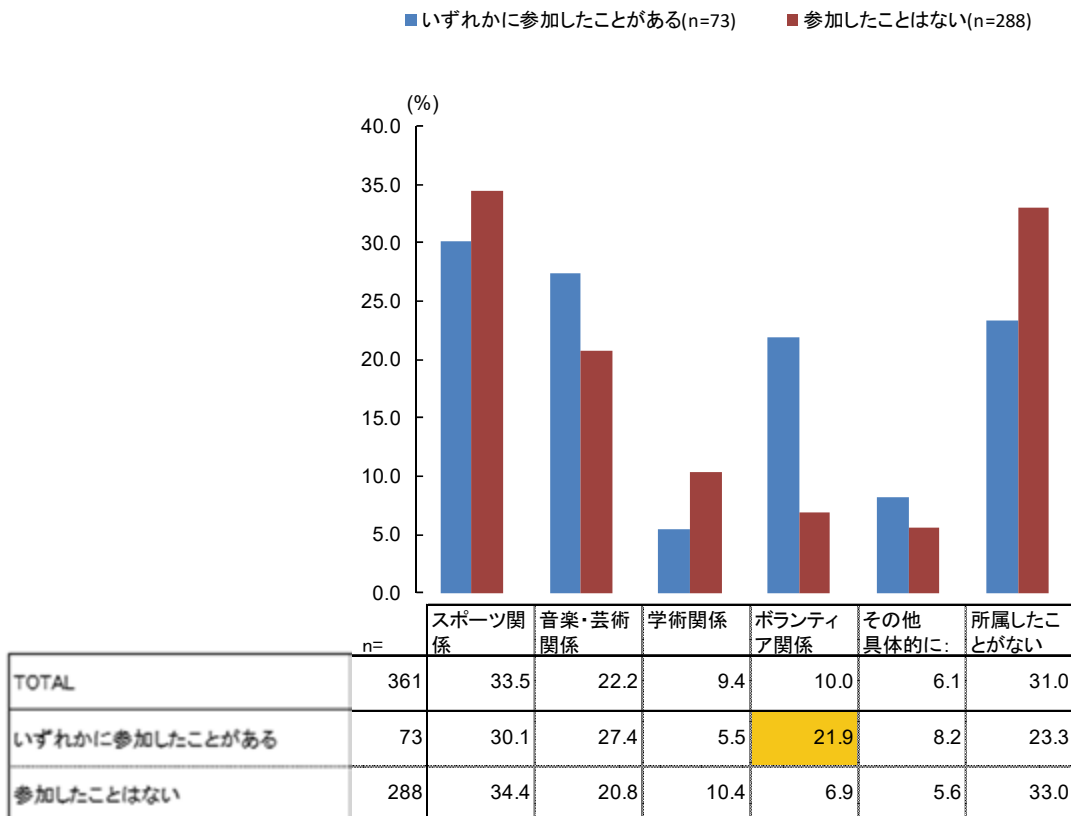
◎Q5「あなたは、現在通っている学校でサークル、部活等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。（回答はいくつでも）※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。」



■学校所在地周辺の地域

図表 2B-10 地域活動への参加経験の有無と所属サークル、部活等の種類
(学校所在地周辺の地域)

◎Q5「あなたは、現在通っている学校でサークル、部活等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。(回答はいくつでも) ※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。」



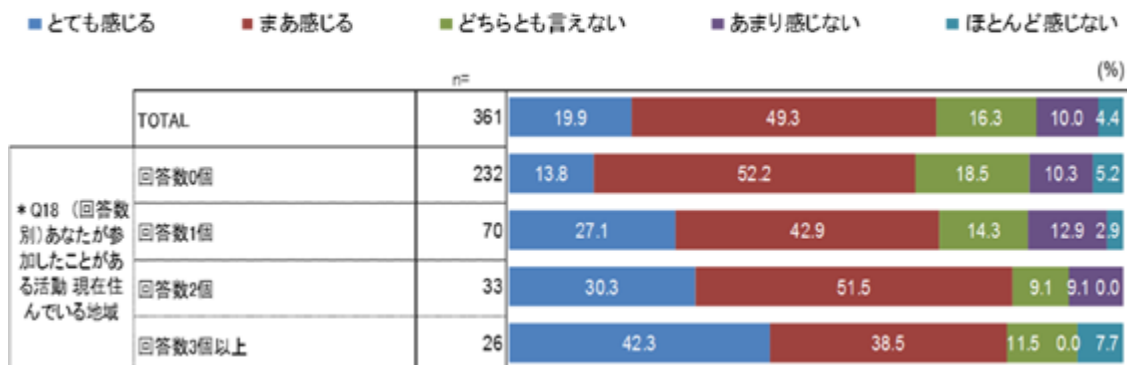
いずれかの地域活動に参加したことがある人は、「ボランティア関係」のサークル、部活動に所属している割合が高いことがわかる。学校に働きかけ学生の参加を募る際は、特にそのような団体を通じて募集すると効果が大きいといえる。

(2) 参加活動数と地域への愛着

Q15「あなたは現在住んでいる地域にどのくらい愛着を感じていますか。あてはまるものを選んでください。(回答は1つ)」と問い、現在住んでいる地域において参加したことがある活動の数別(Q18)に集計したものが、図表 2B-11 である。

図表 2B-11 地域への愛着（参加活動数別）（現在住んでいる地域）

◎Q15「あなたは現在住んでいる地域にどのくらい愛着を感じていますか。あてはまるものを選んでください。（回答は1つ）」



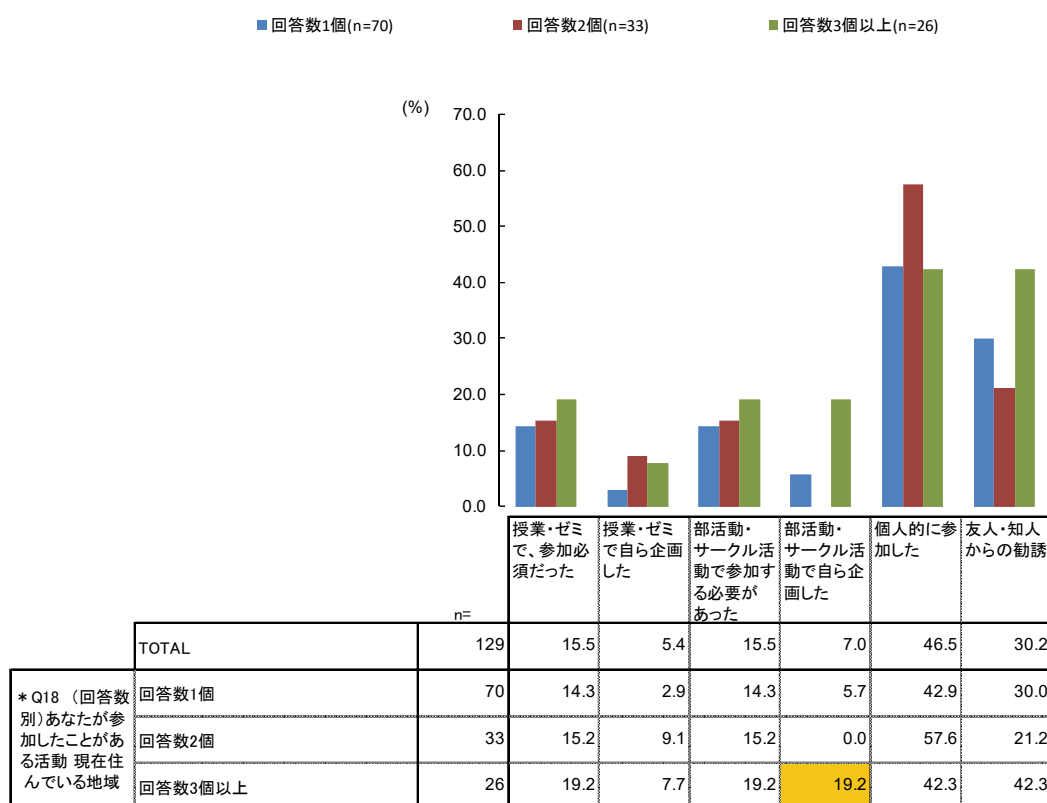
地域活動に参加した経験が増えると、愛着を「とても感じる」割合も高まる。地域に関わることで、地域の居住者との人間関係が構築され、身近に感じられ、地域に貢献した実感を得るなどによって、愛着が醸成されると推察される。

(3) 参加活動数と参加形態

Q21「参加形態は次のうちどれですか。（回答はいくつでも）：現在住んでいる地域」と問い、現在住んでいる地域において参加したことがある活動の数別（Q18）に集計したものが、図表 2B-12 である。

図表 2B-12 参加形態（参加活動数別）（現在住んでいる地域）

◎Q21「参加形態は次のうちどれですか。（回答はいくつでも）：現在住んでいる地域」



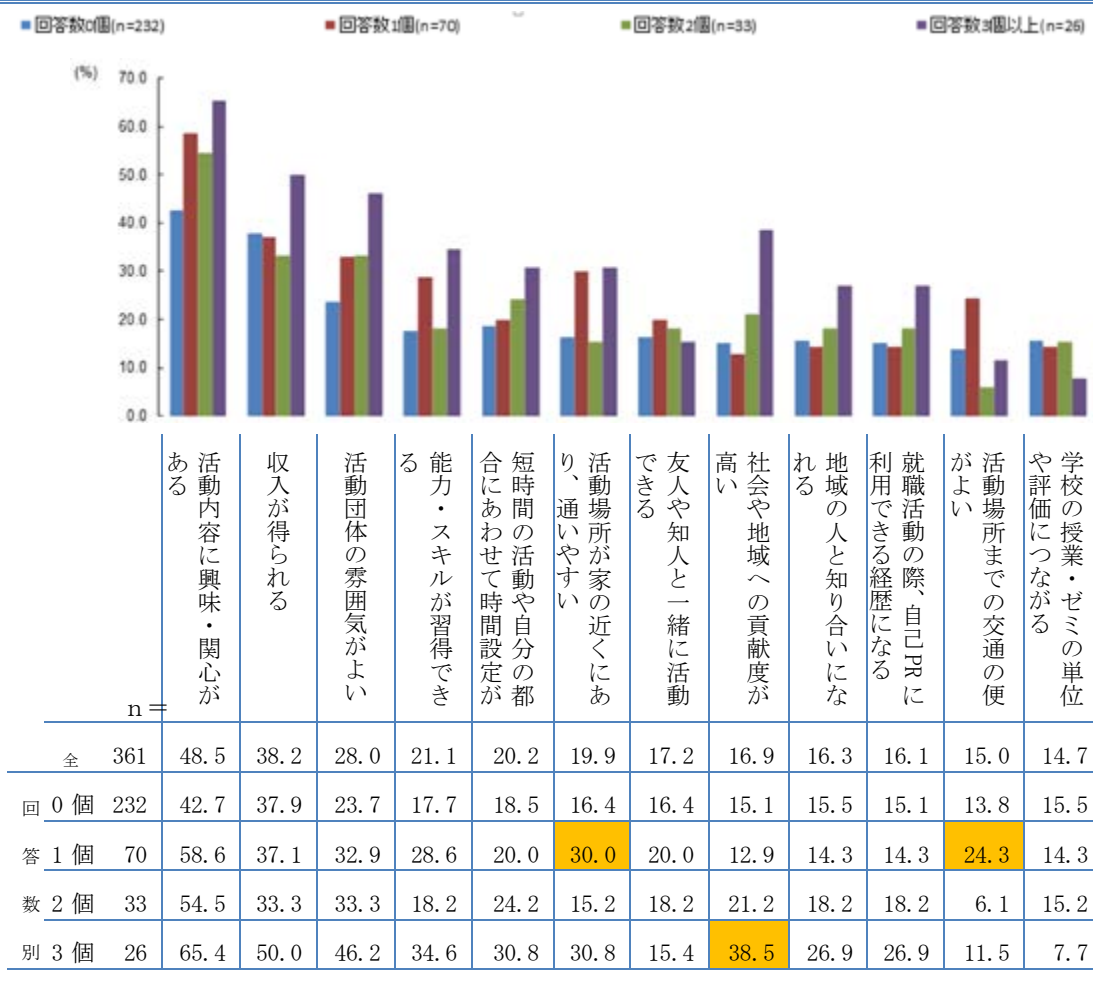
「部活動・サークル活動で自ら企画した」学生の地域活動への参加個数は、「3回以上」が、「2回」「1回」と比べて有意に高い。「部活動・サークル活動」という主体的な参加形態が、活動参加個数の増加につながったと考えられる。一方で、参加経験個数の増加が、主体的な活動につながった可能性も考えられる。

(4) 参加活動数と参加しやすい条件

Q24「あなたは、地域での活動に参加するに当たり、どのような条件が整えば参加したいと思いますか、又は参加しやすくなると思いますか。（回答はいくつでも）」と問い、現在住んでいる地域において参加したことがある活動の数別（Q18）に集計したものが、図表 2B-13 である。

図表 2B-13 参加しやすい条件（参加活動数別）（現在住んでいる地域）

◎Q24「あなたは、地域での活動に参加するに当たり、どのような条件が整えば参加したいと思いますか、又は参加しやすくなると思いますか。（回答はいくつでも）」



1 個の活動に参加したことがある学生は、「活動場所が家の近くにあり、通いやすい」が 30.0%、「活動場所までの交通の便がよい」が 24.3%、3 個以上の活動に参加したことがある学生は、「社会や地域への貢献度が高い」が 38.5%と有意に高くなっている。この結果から、1 個の活動に参加したことがある学生は場所

の利便性を重視していることがわかるため、参加経験が少ない、地域活動の初心者ともいべき学生を新たに呼び込むには、活動のしやすさも考慮することが重要である。3 個以上の活動に参加したことがある学生は、これまでの活動による知識や経験により、社会や地域への貢献度といった、活動の意義といえるようなものも重要な点として考えていることがわかる。地域活動への学生の募集の際には、このようなことも情報提供すべきである。

5 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査から見てきたこと

今回の調査で明らかになった、学生の地域活動への意識や行動の状況から、今後、学生の地域活動への参加を増やし、定着させるために着目すべき点は、次のとおりである。

(1) 学生の地域活動への参加を増やす方策

これまであまり地域活動に参加したことのない学生を呼び込む方策について、考察する。

意識調査によると、**Q24** の参加しやすくなる条件としては、「活動内容に興味・関心がある」が最も多く、また、**Q22** の地域活動に参加しない、又は参加しにくい理由では、「どのような活動があるか知らない・情報がない」が最も多かった。

これらのことから、学生に興味・関心がある活動内容に関して、学生にその情報が届けば、参加につながると考えられる。地域活動に学生の参加を呼び込むためには、これまで以上に地域活動に関する情報を学生に伝える工夫が必要である。

また、参加してみたい活動として、小中学生や外国人、幼児との交流が上位にあり、参加しやすくなる条件として、活動団体の雰囲気がいことが上位にあることから、これら学生が重視していることに関する情報についても、意識的に情報提供することが必要である。

一方、意識調査の参加しやすくなる条件として「収入が得られる」が二番目に多かった。通いやすい場所を選定するなどの活動のしやすさについても、配慮が必要であると考え（**Q24** と **Q18** の照合）。

Q18・Q19 で学生に参加したことがある活動や参加したい活動を聞いたところ、参加経験、参加希望ともに現在住んでいる地域における活動の方が学校所在地周辺の地域よりも多かった。一方、**Q20** で参加のきっかけを聞くと「学校の先生や友人に誘われて」が多い。住んでいる地域での活動に、学校の人間関係を通じて参加する傾向があるということから、学校の所在地周辺に住んでいる学生を特に意識して、学校を通じて募集すると、多くの参加を見込めるようである。**Q21** で学校所在地周辺の地域で参加した経緯を問うと、「授業・ゼミで、参加必須だった」が最も多いため、授業やゼミに組み込んでもらうことが直接的な方法であるが、そこまでいかなくとも、**Q20** の結果から、教授等からの声かけや、学生自身から仲間への呼びかけなど、直接人から人に声をかけることが効果的である。参

加経験が多い学生は「ボランティア関係」のサークル、部活動に所属している割合が高い（Q5 と Q18・Q19 の照合）ことから、特にボランティアサークルや部活動を通じて募集すると効果が大きいといえる。

（２）学生を地域活動に定着させる方策

一度参加した学生を地域活動に定着させる方策を考察する。

参加したことがある活動で最も多いのは「市民祭等イベントの参加者」で、次に多いのが「市民祭等イベントの運営スタッフ」である（Q18・19）。また、参加経験が増えるほど、地域への愛着を感じるようになり（Q15 と Q18 の照合）、活動に参加できる頻度が高くなる（Q23 と Q18 の照合）。

加えて、参加活動数が多い学生の参加形態では「部活動・サークル活動で自ら企画した」という回答が多かった（Q21 と Q18 の照合）。

これらの結果から、活動経験を重ねていく段階として、初めはイベントの客、あるいは簡単な作業等のスタッフとして参加していた学生が、数回にわたって参加するうち、やりがいや楽しさ、愛着を感じるようになり、やがて自ら企画するような主体的な活動を担うといったケースがあり得るのではないかと考える。

学生の参加者を増やし、定着させていくためには、このような流れを意識した方策を実施することも一案であろう。例えば、イベントの客として参加している学生に声をかけ、次のイベントの参加者を募集する等である。その際には社会や地域への貢献度の高さを訴えると効果的である（Q24 と Q18 の照合）。

6 2つの調査結果からの考察

本章第1節で、学生との連携や学生の市政参画に関して、26市の現状・課題や意向を確認し、本章第2節では学生側から見た地域活動への参加への意識や行動の状況を明らかにした。この2つの調査を比較し、考察する。

（１）26市による学生の市政参加を推進するための取組と学生が参加したきっかけ

問13-5で26市側に、学生の市政参加を推進するため取り組んでいることを聞いたところ、「大学等を通じて募集・周知」という回答が多かった。

一方で、Q20で学生側に、地域の活動に参加したきっかけを聞いたところ、「学内の広報を見て」は一定数あり、「学校の先生や友人に誘われて」が最も多かった。

また、Q21で学校所在地周辺の地域で参加した経緯を聞いたところ、「授業・ゼミで、参加必須だった」が最も多かった。

これらの結果から、学校の活動や人間関係を通じた参加は多くなされており、学校を通じた募集は効果が大きいことがわかる。

（２）26 市が学生の参画を推進したい分野と学生の意向

問 13-6 で 26 市側に、今後、学生の参画を推進したいと考える分野を聞いたところ、「シティプロモーション」「観光振興」「情報発信」が多かった。

一方、Q18～Q19 で学生に聞いた今後参加したい活動の回答と比べると、関連する項目として「観光マップ作成」「SNS での広報」「まち歩きガイド・案内」はそれほど高い数値ではないが、「外国人との交流（観光案内等）」は高い数値となっている。このことから、外国人向けの観光振興施策等については、多くの学生が参加希望を持っているため、参加を募りやすい事業といえる。

多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査から、多摩地域における学生は、活動内容に興味・関心があれば地域活動に参加する意向が高く、参加経験が増えるにつれ、地域への愛着が深まり、主体的に取り組む傾向があることもわかった。

広域的な観光振興施策に取り組むに当たっては、このような学生の熱意や活力を生かした活発な施策展開が求められる。



第3章 広域的観光振興による事業展開の 先進事例調査

多摩地域 26 市が一体となった「観光地域づくり」を進めるに当たっては、各市がどのように連携し、どのように取り組んでいくのかという点が重要になる。

そこで、本章では、既に複数の市町村等が連携して「観光地域づくり」に取り組んでいる事例について、それぞれの取組内容を把握し、どのような手法を用いて進めているのか、どのような課題があつてこれをどのように克服しているのかなどを調査することにより、多摩地域 26 市の連携に向けた取組の参考にする。

まず、多摩地域において、既に複数の市が連携して事業を実施している連携活動について、次のとおり、連携組織へ聞き取り調査を行う。

調査先	連携活動の組織名	調査ポイント
国 分 寺 市	国分寺・府中観光振興連絡協議会	○連携による成果・メリットは何か ○連携事業を実施していくに当たり、課題となってくることは何か ○現状の連携状況から見た、多摩地域 26 市連携の可能性
調 布 市	三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！コミュニティサイクル促進事業連絡会	
あきる野市	秋川流域ジオパーク推進会議	
福 生 市	昭島・福生・羽村観光推進協議会	

次に、今回の提言テーマである「観光地域づくり」に関して、日本版DMO候補法人登録制度等について、次のとおり、観光庁観光地域振興課へ聞き取り調査を行う。

調 査 先	調査項目
観光庁観光地域振興課	○制度開始に至る背景 ○日本版DMOの役割 ○制度概要 ○これまでの登録実績 ○現状における課題

そして、実際に、DMOを立ち上げ、日本版DMO候補法人として観光庁に登録し、活動している団体の実情について、次のとおり、聞き取り調査を行う。

調 査 先	調査項目
○一般社団法人墨田区観光協会 ～都内における事例 ○一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社 ～複数市町間連携による事例 ○一般社団法人豊岡観光イノベーション ～民間事業者との連携による事例 ○一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO) ～広域的展開による事例	○組織設立に至るまでの経緯 ○組織の概要 ○これまでの主な取組内容 ○課題としてとらえている事項 ○これまでの取組からのDMOについての考え

第1節 多摩地域における連携活動の事例調査

東京都市長会と東京都町村会では、多摩・島しょ地域の魅力を高めるために、市町村共同事業助成事業を実施している。

この助成事業のうち、多摩・島しょ広域連携活動助成事業は、平成18（2006）年の東京都市長会政策提言「広域連携の勧め」に基づき、多摩・島しょ地域の市町村が立ち上げる新たな連携活動の支援、既存の連携活動の活性化、並びに市町村職員の交流及び人材育成、ひいては多摩・島しょ地域の魅力を高めることを目的として、二以上の多摩・島しょ地域の市町村で組織する協議会、研究会、連絡会等（以下「連携組織」という。）に対して、助成金を交付している。

多摩地域には、この広域連携活動助成金を活用し、複数市町村が連携し、広域的な観光振興事業に取り組んでいる事例がある。そこで、各市がそれぞれで観光振興事業に取り組んでいる中で、それとは別にあえて連携して取り組んでいる事例を調査し、連携による成果と課題を把握する。

1 国分寺・府中観光振興連絡協議会における取組について

国分寺・府中観光振興連絡協議会の概要

■構成団体	国分寺市・府中市・国分寺市観光協会・（特非）府中観光協会
■取組内容	国分寺・府中 観光振興創出事業
■連携目的	両市が持つ「歴史」という共通の観光資源の更なるPRのため

（1）連携に至るまでの経緯

武蔵国の国府があった府中市と、武蔵国分寺があった国分寺市という、歴史的につながりの深い両市で連携して事業が実施できないかと考えたのがきっかけである。

（2）国分寺・府中観光振興連絡協議会（連携組織）の概要

協議会の委員は、両市の所管課長（文化財担当・観光担当）、両市の観光協会の会長・副会長（事務局長）で構成されている。このほかに、市・観光協会双方から事務局員として担当者が存在する。

事務所はなく、事務局員も専任ではない。月に1回、委員による連絡協議会が開催され、この会議が意思決定機関となっている。

また、活動の資金について、広域連携活動助成金と両市からの負担金を財源としている。

（3）主な取組内容

観光アプリの作成 （※図表3-1）

両市の観光スポットを楽しく巡るための観光アプリ「ぶらり国・府」を作成し、歴史・文化・自然などの観光スポットやお店、イベント情報、おすす

め観光コースや地域の豆知識などの観光情報を掲載しているほか、指定の場所でご当地キャラクターのフォトフレームと写真撮影できるコンテンツもある。また、外国人観光客向けに英語・中国語・韓国語版も公開している。

観光ガイドブック（じゃらん）の作成（※図表 3-2）

フリーペーパーの観光ガイドブック「国分寺・府中じゃらん」を作成し、両市の特徴的な観光資源である歴史的な観光スポットを結ぶ周遊モデルコースの提案をはじめ、様々な観光情報、グルメ情報を掲載している。

手ぬぐいスタンプラリー（平成 28 年）の実施（※図表 3-3）

手ぬぐいをスタンプ台紙として両市の観光スポットやイベントでスタンプが押せるスタンプラリーを実施している。

観光プロモーションの展開

JRA 東京競馬場での観光 PR や、観光物品の相互販売など、イベントなどを通じた観光プロモーションを随時行っている。



図表 3-1 観光アプリ 府中市 HP より引用



図表 3-2 国分寺・府中じゃらん 国分寺市 HP より引用



図表 3-3 手ぬぐいスタンプラリーでぬぐい完成例

（４）連携によるメリット・事業効果

連携することで、両市の観光客を相互に周遊させることが可能となり、双方にとって大きなメリットがあると考えているとのことである。

また、歴史という両市に共通する観光資源を、双方がアピールすることで、歴史に興味がある層へ効果的な PR が実現できているとのことであった。

事業効果としては、毎年行っている調査結果によると、国分寺・府中両市の認知度の向上が確認できる。さらに、一度訪問した観光客のリピート率が高く、一定のファンを獲得できている。加えて、事務局内部での効果として、両市の取組に関する情報の交換や共有により、職員が相互に切磋琢磨することができるなどもあるとのことである。

（５）課題としてとらえている事項

現在、連携組織が直面している課題・問題点では、連携活動による一定の成果は出ていると考えているが、今後の東京 2020 大会を見据えたインバウンド対策の取組強化など、今後、いかにして連携事業の拡大を図っていくかが課題と考えているとのことであった。

また、活動経費についても、両市が負担をしているが、継続的に財源が確保される保障はない。

今後の事業の発展・継続に向けて、まずは、連携組織の運営体制を強固なものにしていくことが重要であると認識しているとのことであった。

(6) 多摩地域 26 市での連携可能性について（連携事業実施経験からの考え）

多摩地域 26 市が連携して観光に関する取組を行うことの可能性については、単に、行政が集まって、各市が持つ地域資源を寄せ集めただけでは、広域連携の取組は難しいとのことであった。

したがって、行政職員がただ集まるのではなく、地域で観光やまちづくりに関わっている人のほか、例えば観光コンサルタントなどの専門家などを加え、様々な視点から地域資源を分析し、それを効果的に見せるための工夫をしていくことが必要である。また、区部や観光資源が豊富にある観光地とは異なる、多摩地域 26 市だからこそ持つ魅力や特長をアピールすることが重要であるとのことである。

2 三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！コミュニティサイクル促進事業連絡会における取組について

三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！コミュニティサイクル促進事業連絡会の概要

■構成団体	三鷹市・小金井市・調布市
■取組内容	三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！ コミュニティサイクル促進事業
■連携目的	京王線・中央線の二つの鉄道路線を結ぶ誘客の実現とレンタサイクル

(1) 連携に至るまでの経緯

京王線と JR 中央線を結ぶ南北のラインからの誘客が少ないという課題について、広域連携による観光施策の実施により解消できないか、また、3 市のエリアにおけるレンタサイクル事業の可能性を検証することを目的として連携を検討した。

調布市では、平成 25（2013）年度にコミュニティサイクル事業を実施したが、広域連携による事業実施により更なる集客効果の向上を図りたいという意向があった。

(2) 三鷹市・小金井市・調布市エリアの魅力再発見！コミュニティサイクル促進事業連絡会（連携組織）の概要

定期的に連絡会議を開催している。この会議が意思決定機関となっており、各市の観光協会も参画している。

(3) 主な取組内容

レンタサイクル×スタンプラリーの開催 (※図表 3-1)

三鷹市・小金井市・調布市の観光スポットを無料のレンタサイクルで回り、スタンプを集めると、景品として各市の特産品などを抽選で贈呈する。

3 市合わせて 9 か所の観光スポットと、5 か所のサイクルポートをラリーポイントに指定する。サイクルポートは、実施期間のみに設置する臨時的なものであり、50 台（各ポート 10 台）の自転車を設置する。また、サイクルルートマップを作成 (※図表 3-2) し、「神社仏閣めぐり」などのテーマによる周遊モデルコースを紹介するとともに、周遊時に利用できるグルメ情報やイベント情報なども掲載している。

外国人・留学生向けのサイクルツアーの企画・運営

東京 2020 大会開催を見据え、訪日外国人誘致のモデルを確立することを目的に、ツアーを企画・運営している。地域を巡ってどのようなポイントに外国人が魅力を感じるかなどを調査し、今後の企画につなげていく。



図表 3-1 「レンタサイクル×スタンプラリー」パンフレット 調布市HPより引用



図表 3-2 サイクルルートマップ

(4) 連携によるメリット・事業効果

連携することにより、地域としての一体感が増し、各市の強みが強調されるとともに、共同で広報をすることで情報発信力が高まったとのことである。

さらに、他自治体の職員との交流により、個々の職員のスキル向上につながっているといった効果もあると感じているようである。

また、事業効果としては、観光事業として、三鷹市・小金井市・調布市エリアの広域地域を周遊できる新しい回遊ルートの開発に加え、自転車が有効な交通手段であることが実証されたことを挙げている。

実際に、JR 中央線と京王線を結ぶ南北の交通手段が少ないため、本事業により、南北の回遊ルートでの利用者が多いことが確認できたことは大きな検証結果となったとのことである。

(5) 課題としてとらえている事項

現在、連携組織が直面している課題・問題点については、各市の予算措置の問題や各市の取組方針の違いを一本化することが難しいとのことである。

(6) 多摩地域 26 市での連携可能性について（連携事業実施経験からの考え）

多摩地域 26 市が連携して観光に関する取組を行うことの可能性については、26 市全体で多摩地域の魅力を PR することについては、どの市も連携するメリットはあるとは思われるが、26 市を統括できるような機関が一括管理で各市の音頭を取ることが、統一感のある多摩の魅力発信には不可欠との意見があった。現状においては、多摩地域において、本事業のような連携組織は様々な分野で多数存在していることもあり、一括管理の必要性を感じているとのことである。

また、各市が連携に参画するに当たっては、広域連携することのメリットが明確になっていると参画しやすいとの意見があった。例えば、宿泊施設のない A 市の観光客を、観光スポットがない B 市が宿泊客として受け入れるなど、1 市では解決しない部分をフォローしあうことで、双方にメリットを持たせるなど、可能性は様々な教えられるだろうとのことである。

3 秋川流域ジオパーク推進会議における取組について

秋川流域ジオパーク推進会議の概要

■ 構成団体	あきる野市・日の出町・檜原村
■ 取組内容	秋川流域ジオパーク推進事業
■ 連携目的	秋川流域のジオパーク認定を目標に近隣 3 市町村で連携することで、3 市が持つ観光資源の PR 向上

(1) 連携に至るまでの経緯

環境に関する市民活動の中から「ジオパーク認定」についての提案を受けたことをきっかけとして、あきる野市から 2 町村に連携を申し入れ、推進会議を設置した。3 市町村は同じ生活圏にあり、既に観光について、あきる野・日の出・檜原地域観光まちづくり推進協議会を設置し、連携事業の実施をしていた経緯もあり、相互連携しやすい関係にあった。

(2) 秋川流域ジオパーク推進会議（連携組織）の概要

推進会議は、3 市町村の事務局職員を含め 27 名で構成しており、専従者はいない。構成メンバーは、大学教授などの専門家、観光協会の代表者（事務局長＝市民）、商工会の代表者、市民、自然保護官（環境省）、事務局（3 市町村担当部署の職員）となっている。

資金については、連携自治体で 100 万円ずつ拠出して事業を進めているほか、あきる野市が拠点施設の運営費を負担している。

今後の継続的な運営に向け、実行委員会形式などに組織体制を変えていく必要があると考え、平成 28（2016）年度に、推進会議の下部組織として、ガイド部会とツーリズム部会の 2 部会を設置した。

(3) 主な取組内容 (※図表 3)

日本ジオパーク委員会の日本ジオパーク認定に向けて、調査・研究を行うとともに、化石発掘体験やツアー開催などに取り組んでいる。

あきりゅうジオの会発足 (平成 28 年度)

将来のガイド育成に向けた講座から発足したボランティア組織によるジオツアー (観察会) を 5 回開催しているほか、月に一度、全体会議を開催し、活動報告や勉強会などを行っている。

国立公園と連携した保全活用推進委託業務

環境省との連携事業として、秩父多摩甲斐国立公園と連携した保全活用委託業務を実施している。

地学学習会等のサポート

環境省や地学教育等の目的で来訪した教育機関の野外学習会に講師を数回派遣した。



(※図表 3) 秋川流域ジオパーク推進会 HP・facebook より引用。積極的な情報発信を行っている。

(4) 連携によるメリット・事業効果

3 市町村が費用分担することで、自治体単独では実施できない規模の事業を実現できた。その予算規模を生かすことで、秋川流域ジオパーク推進会議の運営や、(特非) 日本ジオパークネットワークへの参画が可能となり、情報発信力の強化につながった。

(5) 課題としてとらえている事項

地域への経済効果を短期間に捉えることが難しく、本格的な認定手続きを進めるためには、専任職員の配置などの人的措置と継続的な予算措置が課題となる。

(6) 多摩地域 26 市での連携可能性について (連携事業実施経験からの考え)

ジオパーク認定に向けた取組は、広域におけるブランディングの一つであり、多摩地域において、テーマ性を持った観光エリアが連携することで、旅行者 (特に外国人旅行者) の多様化するニーズに応えることができる。これは、エリア内に点在する観光資源を相互に結び付けて、相乗効果により魅力を向上させるとともに、潜在的魅力がありながら知名度が低かった地域資源の掘り起こしをも可能にするとのことである。

広域連携の事業によりエリア内の経済波及効果を高めることを期待したい。

4 昭島・福生・羽村観光推進協議会における取組について

昭島・福生・羽村観光推進協議会の概要

- 構成団体 昭島市・福生市・羽村市
- 取組内容 昭島・福生・羽村観光活性化事業
- 連携目的 3市連携によるスケールメリットを生かした観光資源の活用やPR

(1) 連携に至るまでの経緯

西多摩のグリーンツーリズム中心地域と立川の都市型観光の間に立地している地域のため、観光客にとってのエアポケットとなっていた。この現状を打破すべく、3市で、スケールメリットを生かしたPRを行い、存在感を示すため、連携組織を設立した。

(2) 昭島・福生・羽村観光推進協議会（連携組織）の概要

必要に応じて連絡会議を開催している。この会議が意思決定機関となっている。会議の会場は、連携市で持ち回り、会議後は開催市が職員の交流会を開催し、親睦・連携を深めている。

(3) 主な取組内容

ワークショップの開催

連携各市の職員、観光協会の会員、事業者や市民団体の方々が集まり、広域観光ツアーを企画するワークショップ「旅づくり塾」を開催している。ここで出た意見を踏まえ、モニターツアーを開催した。（※図表 3-1）

ご当地観光パンフレット（じゃらん）の作成

3市の観光資源を紹介するご当地観光パンフレットとして、フリーペーパーの「昭島 福生 羽村 じゃらん」を発行した（※図表 3-2）。

川などの3市が共有する水資源に着目し、「水でつながる」をテーマに3市を紹介した。日本語版だけでなく、英語版も作成し、外国人観光客の誘致も視野に入れている。



（※図表 3-1）モニターツアーチラシ 羽村市公式サイトより引用



（※図表 3-2）じゃらん

（４）連携によるメリット・事業効果

各市単独では、観光客の呼び水となる強力な観光資源が乏しく、また、受入体制が整っていないという弱点を、連携することにより相互に補うことが可能となり、単独の市では実施できない規模の事業を実施できているとのことである。

また、観光客は、市というくくりで訪れる場所を捉えるわけではないので、近隣どうして行政境を越えた観光資源の紹介をすることで、観光客が真に求める情報を提供することができたと考えているという。加えて、取組を通じて、行政職員だけでなく、各市の観光協会や関係事業者等の相互交流が図られるなど、今後の取組推進に向けた連携の醸成にもつながっているとのことである。

（５）課題としてとらえている事項

現在、連携組織が直面している課題・問題点については、一番大きな課題として財源確保を挙げている。現在は、補助金等の交付を受けていないので、各市のイベントへの相互参加など、なるべく各市の負担が少ない範囲での取組による連携の継続とならざるを得ないとのことである。

（６）多摩地域 26 市での連携可能性について（連携事業実施経験からの考え）

多摩地域 26 市が連携して観光に関する取組を行うことの可能性では、26 市の連携という規模になると調整が極めて困難になるのではないか、との指摘があった。各市ができる範囲で取り組むことが成功の鍵であるという。

また、観光地としての多摩地域の捉え方として、当初から観光目的の長期滞在者を誘客するのではなく、会議などで東京に来た人を多摩地域に誘致することに注力すべきだという。東京へ来る観光客が何を目当てに来るのかを考えると、どうしても観光資源が豊富な東京都心部が中心となる。だが、多摩地域は、半日程度時間があれば、東京都心から移動して、十分観光できる位置にある。このように、戦略を立てた取組を行っていくべきではないかとのことである。複数の市町村が集まってツアールートができれば、ニーズが見込めるのではないかと考える。

一方、多摩地域 26 市が一体となったDMO設立となると、各市によって観光協会との関係や役割分担等が異なる状況があることから、全ての市が一堂に集まり、DMOによって各地の観光振興を主導していくことは、非常に困難ではないかということであった。

第2節 日本版DMOについての先進事例調査

国（観光庁）は、DMOの形成・確立に向けた取組を主導し、これを全国各地で進めている。

そこで、DMOの形成・確立に向けた取組の現状を把握するため、日本版DMO候補法人登録制度の申請・登録状況について観光庁に聞き取り調査を行うとともに、実際にDMOを設立・運営している事例を調査し、多摩地域 26 市が一体となった観光地域づくりや、その担い手としての「多摩地域版DMO」の設立可能性について、課題や問題点を明らかにする。

1 日本版DMO候補法人登録制度の現状について（観光庁）

（1）これまでの登録実績

平成 27（2015）年 11 月に日本版DMO候補法人の登録制度を創設し、平成 29（2017）年 1 月 20 日現在、第 7 弾までの登録が行われ、広域連携DMOが 4 法人、地域連携DMOが 56 法人、地域DMOが 63 法人で、合計で 123 法人が登録している。登録についての相談があることから、登録数は更に増える見込みとのことである。

（2）登録申請の傾向

①DMOの設立主体について

DMOは、民間が主体となって新たに設立することも可能である。

登録の現状としては、行政が主導して、地域に既にある観光協会を母体にした設立事例が多いとのことである。

しかしながら、民間団体からの新たな組織設立に向けた問い合わせもあり、設立に当たって行政をいかにして巻き込んでいくかという質問が多い。登録には、必ずしも行政が主導する必要はないが、観光地域づくりに向けた、地域全体の舵取り役がDMOには求められていることから、行政の参加が不可欠であるということがうかがえる。

②申請団体における運営資金確保の手法について

現状においては、行政の補助金に頼る団体が多いとのことである。

一方で、行政の補助金とは別に、様々な形で運営資金を確保する事例も出てきている。自ら旅行商品を開発したり、入湯税や宿泊税といった法定外目的税の導入を検討したりといった例があるとのことである。

③データ収集・マーケティング等の専門的知識を持つ人材の確保事例について

観光協会の既存職員に、データ収集やマーケティングの役割を付与している事例が多いとのことであるが、中には、専門的な知識を持った民間出身者や外国人を雇用し、インバウンド対応を行っている事例もあるとのことである。観光庁では、情報支援、財政支援とともに、人材支援として、人材育成プログラ

ムの開発・提供のほか、人材の地域とのマッチングや派遣を行っている。

(3) 現状における課題

登録数は増えているものの、日本版DMOの趣旨が十分に理解されていないと感じることがあるという。

例えば、申請内容から、関係者との連携内容・役割分担が不明瞭なものや、民間手法を生かした体制づくりでないものが、いくつか存在するとのことである。

また、地方においては、マーケティングやブランディング等に関するノウハウや専門的知見を有する人材が都市部に比べ不足しているという現状もある。

こうしたことから、観光庁では、まずは、観光協会等の既存の観光振興組織との違いや、日本版DMOの基本的な考え方・要件をわかりやすく示していくとともに、登録後の支援を充実させていくとしている。

(4) 今後の支援について

現在、登録団体への支援の大きなものとしては、地方創生推進交付金による財政支援がある。

今後は、人材確保についての支援を充実させるため、課題にもあるマーケティングやブランディング等に関するノウハウの習得や専門的知見を有する人材確保についての支援として、専門的知見を有する人材のデータベースを備えた、観光地域のマネジメント・マーケティングを行うための支援システムを現在開発中とのことである。

2 日本版DMOの設立事例

実際に、日本版DMOとして組織を立ち上げ、観光庁に登録して、活動している事例に関して、DMO候補法人登録に至るまでの経過、現在の活動状況などの実情について、聞き取り調査を行う。

(1) 単一自治体を対象地域とする事例（墨田区観光協会）

単一自治体を対象地域として、日本版DMO候補法人登録を行っているのが、一般社団法人墨田区観光協会である。（※図表 1-1）

（※図表 1-1）【日本版DMO候補法人登録概要】 観光庁 HP 登録候補法人の形成・確立計画から引用

名 称	一般社団法人墨田区観光協会
登 録 区 分	地域DMO
マーケティング・マネジメント対象とする 区 域	墨田区全域
設 立 時 期	平成 21 年 4 月 1 日
職 員 数	52 名

連携する事業者名 及び 役 割	JTB・東武トップツアーズ・JR 東日本他（着地型旅行商品の開発・販売）、すみだ地域ブランド推進協議会（ブランド商品の販路開発及び販売）、地元及び近隣区の舟運事業者（舟運の開発・販売）
実 施 体 制	（一社）墨田区観光協会が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、生産事業者など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施

①組織設立に至るまでの経緯

平成 18（2006）年に東京スカイツリーの建設が決まり、観光振興の機能を発展強化するため、区の方針により、それまでの墨田区文化観光協会（区の外郭団体）を自立させ、平成 21（2009）年 5 月に一般社団法人墨田区観光協会を設立した。この組織をそのまま維持し、DMO 候補法人として平成 28（2016）年に登録したものである。

それまでのような区の事業を請け負うのみではなく、「民間の発想を導入した、自ら稼げる組織」を目指したものであるとのことである。

②組織の概要

交通事業者や宿泊業、地域の主要民間企業などの代表者を構成員とする理事会を設置している。理事会は 30 人程度で構成し、月 1 回開催されており、協会の事業に対する意見や助言を得ている。

理事会を必ず開催することが重要であり、構成員が集まることが苦痛になるようではうまくいかないと考えている。

理事会は、各事業者の情報交換、PR の場とも考えており、出席者からの情報提供・PR の時間を必ず設けている。結果として、参加者の意欲が高まるとともに、最新情報が入手できるなど利益が大きい。そのため、毎回の出席率も高い。

また、墨田区との関係では、区はあくまでアドバイザーであり、法人の経営には関与していない。そのため、区からの派遣職員もいない。ただし、組織の運営以外では、区との連携が図られている。基本的に、区の計画・方針に沿って事業を実施しており、協会独自の方針を打ち出す予定はない。区の計画策定にも参画するなど、全般にわたって区と一緒に取り組んでいる。

財源については、自主事業収入と区からの委託事業収入がほぼ 5 : 5 の割合であり、その他、会費収入や企業からの寄付等で成り立っている。

③これまでの主な取組内容

「産業観光プラザ すみだ まち処」の運営（※図表 1-2）

墨田区が東京スカイツリータウン内の商業施設にオープンした「産業観光プラザ すみだ まち処」の運営を区から受託している。墨田区の PR や物産品の販売を行っている。

このほかにも、街歩きガイドツアーの販売や観光マップの制作販売なども手がけている。



(※図表 1-2)「産業観光プラザ すみだ まち処」の様子

一般社団法人墨田区観光協会HPから引用

④課題としてとらえている事項

DMOの設立から運営に至るまでの課題や問題点としては、墨田区での観光は、観光スポット1か所当たりの滞在時間が短いことであり、平均滞在時間は2時間ほどと言われている。そのため、観光客1人当たりの墨田区内での消費額も低い。また、法人の運営面では、資金確保が大きな課題であり、自主事業による収入率を上げていかなければならないとしている。

⑤これまでの取組から、DMO設立に対する意見・助言

DMO登録申請に当たって、新たに何かをするということではなく、あくまで観光協会におけるこれまでの活動の延長線上でのことだったという。

また、自治体同士の連携によるDMOの設立については、各市それぞれの考えやスタンス、また関係団体等の関係や行政の立ち位置などが異なり、意思決定もままならず、困難ではないかという意見があった。

一度連携すると、その連携の枠の範囲内でしか各自治体は活動できなくなる。各自治体で抱える課題が異なることもあるので、各自治体の課題に対しては自治体ごとに取り組めばよいという意見があった。

小さな取組の集合体がDMOであると考えれば、各自治体がDMOとして活動し、案件に応じて連携して取り組む方が、効果的な事業が実施できるとのことである。

(2) 複数自治体連携による事例（秩父地域おもてなし観光公社）

一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社は、複数自治体の連携により設立されている点に特色がある。(※図表 2-1)

(※図表 2-1)「日本版DMO候補法人登録概要」観光庁HP「登録候補法人の形成・確立計画」から引用

名 称	一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社
登 録 区 分	地域連携DMO
構 成 自 治 体	埼玉県秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町 ※マーケティング・マネジメント対象とする区域は、上記構成自治体域内
設 立 時 期	平成26年2月27日
職 員 数	52名
連 携 す る 事 業 者 名 及 び 役 割	(一社)秩父観光協会、(一社)長瀬町観光協会、横瀬町観光・産業振興協会、皆野町観光協会、小鹿野町観光協会、秩父商工会議所、荒川商工会、皆野町商工会、長瀬町商工会、西秩父商工会、秩父鉄

	道(株)、西武鉄道(株) (事業協力、情報提供) 秩父旅館業協同組合 (宿泊状況) 秩父観光土産品協同組合、お菓子な郷推進協議会、秩父地場産業振興センター、秩父農林業協会 (地域ブランド 育成)、秩父市雇用創造協議会
実施体制	(一社) 秩父地域おもてなし観光公社が取り組む。取組内容によって、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農業者など多様な関係者が 参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。

①組織設立に至るまでの経緯

<秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町の連携のきっかけ>

この1市4町が連携するきっかけとなったのが、平成 21 (2009) 年に締結した「ちちぶ定住自立圏」ある。これは、総務省のプログラムで、全国的に人口減少や少子高齢化が見込まれている中、周辺の自治体で協力・連携して行政サービスを行うことにより、安心して暮らせる地域づくりを目指すものである。ちちぶ定住自立圏では、医療、産業振興、公共交通などの分野で 1 市 4 町共通の事業が実施されており、その中の産業分野における連携がDMO設立のきっかけとなった。

<一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社の設立>

1 市 4 町が連携して観光を進めていくための組織として、平成 24 (2012) 年に秩父地域観光おもてなし公社が設立された。当初は任意団体だったが、事業実施主体として活動していくに当たり、法人格を有し、意思決定の仕組みが構築された組織が必要という判断から、平成 26 (2014) 年に一般社団法人に移行している。

その後、平成 27 (2015) 年に観光庁が日本版DMO候補法人登録制度を開始すると、秩父地域おもてなし観光公社も登録を行っている。

②組織の概要

公社の代表は秩父市長が務め、専従の事務局長は秩父市からの派遣職員である。事務局の職員は、各市町からの派遣職員で構成されている。

一般社団法人へ移行するまでの平成 24 (2012) 年から平成 26 (2014) 年までの期間は、総務省の若手企業人交流プログラムを活用して、域内を走る鉄道事業者の西武鉄道(株)や、大手旅行会社の近畿日本ツーリスト(株)からの派遣職員で、法人移行への準備を進めた。

公社の理事会は、構成市町の各首長、また、各市町の既存の観光協会と商工会議所の各会長、域内の鉄道事業者である西武鉄道(株)と秩父鉄道(株)の各代表者によって構成されている。理事会は年数回開催され、事業内容等を報告し、了承を得る意思決定機関となっている。

また、各市町の観光担当課長会を開催し、ここにも事業内容の報告を行っている。観光担当課長会は、事業の PDCA サイクルによるチェック機能も担っており、適正な事業運営につながっている。

財源については、収益事業からの収入、県などからの委託事業による収入に加え、ちちぶ定住自立圏による総務省からの負担金も財源となっている。

既存の観光協会との関係

観光事業を進めるために新たな組織を立ち上げたが、既に各市町には観光協会が存在していた。このような状況の中で、なぜ新たな観光組織を作らなければならないのかという意見は多くあった。DMOの立ち上げに当たっては、こうした既存の観光協会を統合し、新しい観光組織として生まれ変わるというのが理想的ではあったが、地域に根付いた各観光協会はそれぞれ特色があり、一つに統合するのは困難と判断された。

むしろ、既存の観光協会が取り組めないことを補完する形でDMOが存在できれば良いと考え、既存の観光協会の合意も得て新たな観光組織として秩父地域おもてなし観光公社が設立された。

③これまでの主な取組内容

民泊を活用した修学旅行の受入れ (※図表 2-2)

農村生活や郷土料理を観光資源と捉え、一般家庭での宿泊による修学旅行の受入を行い、農業体験や地元の方との交流による体験型受入教育旅行を実施している。受入先となる民泊受入家庭は公募で募り、現在は 200 件以上の登録があるとのことである。

昨年度は関西地方の 5 校の修学旅行の受入を行っており、現在最も大きな収益事業となっている。これは、既存の観光協会ができなかった取組事例の一つである。

レンタサイクル (※図表 2-3)

地域内のステーション 6 か所で乗り捨て可能なレンタサイクルを実施しており、自転車で秩父地域の街並みや自然を巡る観光を提案している。

自転車は全部で 110 台所有しており、秩父地域おもてなし観光公社が購入した。所有者は公社だが、レンタル業務を既存の観光協会が担い、得た収益は、公社と観光協会が折半している。

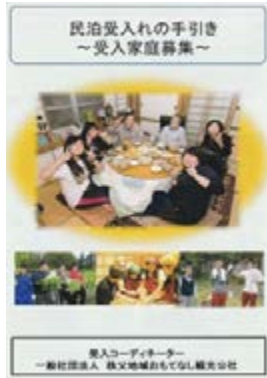
「ことりっぷ」秩父版の発行 (※図表 2-4)

㈱昭文社が発行する、女性に人気のあるガイドブック「ことりっぷ」秩父版の制作に全面協力し、ガイドブックの一部を抜粋した無料小冊子もあわせて作成し、イベントなどで配布した。電子書籍としても作成しており、一定期間、無料ダウンロードを可能としていた。

地域製品の取組

秩父観光土産品共同組合が、自生するカエデから採取したメープルシロップを使った商品開発を進めており、その発信拠点としてカフェショップ (※図表 2-5) をオープンした。開業に当たっては、公社が独立行政法人・中小企業

基盤整備機構と秩父観光土産品共同組合とのマッチングを行い、補助金交付の支援を受けている。今後、このメープルシロップを地域産品のひとつとして開発を進めていきたいとしている。



(※図表 2-2) 民泊受入の手引き



(※図表 2-3) レンタサイクルパンフレット



(※図表 2-4) 「ことりっふ」秩父版



(※図表 2-5) 秩父産メープルシロップの発信拠点となるカフェ「メープルベース」

④課題としてとらえている事項

収益事業をしっかりと構築し、行政との役割分担を明確にし、公社の立場を採用することが当面の課題と捉えている。

また、事務局員について、派遣職員はいずれ帰任することになるので、専従職員を確保していく必要があるとのことである。

⑤これまでの取組から、DMO設立に対する意見・助言

日本版DMOとして登録するために団体を立ち上げたのではなく、設立していた団体が同様の目的を持っていた。

また、DMOの趣旨からすると、各地の観光協会がDMOのような機能を持つことが最善ではないかとのことであった。

なお、一般的には、多くの自治体との連携となると難しく、あまりに範囲が広いと、マネジメントもマーケティングも困難となる。例えば海と山では資源が全然違う。物産品も各地で異なっているなかで、どのように一体としてPRしていくかは容易ではない。そのため、「観光」については、ゆるやかな連携が必要であり、頑とした方針などを立てると、各自治体それぞれの姿勢や方針があるなかで、まとめるのは非常に困難になるという。

また、各自治体で、やりたいこと・やれることはそれぞれで取り組んでいる。秩父地域おもてなし観光公社では、単体の自治体ではできないことをやってきた。修学旅行では、町だけだと学校を受け入れるだけの宿泊先が確保できない。連携により、市も宿泊先を確保することで、実現が可能となった。

(3) 民間事業者との連携による事例（豊岡観光イノベーション）

民間事業者と行政の双方が主体的に連携した官民連携DMOのモデルと言われるのが、一般社団法人豊岡観光イノベーションである。(※図表 3-1)

(※図表 3-1) 【日本版DMO候補法人登録概要】 観光庁 HP 登録候補法人の形成・確立計画から引用

名 称	一般社団法人豊岡観光イノベーション
登 録 区 分	地域連携DMO
構 成 団 体	豊岡市、WILLER CORPORATION(株)、全但バス(株)、(株)但馬銀行、 但馬信用金庫 ※隣接する京都府京丹後市とも連携
設 立 時 期	平成 28 年 6 月 1 日
職 員 数	9 名
実 施 体 制	・経営管理部門、マーケティング部門、営業部門を設け、組織をマネジメントする人材（専務理事）を大手商社から派遣を受ける。 ・スタッフは、WILLER CORPORATION(株)、全但バス(株)、(株)JTB、(株)但馬銀行、豊岡市からの派遣を受け、専務理事を含めて合計 9 名体制で事業の実務を担う。 ・また、豊岡観光イノベーションは、民間事業者と強く連携を図り事業を展開する。 ・WILLER グループが豊岡市内に設立する地域商社「WILLER CORPORATION(株)」、全但バス(株)が城崎温泉で運営するインフォメーションセンター「SOZORO」及び「豊岡 DMO」の三者を豊岡 DMO 機構と位置付け、密接に連携する。 ・このことにより、地域の素材を国内のみならず世界のマーケットに流通させる仕組みを作る。

①組織設立に至るまでの経緯

<民間事業者との連携の経緯>

豊岡市から民間事業者へ参画を働きかけ、設立に至っている。

連携先として、地元のバス会社である全但バス(株)とは、最初から参画を想定していたとのことである。豊岡市は二次アクセスについて課題となっている地域のため、交通を担当する全但バス(株)とは連携を考えていたためである。

また、両者の不得意分野である「売り出していく」ことを担えるところが必要だと考えていたところ、WILLER グループに地域商社を設立しようという動きがあることがわかり、豊岡市がアプローチした。

WILLER グループは、旅行業や高速バス事業を展開する事業者で、平成 27 (2015) 年 4 月から、京都丹後鉄道の運行業務を担っている。鉄道会社として沿線にある自治体の市長と関わる中で、地域の活性化に貢献したいとの社長の考えもあって、地方商社を設立し、DMOに参画することとなった。

その後、地域の活性化に必要であるため、地域の銀行である(株)但馬銀行や但馬信用金庫からの参画合意を得てDMO設立に至った。設立に当たっては、各参画主体がそれぞれ基金を拠出し、法人の理事長に豊岡市長が就任することとなった。

＜既存の観光協会との棲み分け＞

当初は、既存の観光協会をDMOに統合しようとしていたが、観光協会同士でも温度差があり、結果として統合しない方がよいという結論に達した。観光協会自身も統合を望んでおらず、また、DMOとしても観光協会を統合することで、これまでと取組に差異がなくなることも危惧されたためである。

DMOとして直接事業者と繋がる方が早く結果が出せるのではないかという思いがあり、また、観光協会には公平性が求められるため、そこを打破したいという意見も出ていた。

既存の観光協会は、DMOの会員ではなく、現在のところ、DMOとは連携していない。しかし、連絡をとりながら事業を進めていく必要があるとは考えている。マーケティングやインバウンド対策など、観光協会ができていないところをDMOが担任するということで整理している。

＜行政との関係＞

法人としては、市からはある程度独立性を保っていた方が良く考えている。DMOの後ろ盾として行政がいることで事業者や客の信頼を得やすいというメリットがある。

市の観光担当部署とは、今はあえて明確な役割分担をしていない。現在は市からの受託業務はほとんどない。市としてもDMOに事業委託していく意向はあるとのことだが、設立から日が浅く、人材不足でもあり、今のところはまだ受託できる準備が整っていない状況である。

②組織の概要

(一社)豊岡観光イノベーションは、事業の実行を担う部署として事業本部を設置し、経営管理部、マーケティング部、営業部を設けている。事業本部長には大手商社三井物産株式会社から、職員はWILLER CORPORATION(株)、全但バス(株)、(株)JTB、(株)但馬銀行、豊岡市から派遣を受け、さらに国のプログラムによる国際交流員が派遣され、本部長以下合計8名という体制で事業の実務を担っている。

役員については、理事長の豊岡市長のほか、構成5団体（豊岡市・WILLER CORPORATION(株)・全但バス(株)・(株)但馬銀行・但馬信用金庫）の代表者や民間企業、経理事務所等、11人で構成される。

事業実施における意思決定については、役員による理事会が意思決定機関となる。年3から4回程度、開催を予定する。

③これまでの主な取組内容

宿泊予約サイト Visit Kinosaki の運営

(※図表3-2)

海外からの観光客が海外の予約サイトを利用して来訪することによる資金流出の抑制を目的に開設。観光情報の提供だけでなく、予約可能なサイトで、欧米からの来訪客を主なターゲットとして、英語、仏語の2か国語対応としている。海外からの観光客の持つ資金を地域の中に投じて、それを地域の中での活動のための再投資していくことを目指している。



(※図表 3-2) 宿泊予約サイト「Visit Kinosaki」

着地型観光商品の開発・販売 (※図表 3-3)

地域を周遊することにより、観光消費額を伸ばすことを目的として着手した。着地型観光商品を販売するため、DMOとして旅行業の許可を取得し、10月から販売開始している。

マーケティング戦略立案に向けた調査

<戦略ベースシックス作成のための定性調査>

現在、どんな客が来ているかを把握するため、観光客にヒアリングするものである。他の観光地でなく、豊岡に来た理由や、他に比較検討した地域などを聞き、客のニーズを明らかにするための調査を行っている。

<KPI モニタリングのための観光消費額調査>

今後、消費額を上げていく活動をしていく必要があるため、消費額の把握方法、モニタリング方法を検討するために試験的に実施している調査である。その方法は、豊岡市の主な出口である城崎温泉の駅で名刺サイズのカードを配り、帰りの電車の中などでWEB上でのアンケート調査に答えてもらうというものであり、景品を付けることで回答数が多くなるよう工夫している。

ターゲットを絞った動画マーケティング

アメリカを中心に動画配信や動画マーケティングを展開し、また、タイのブロガーに来訪してもらい、ブログやフェイスブックで紹介してもらうなどの取組を実施した。その結果、Visit Kinosaki 利用者として、アメリカとタイが大きく延びた（平成28年11月～8月と平成29年9月の実績を比較）。

KDDI(株)との協定に基づく取組

豊岡市が KDDI(株)と包括協定を締結していることから、DMOも市と共に KDDI(株)のプラットフォームを使い、事業広告配信などを検討している。

<外国人観光客への無料 Wi-Fi 提供>

城崎温泉の地域では、ほぼ面的に無料 Wi-Fi が整備できているため、これを単に提供するだけでなく、使用者の位置情報を取得し、その動きを把握できるようになっている。



(※図表 3-3) 着地型観光商品（旅行ツアー）をホームページで紹介

豊岡観光イノベーションのHPより引用

<au スマートフォン利用者の観光動態分析>

KDDI(株)と(株)コロプラが共同でやっている仕組みを活用し、日本人 au ユーザーの移動データを取得。その動きを把握し、今後マーケティング戦略を策定する中で活用していきたいと考えている。

④課題としてとらえている事項

いかに地域が儲かる仕組みを作っていくかが法人の役割であり、課題である。また、地域の事業者とのつながりについては、宿泊施設とはある程度つながりがあるが、それ以外の事業者とはこれから関係を構築していく段階である。

現在、地域の事業者とは、フリーペーパー事業や宿泊予約サイト Visit Kinosaki を通じて、直接関係性ができ始めている。宿泊予約サイト Visit Kinosaki に登録している旅館が 50 軒程度、DMO 会員となっている飲食店が 5 軒程度ある。小さくても成功事例を一つ一つ重ね、地域の事業者との接点を作りながら、パートナーを増やしていく考えとのことである。

また、民間事業者側からすると、DMO に参画するメリットとして、広報的メリットは非常に高いと感じているものの、経済的なメリットは今のところ出ていない。これをいかにして出していくかが非常に重要だが、試行錯誤しているということであった。

⑤これまでの取組からのDMOについての考え

DMO という存在がわかりにくく、DMO という言葉だけが独り歩きし、人それぞれのDMO像を持っているため、共通認識を持つことが大事になる。DMO とは、データ分析とマーケティングの機能を持つところであり、それができる人材が必須であるとのことである。それは、これまで行政や観光協会ができなかった点でもある。現在、(一社)豊岡観光イノベーションには、専門知識を持ったアドバイザーがおり、指導を受けている。法人専従職員や地域の事業者専門知識を持った人材の育成を図ることが一番重要ではないかと考えている。

(4) 広域的展開による事例（海の京都DMO）

京都府の主導により複数自治体がまとまった広域的な地域連携によるDMOが、海の京都DMOである。(※図表 4-1)

(※図表 4-1) 【日本版DMO候補法人登録概要】 観光庁 HP 登録候補法人の形成・確立計画から引用

名 称	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 (通称：海の京都DMO)
登 録 区 分	地域連携DMO
構 成 団 体	福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、 与謝野町観光協会、海の京都観光推進協議会 ※このほか、各市町の既存の観光協会が順次、統合参加する予定
設 立 時 期	平成 28 年 6 月 28 日

職 員 数	総計約 80 名（統合参加予定の観光協会スタッフを含む）
連携する事業者名及び役割	京都府観光連盟、商工会、各商店街、各旅館組合、 京都丹後鉄道（WILLER TRAINS(株)）（アクセス改善、着地型旅行商品） 丹後海陸交通(株)（アクセス改善）、 JR 西日本、京都交通(株)（アクセス改善）、 コミュニティバス、タクシー会社、 JTB 西日本、近畿日本ツーリスト、日本旅行、東武トップツアー、丹後織物工業組合、丹後酒造組合、京都府漁業組合、JA 京都

①組織設立に至るまでの経緯

<DMO設立以前からの連携>

当該地域は古くからの観光地であるが、観光客は減少傾向にあり、以前からプロモーション活動（「丹後広域キャンペーン協議会」）等、広域での観光事業の取組がなされていた。そうした流れから、平成 25（2013）年 4 月、海との関係の強い 7 市町（現 DMO 構成自治体）が広域に連携して海の京都観光推進協議会を設立し、観光圏整備法の観光都市圏としての認定も受け、海の京都としての取組を進めてきた。

海の京都のこれまでの取組成果としては、観光戦略拠点の整備・観光圏認定・交通網の整備・広域プロモーションなどが挙げられる。また、平成 27（2015）年度には、海の京都を PR するため、府と市町が連携し集中的にイベントやプロモーションを行う「海の京都博」を実施した。こうした取組により、観光客が増加している。

一方で、これまでの取組により成果は上がってきているものの、観光圏整備法の求める目標が達成できていないという課題があった。地域で連携して取り組むとしつつも、やはり集客の偏在が見られ、満足度やサービス水準についても地域間格差が顕著な状況であった。

マーケットのデータを収集し、きめ細かに全体で取り組むことで、ひとつの地域だけでは難しくとも、統合し、広域的なストーリーを作ることで観光客の満足度を高めることも可能になる。そのために、行政や市町の観光協会だけではなく、外部の専門家の視点が必要だった。

<DMOの設立>

こうした状況を踏まえ、海の京都の取組のセカンドステージとして、DMO の設立に至った。当該地域の自治体は、元々、様々な行政課題に連携して取り組む意向を持っていた。また、海の京都の取組を契機に、総務省の制度を活用した京都府北部連携都市圏形成推進宣言をしていたものの、連携が具体化しない現状もあり、観光分野の連携の具体化の一つとして DMO 設立に各首長が合意した。

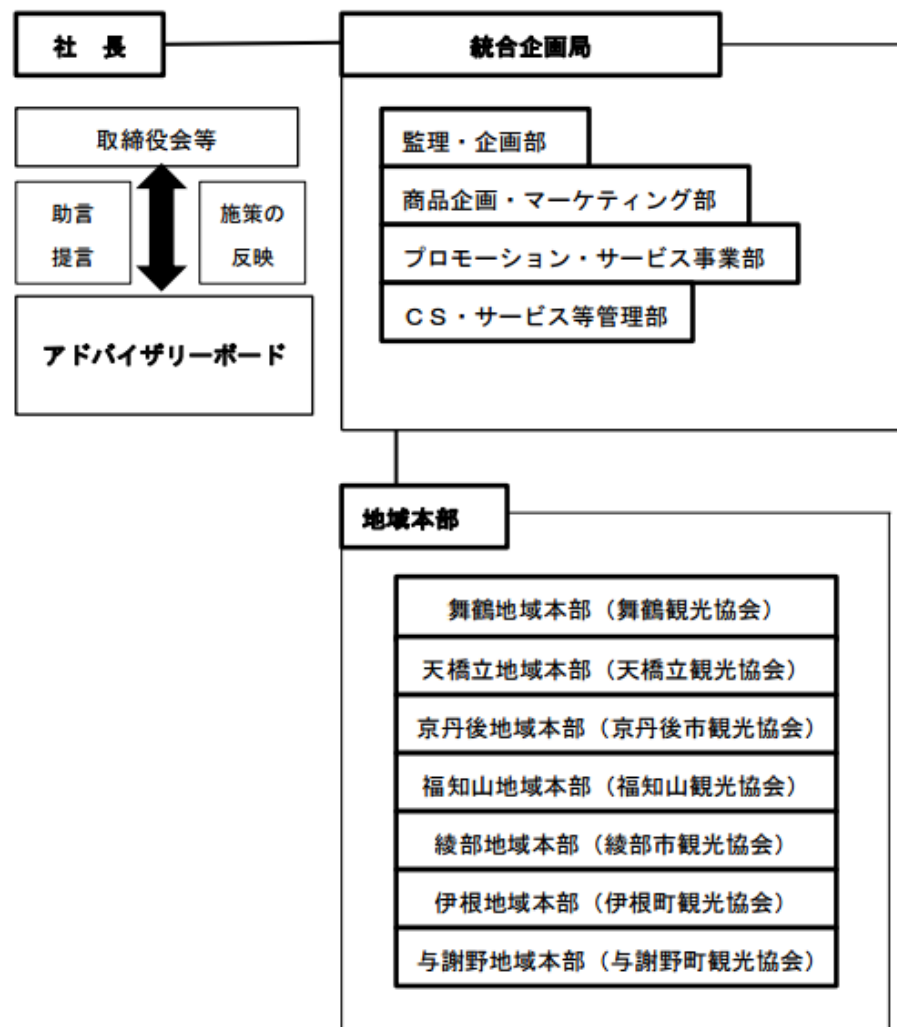
設立に当たって、域内で観光に関連する組織が多数存在し（府、市町、観光協会、海の京都観光推進協議会など）、それ以外にも地域で活動する個人等

が存在するなど、予算や人材も含め北部地域全体の統一的・総合的な観光マネジメントを迅速に展開するのが大変難しい状況にあった。そのため、トップマネジメントのもと、既存の観光協会を一旦廃止し、統合して一つの組織を作るという手法を用いた。ここが海の京都DMOの大きな特徴である。特に、観光協会に対しては、既存の観光協会を廃止統合してまでDMOを設立するメリットや現在抱える課題等について、データなどを基に具体的に説明し、理解を求めた。

②組織の概要（※図表 4-1）

組織体制として、図表 4-1 のとおりの実施体制となっている。

（※図表 4-1）（一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社 実施体制図イメージ）



※観光庁HP「登録候補法人の形成・確立計画」から引用

組織構成としては、社員総会・取締役会・総合企画局・地域本部から成る。社員総会は、最上位の会議である。

取締役会は、社長、副社長、地域本部長、総合企画局長で構成している。

総合企画局は、いわゆるDMOのヘッドクォーター機能を担う部門であり、統計データに基づくマーケティングやCS（顧客満足）、サービスの管理、プロ

モーション事業、商品企画（着地型商品、体験プログラムなど）、管理企画など、横割りの新しい部分を担当する。各地域本部の事業とも整合性をとりながら一体的に行う。

地域本部は、各地域の観光協会地域本部長が既存の観光協会長であり、DMOの取締役となっている。

社員は、京都府及び福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町の7市町、海の京都観光推進協議会長と各地域本部長である。

実務を担う総合企画局職員は、府と3市町からの派遣職員、民間からの派遣職員で構成している。臨時職員を含め11名で業務を行っているが、現在の事業規模では若干人員不足という状況とのことである。民間からの派遣として、(株)JTB 西日本の社員がいるが、プロの目線での着地型旅行商品造成などを担当している。派遣期間は1年単位で、最低3年くらいの派遣継続を考えている。また、そのノウハウを市町からの派遣者に伝えていくことが大事であるとのことである。

既存の観光協会との役割分担について

既存の観光協会は各地域の地域本部となるが、従来と業務内容や組織を一切変更していない。従来から取り組んでいる観光案内業務や市町ごとのイベント、プロモーションなどの業務はそのまま継続可能であり、新たな事業を行う場合にも、各市町だけに関わる事業は地域本部が独自に実施することができる。

ただし、複数の市町に関わるものは、全体の判断で進めていく必要があるため、総合企画局の担当としている。各市町から連携した取組の提案は出されていないが、取締役会の中で意見が出ることもあるため、そうしたものを集約し、総合企画局が具体化している。

総合企画局が企画するに当たっては、地元観光事業者と連携しなければならないため、観光協会（地域本部）とともに直接出向いて調整している。新しい可能性のある店舗や名所に声をかけ、新規のコンテンツを広げると共に、従来から存在する商品も見直しを図っていくため、総合企画局の担当者はかなりの頻度で現地に出向いている。

③これまでの主な取組内容（DMO設立後（平成28年度）の取組）

マーケティング調査事業

- ・WI-FI パケットセンサーによる観光客動向調査・顧客満足度調査 GPS を利用した観光動態調査等

着地型旅行商品等造成・販売促進事業

- ・旅行商品、体験プログラムの開発、流通システム構築等・食のブランド化等

インバウンド対応推進事業

- ・台湾を中心としたプロモーション事業・インバウンド受入体制の整備

人材の育成、地域づくり事業

- ・観光ガイドの養成・観光地域づくりの支援

情報発信・プロモーション事業

- ・誘客連携事業、プロモーション事業・HP 改修、地域資源データベース化

④課題としてとらえている事項

DMOによる取組の現在のところの課題は、地域住民や地域事業者へのアプローチであり、これからそれぞれ取り組むべきものと認識しているとのことである。

また、DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すという限り、既存の観光関連事業者が、より利益を上げられるようにすることが必要となる。

そこで、地域住民を巻き込み、農家民泊などのサービスなど、地域全体として経済的利益が出るような事業に取り組まなければならないと考えている。そして、府と市町とDMOが連携して、啓蒙活動や塾のような形により、地域の事業者や住民のモチベーションを上げる取組をしなければ難しいと考えているとのことであつた。

⑤これまでの取組からのDMOについての考え

一般的に、「DMOは稼ぐ力を持ち、自走する組織である」と言われるが、地域の舵取り役としての公的な部分が大きいことから、その公的な部分についての行政の支援なしに自走することは無理だと考えているとのことであつた。

第3節 調査結果から―多摩地域 26 市が一体となった観光地域づくりに向けて見えてきたもの―

今回の 3 つの調査を実施した結果から、多摩地域 26 市が一体となった観光地域づくりに向けて見えてきたものについて、まとめる。

1 既にある多摩地域の連携活動の事例から見えるもの

既に多摩地域において複数の市が連携して事業を実施している事例調査を通して見えてきた連携の成果と課題や、多摩地域 26 市が連携して事業を実施する際の調査先から出た意見について整理する。

(1) 現状の連携活動事例における成果

①情報発信・PR 力が高まる

連携する複数自治体での広報により、それまでの一自治体のみでの広報と比べ、情報発信・PR 力が高まった。また、共通の観光資源を、興味を持つ層へ PR することで、それまで、それぞれの市にしか訪れなかった観光客が相互に行き来することが可能になり、相乗効果が生まれるなどの効果もある。

②単独ではできない大規模な取組の実現

連携する自治体間でのツアー実施やガイドブックの作成など、単独実施よりも規模の大きな取組の実施が可能となった。

③職員交流によるスキルの向上とノウハウの蓄積

市を跨いだ職員交流、また、行政以外の団体との人材交流により、各人がそれぞれの所属団体ではなかった考えや手法などを学びとることができ、それを所属団体での取組にも生かしていけるというメリットがある。

(2) 課題

①運営資金源の確保

事業実施に予算は不可欠であり、活用できる補助金などがあっても、恒久的に交付が約束されるものではない。また、目に見える成果（利益）が見込まれない中で、各市で予算措置を行うことは簡単ではない現状である。

②事務局運営

連携している各自治体において、連携事業についての考え方や位置付けが異なる中で、調整して運営していくのが難しい現状がある。

(3) 多摩地域 26 市連携に対する見解

現状の 2～3 団体での連携組織においても運営は容易ではない中で、26 市という大規模な連携となると、役割分担が難しく、運営の担い手などに対する懸念が多くあがった。また、26 市を統括できるような機関が主導していかなければ、統一感のある多摩の魅力発信にはつながらないという意見もあった。

2 DMOの設立・運営事例から見てくるもの

日本版DMO候補法人への調査を通して見えてきたDMO設立のメリットや今後DMOの組織設立に当たって留意すべきことについて整理する。

(1) DMO組織設立のメリット

①これまでの観光関連事業事業者が担えない取組の実施主体となる

多摩地域のように、広域で、多様な地域資源を活用していくためには、これまでの宿泊業や飲食業等による観光関連事業者のみならず、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、環境事業等の関連事業者や、地域住民等の多様な関係者を巻き込み、旅行者のニーズの多様化に対応して地域資源を最大限に活用することが必要であり、DMOはこのような関係者間の調整に適した組織である。

②観光商品を扱える主体の存在

多摩地域 26 市が一体となって、これまでにない広域的な観光事業や、旅行商品の開発・販売を行うためには、任意団体などでない、法人格を有し、意思決定の仕組みが構築された組織が必要となる。

③民間からの専門的知見を持つ人材の参入

多くの人の目を引くような効果的なプロモーションや魅力的な旅行商品の開発、各種データの継続的な収集や十分な分析など、明確なコンセプトに基づく観光地域づくりを行っていくためには、行政職員だけでは限界があり、むしろ民間的な手法を導入することが必要である。そのプラットフォームとして、DMOが位置付けられる。

(2) DMOの組織設立に当たって留意すべきこと

①既存の観光協会との関係性の整理

各地域に根付いたそれぞれの観光協会は、その地域の特色や観光に対する取組や姿勢が異なることから、それぞれの観光協会が広域的にまとまって活動することは困難である。そこで、既存の観光協会ができないことを広域的にDMOが担うなど、双方の役割分担を明確にする必要がある。例えば、域内の観光協会は新設のDMOに統合・合流し、一体となって観光事業に取り組む方法もあるが、一方で、各地域の観光事業についてはその地域の既存の観光協会が担い、多摩地域全体にわたるような観光事業については新設のDMOが中心となって各地域の観光協会と連携・協力して事業展開する方法もある。

②行政の支援の必要性和DMOの役割の整理

日本版DMOの設立に当たっては、自立的・継続的に活動するための安定的な運営資金が確保される見通しがあることが求められている。このため、資金確保の手段としては、物販や着地型旅行商品の造成・販売などの収益事業を行うものの、これだけでは安定的な運営資金の確保が難しいのが実情のようである。DMOの性格や役割の公的な面を踏まえ、必要性を十分に審査したうえで、資金を支援していくことが必要である。

第4章 提 言

－多摩地域の魅力協創に向けて－

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会、東京 2020 大会という世界的スポーツ大会の開催を控え、多摩地域にも注目が集まる中、東京の中で埋没することなく多摩地域が存在感を増していくためにも、今こそ観光による連携で、多摩という新しい地域づくりをしていくことが必要なのではないか。

多摩地域が面としてつながり、協調して取り組むことは、これまで各市が独自に取り組んできた観光事業を再構築することでもあり、そこから魅力の再発見やこれまでにない新たな魅力の協創が始まり、東京の中にある多摩地域という存在を強く発信していくことを可能にする。そして、多摩地域の新たな魅力も含め、効率的、効果的に PR し、多摩地域の認知度向上を図り、観光をきっかけとした人的・経済的交流による多摩地域全体の活性化を目指すものである。

人口減少による地域経済の停滞を防ぎ、更なる発展を目指すため、多摩地域が一体となって観光地域づくりに取り組むことを提言する。

1 多摩地域における観光

(1) 現状と課題

第 2 章の「26 市アンケート調査」結果から、多摩地域には約 1,200 もの地域資源が存在しており、各市が独自にこれを活用し、様々な事業を実施していることが明らかとなった。これらの地域資源は、多摩地域の多様な魅力を生み出す源であるが、第 2 章で示したとおり、複数の市で共通するものや類似するものが含まれていた。これは、連携による新たな事業展開の可能性を示すものといえる。

しかし、現在、こうした多摩地域の情報を収集し、整理できる場が存在していないことから、広域連携による観光事業の取組も一部の自治体にとどまり、多摩地域における地域資源の効果的な活用が十分進んでいるとはいえない。

また、第 3 章第 1 節の「多摩地域における連携活動の事例調査」結果から、広域で取り組む連携事業は、域外への PR 効果の増大や職員の能力向上などにおいて一定の成果が得られているものの、これらの連携活動を本格的な事業として定着させるためには、専門的知見の不足や自治体間の意見調整の困難さなど、克服すべき課題も多く存在していることが明らかとなった。広域的な取組を定着させ、発展させていくためには、行政だけでなく、観光協会や、その他の民間事業者を含めた地域全体で取り組むことを検討する必要がある。

(2) 目指すべき観光の方向性

多摩地域が誇るべき魅力は、伝統的な文化や歴史的遺構、地域に根差す産業、多摩地域住民の不断の努力により培われた生活文化など、目に見えるもの、見えないもの様々に存在している。一箇所で一日ないし数日間滞在でき

るスポットは少ないが、それらを「多摩地域」という括りで俯瞰するとともに、「観光」という視点で見直すことにより、点が線となり、新たな魅力として提供できる可能性が十分にある。酒蔵や歴史的遺構をきっかけに連携して実施している事業のように、一つの市の中に点として存在している地域資源を、多摩の地域の中で相互につなげることでひとつのストーリーを作り、大きなPR効果を発揮している事例もある。このような広域連携の取組を更に拡大・発展させて、新たな魅力の創出に積極的に取り組んでいくべきである。そのためにも、各市の情報の一元的な管理が必要となるのである。

観光というと域外からの誘客を想起するが、多摩地域の人口は400万人を超えており、多摩地域に居住する住民による域内観光も、可能性を有している。買物や手軽なレクリエーションの一つとして、域内の人の流れを作り出すことでも、相当な経済効果を生み出すことが期待できる。

観光を通じた来訪者との交流は、地域住民にとっても良い刺激となり、地域への愛着や誇りを増進させる効果を持つ。また、域内の住民同士の活発な交流は、域外にも魅力的な動きとして伝播していく。どちらか片方ではなく、両方の人的交流を促進することが必要である。

多摩地域は、住民自身が「良好な住環境を持つ地域」というイメージを持つように、戦後の高度経済成長期から都心のベッドタウンとして発展を続けてきた。多摩地域の魅力である良好な住環境を壊すような観光地化は、かえって多摩地域の魅力低減につながる上、住民にも受け入れられるものではない。多摩地域の住民同士の交流による地域の魅力の掘り起こしや磨きあいを促し、住民の暮らしと観光を両立させ、これまで作り上げてきた「多摩地域に根付く暮らしや文化」を域外の者に提供することが多摩地域において目指すべき観光といえるのではないだろうか。このことは、多摩地域の住民にとっても地域の魅力を改めて認識することにつながるものと考ええる。

(3) 多摩地域が観光地域づくりに一体となって取り組むことの効果

多摩地域において観光地域づくりに一体となって取り組む理由として、次の5点の効果を指摘したい。

①観光に関するプラットフォーム確立

多摩地域は多様な魅力を有する地域であるが、隣接する市間における自然環境に大きな差異がないことなどから、各市が挙げた地域資源の中には共通のものや類似したものがある。

そこで、各市の情報を集約、整理することで、新たな連携による魅力の創出に向けた調整やマッチングを図ることができるとともに、情報収

集等の利便性を向上させることができる。

②多摩地域全体を対象とした調査・分析に基づく戦略策定

多摩地域への誘客に有効な事業を展開するためには、多摩地域全体を対象とした観光客に関する調査・分析を行い、戦略策定を行うことが求められる。しかし、東京都や観光庁が実施している観光調査・統計では、多摩地域の具体的な状況を把握することができず、また、各市が独自に実施している調査は、市域内を対象とすることが多いため、多摩地域全体で、「どのような人が、どんなところに、どんな目的で、どのように」訪れているのかといった詳細な状況は把握困難である。

そこで、多摩地域全体を対象とした観光に関する継続的な調査データの収集・分析により、事業リスクを低減し、最大の成果を上げられる確率を高めていくことができる。

③多摩地域のブランド化

多摩地域住民が、多摩地域に対して抱く「良好な住環境をもつ地域」というイメージは、あくまでも住民の間に限定されており、多摩地域の認知度は全国的に見れば低いと言わざるを得ない。

多摩地域といえば想起される良好なイメージを広く定着させ、「訪れたい」「住みたい」「誇りがもてる」地域にしていく必要がある。共通コンセプトにより、面的、継続的にプロモーションに取り組むことで、多摩地域のブランド化を進めていくことができる。

④スケールメリット

26市がまとまることで、各種調査や広報、プロモーション活動に要する費用を縮減することが可能になる。例えば、各市の情報を同じ項目でまとめるなどして面的に発信することは、効率的というだけでなく、情報を取得する側の利便性が向上し、PR効果の増大につながる。

各市が単独で取り組む事業と広域的に取り組む事業を明確化することで、事業の効率化が図られ、各市の予算を必要なものに集中させることが可能となる。

⑤各市の取組のレベルアップ

広域的な事業を実施するに当たっては、各市の独自事業を相互に確認、調整することが必要となる。そのため、多摩地域全体での情報の共有化が図られるとともに、職員同士の交流による職員のスキルアップも可能となる。また、各市が単独で取り組む人材育成や事業者支援も、共同実施することで平準化が可能となる。

また、多摩地域全体の調査データを基に、各市のポジショニングを明らかにし、市独自事業の評価・改善を促すとともに、市単独の取組と広域的な取組の連携により相乗効果を生み、結果として地域全体の底上げを図ることができる。

2 多摩地域が一体となって取り組む広域的観光事業の実施【提言①】

多摩地域が一体となって観光地域づくりに取り組み、観光を活用した地域活性化を図るため、具体的に次のような事業を実施することを提言する。

(1) プロモーション事業

多摩地域への来訪を促すためには、まず多摩地域の認知度向上を図る必要がある。多摩地域が面として取り組むことにより、効果的、効率的なプロモーションが可能となり、多摩地域を強く印象付けることが可能となる。

①観光情報サイトの運営

多摩地域全体の観光情報を集めたサイトを立ち上げ、運営する。情報収集等の利便性を向上させるとともに、サイト内で地域資源を活用した着地型ツアーを案内し、申込を受け付けるなど、多摩地域に興味を持った域外の人々を実際の来訪（行動）につなげる仕組みを構築する。

②大規模プロモーション

26市が面として取り組む利点を最大限生かし、観光展示会・物産展への参加や都内近県で開催される大規模イベントへの参加などを通じ、多摩地域の認知度向上に向けたプロモーションを展開する。

また、交通事業者や各種メディアと協力し、車内広告や駅構内の掲示板、CM放映などの広報活動に取り組む。

(2) 着地型ツアーの開発・提供（地域主導型ツアー）

多摩地域に存在する地域資源を、市域を越えて集約し、これらを活用して、多摩地域の魅力を観て、聴いて、触れて、食べて、学び、体感できるツアーとして、「発地」でなく「着地」である多摩地域が主導的に開発・提供することにより、新たな来訪者を呼び込むこととする。

①伝統文化等観光

芸能や食、行事を始めとする伝統文化や歴史的遺構、動植物等の自然資源等は、地域固有の魅力として貴重な地域資源である。これらは認知度も高く、市が単独で活用しても十分なPR力を有している。しかし、これらを広域的な視点で見直し、繋げることにより、新たな魅力を生み出すことができる。

例えば、26市アンケート調査結果において、各市の伝統的な食文化としてうどんを挙げている市が複数あるが、同じうどんでも地域ごとに特色があり、これらを活用したツアーにより、新たな魅力を提供できる可能性を十分有している。

現在取り組まれている連携活動として、歴史的遺構を繋げたツアーや各市の伝統芸能を集めたイベントの開催なども行われている。こうした取組を更に推進し、多摩地域の新たな魅力として提供していく。

②産業観光

多摩地域には、業種も規模も様々な企業が存在しており、26 市アンケート調査結果を見ても、地元企業を地域資源と認識していることがわかる。

協定締結などを通じて、地域貢献として市の事業への参画や、特産品開発などの取組は存在するが、工場や研究所など、企業そのものを産業観光資源として活用することは、これまであまり想定していなかったのではないだろうか。

産業は、地域経済の発展のみならず、地域の歴史的、文化的発展にも寄与してきた。旅行者のニーズは多様化し、体験型ツアーの需要も増加傾向にある。産業観光は、「知る」「学ぶ」という知的欲求を満たすものでもあり、多摩地域の新たな魅力として大いに活用が期待できる分野といえる。エリアが狭いため、短時間で同種の企業を複数箇所訪れることも、関連業種を訪れることも可能である。多様な業種が存在する多摩地域においては、来訪者の属性やニーズに合わせ、様々なコース、内容を提案することができる。

受け入れる企業側に施設整備や来訪者対応などの負荷が生じるうえ、場合によってはノウハウ等の企業情報の流出といった事態も危惧される。そうした点から、特に地元中小企業はなかなか積極的になれないかもしれない。しかし、企業として、直接消費者と接することによる企業の信頼度や好感度を高めるなど、顧客獲得等の新たな商機につながる可能性がある。

また、地元の企業を知ることによる住民の地域への愛着や誇りの醸成、学生の就職意向の掘り起こし、研究者や他業種との新たな事業展開の可能性といったメリットもある。

③大学観光

多摩地域内には多くの大学があり、各市は協定を締結するなどして、地域づくりなど様々な分野で連携した取組を進めている。また、こうした連携の動きは、必ずしも大学とその所在する市との間に限定されているわけではない。そこで、多摩地域全体を一つの学園都市と捉え、これを魅力として広く PR していくことが可能である。産業観光と同様、来訪者の知的欲求を満たすものであるとともに、事業者と研究者とをつなぐ効果を持つものだといえる。

対象者としては大きく 3 つ考えられる。進学を控えた中高生やその関係者、企業、そして地元住民を含めた一般の人である。

特に、中高生に対しては、大学生自らが案内するため、将来目標とする姿を想像することができ、進学意欲を高めることにもつながる。また、既にオープンキャンパスなどが各大学で開催されているが、多摩地域で

の開催情報の一元化、宿泊先とセットになったツアーの提供などの取組は、中高生への支援となり、多摩地域への愛着へとつながる可能性がある。

企業を対象としたものでは、企業と研究者や学生のマッチングが行われ、研究成果の実用化に向けた動きの促進や、学生の多摩地域への就職意向の向上といった効果が期待できる。

地元住民を含めた一般の人を対象とした場合は、地元住民の学生に対する理解促進が図られるとともに、学生や大学関係者の地元への愛着増進といった効果も期待できる。地域の担い手の一人(一主体)として、積極的に協力し合える関係の構築につなげることができる。

④資源循環観光

平成 27 年度政策提言において、多摩地域の誇るべき生活文化の一つとして、高い環境意識によるごみの分別徹底やエコセメント事業の推進を挙げた。これを活用したものとして、清掃工場や廃棄物処理場などで、廃棄物削減やリサイクルに向けた取組を紹介し、多摩地域の高い環境意識を内外に発信していく。

主に子どもを対象とした環境学習や、技術の輸出を見据えた外国人対象の企画を行うなど、明確にターゲットを絞ったツアーとし、効果的な誘客を図る。特に、エコセメント事業に関しては、全国的にあまり例がないこともあり、知的欲求を充足させられるだけでなく、製品が実際に使われている現場をその目で見ることで理解促進を図り、活用推進や販路拡大につなげていくこともできる。

この事業を実施することにより、多摩地域が環境先進地域であることを全国的に PR し、良好な住環境イメージの定着化を図るとともに、多摩地域住民もこれを改めて誇りと感じ、更なる高みを目指して努力し続けていく動機付けにもつながるものである。

⑤日帰り農業観光

住宅地に近接して農地が広がっているのも多摩地域の特徴のひとつである。都市部において、土と触れあえる環境は得がたいものであり、大きな魅力である。多摩地域では、そうした環境を気軽に楽しむことができる。

各市が行っている市民対象の市民農園や、収穫体験のみを提供する観光農園とは異なり、域外から訪れる人を対象として、土地を耕し、作物を栽培するという一連の農作業を気軽に体験することが可能な農園として整備する。

定期的に何度も来訪することにより、多摩地域の魅力を体感し、体験を持ち帰ることができるという効果が期待できる。

（３）観光環境整備事業

多摩地域内で来訪者の周遊を促すため、交通利便性の向上に向けた環境整備を行う。

①シェアサイクル事業

多摩地域は、東西に鉄道が敷設され、各駅には東京駅から概ね１時間余りで到着できる、交通利便性の高い地域である。

しかし、住宅地や緑地が多く、その中に地域資源が点在しているため、南北の移動をバス網や多摩都市モノレールで補うとしても、域内を周遊するには、不便なことも多い。

そこで活用すべきなのが自転車である。鉄道やバスと自転車を組み合わせれば、多摩地域ほぼ全域を周遊できる。既に取り組み始めている市もあるが、民間事業者とも協力し、多摩地域として一定水準を確保したハード・ソフト両面の整備を行い、いつでも・どこでも・だれでも利用できる仕組みを構築すれば、より一層交通利便性が向上するものと思われる。

②周遊バスによる回遊促進

身体状況等にかかわらず、多摩地域内の魅力を体験できる仕組みづくりに取り組むことも必要である。様々な来訪者が想定され、体力や身体状況によっては自転車の利用が難しい場合もある。そうした場合でも、周遊を可能とするため、多摩地域内の各種交通事業者と連携し、バスを活用した周遊ルートの設定や鉄道・モノレール・バスといった公共交通を統合した周遊バスの開発、タクシーを活用した周遊事業などを行う。

３ 観光地域づくり推進体制の整備【提言②】

（１）観光地域づくりの担い手

多摩地域が、地域活性化を目指して観光地域づくりに取り組むに当たり、その担い手となるべきものは、従来の観光関連事業者とされてきた行政と宿泊業、飲食業等だけではない。文化、スポーツ、農林漁業、商工業、環境事業等の関連事業者など、これまで直接的には観光事業に関わっておらず、自らは関係ないと思っている多様な主体をも巻き込むことが極めて重要である。加えて、誰よりも地域を良く知る地域住民が、理解と協力により、担い手として関わることも重要である。

多摩地域においては、産業や大学も重要な地域資源であり、それと同時に地域の構成主体でもある。地域を構成するあらゆる主体に対して、観光地域づくりへの積極的な参画を促し、自らが地域づくりの担い手であることを自覚してもらうことにより、持続的な取組となるように定着させたい。

また、若者、特に多摩地域では学生を巻き込むことも極めて重要になる。

第2章第2節で示した「学生を対象とした意識調査」の結果から、多摩地域に居住又は通学する学生の地域活動への参加は、学校関係者や友人からの勧誘をきっかけとするものが多い傾向にあること、また、地域活動への参加の度合いは、地域への愛着の度合いと連動していることがわかった。

観光地域づくりの担い手として、多摩地域の貴重な資源でもある学生を地域全体で積極的に受け入れ、活躍ができるように環境を整えることで、大学卒業後も多摩地域に居住し、活動を継続できるようにしていく。つまり、地域が人材を支え、育てるという意識を全体で共有しておくことが重要である。

これは、多摩地域の大学に在籍する外国人留学生についてもいえることである。

(2) 観光地域づくりの推進手法の検討

既に、26市がそれぞれの地域資源を活用した取組を行っている中、多摩地域が一体となって観光地域づくりを行うには、各市の独自の取組を制限しないようにする必要がある。これは、結果として多摩地域が有する多様な魅力を薄めてしまうことにつながりかねないからである。

多摩地域においては、各市の独自事業と広域的な事業との相乗効果により、新たな魅力の創造につなげ、更なる多摩地域の活性化を図れるように取り組むことが重要である。

こうしたことを踏まえて観光地域づくりを実施するためには、立場の異なる多様な主体の意見を整理、調整しつつ、持続的に発展させなければならない。そこで、多様な主体による取組を牽引していくために、民間の経営の視点を持ち、マーケティングに基づく観光事業を実施し、地域のマネジメント機能を備えた存在が求められるのである。

観光地域づくりの取組推進に向けて、次のような手法の検討を提言する。

①東京都市長会附属協議会の活用

多摩地域の26市が情報共有化を図り、共通認識の下に観光地域づくりを推進し、具体的な事業を検討、実施していくに当たっては、東京都市長会附属協議会を活用することも有効である。現在、観光分野を専門に担任する協議会がないため、観光地域づくりを推進するための新たな附属協議会の設置も検討すべきであろう。

市長会に附属するという性質上、民間事業者や地域住民などの加入は認められないが、協議会で決定した方針や計画等に基づき、各市が情報共有を図りつつ、各市域の観光地域づくりに取り組み、地域住民を含め、多様な主体と連携した事業を実施していくものである。取組を通じて、26市が相互に磨きあい高め合うとともに、ノウハウを蓄積、共有することにより、多摩地域全体のレベルアップにつなげていくことができる。

②広域連携活動の定着・拡大

現在、第3章第1節で示したように、複数の市町村によって多摩地域で取り組まれている、観光やプロモーションに関する広域連携活動を定着させ、更に発展・拡大させていくことも有効な手段である。

行政が主体となって連携組織を構成し、事業実施している事例は多いが、今後、連携組織が観光地域づくりを推進するに当たっては、地域の観光協会や民間事業者等、様々な主体を担い手として積極的に加入させ、民間の視点やノウハウ、多様な意見を取り入れていくことが重要である。これによって、連携活動の活性化を図るとともに、地域全体に観光地域づくりの取組を浸透させていくことができる。また、こうした民間事業者等多様な主体を巻き込んだ自治体間の連携事業が活発化していくことにより、観光協会等民間主導の連携による新たな事業展開も期待できる。

1,200を超える地域資源の中から、異なる視点や、あるいは様々なきっかけにより生まれた連携活動が、市や観光協会、民間事業者の単独による事業や活動等と相互に作用しあい、場合によっては更に大きな連携組織となることで、多摩地域の魅力向上が図られ、域外に対しても大きなPR効果を発揮できるようになるのではないだろうか。

始まりは少数の市の連携であったとしても、それを徐々に拡大・発展させていき、将来的には26市全てを構成団体とする連携組織に発展させることにより、多摩地域における観光地域づくりの取組を深化させるとともに、域外に対するPR効果をより一層高めていくことができるものと考ええる。

③DMOの設立

観光地域づくりの推進役として、DMOの設立も有効な手段の一つといえる。

観光庁による日本版DMOは、まだ制度としてスタートしたばかりであり、既に候補法人として登録し、活動している先進事例を見ても、組織の成り立ちや在りようは様々である。地域ごとに、その取り巻く状況を勘案し、最も望ましい形を模索している段階といえる。

観光地域づくりの推進という役割を担いつつ、地域の稼ぐ力を引き出す組織であり、マーケティング専任職員の配置によるデータに裏付けられた戦略策定や目標設定を行うことにより、効果的な事業展開が期待できる。また、法人格を取得し、市から独立した存在となるため、行政特有の「平等」「公平」意識からの脱却や意思決定の迅速化が図られる、という利点もある。

しかし、26市もの自治体が連携して観光地域づくりを推進するという取組は、全国的にもあまり例を見ない大規模なものであり、これを担

うDMOの設立に向けては課題も多く、綿密な調整が必要となる。

多摩地域において、26市の状況を踏まえたDMO（以下「多摩地域版DMO」という。）を設立する場合の組織概要及び手順としては、次のようなものが考えられる。

●多摩地域版DMOの概要

「多摩地域版DMO」とは、多摩地域全体を対象地域とし、従来の観光の枠組みを超え、多摩26市や観光協会、民間事業者、住民など多様な主体が連携して取り組む観光地域づくりの中心的な役割を担う組織をいう。

なお、各市の観光協会が取り組む独自事業も、多摩地域の多様な魅力を生み出す重要な要素であり、尊重すべきものであることから、あえて多摩地域版DMOの構成団体とすることなく、相互に補完、連携していくものとした。

図表 4-1 多摩地域版DMOの概要

法 人 格	必須（例：一般社団法人、NPO 法人等）
構 成 団 体	官民（26 市、旅行事業者、交通事業者等）
機 関 設 計	
代 表 者	民間からの登用
運 営 費 ・ 事 業 費	参画団体からの負担金、補助金等
事務局職員	26 市及び民間事業者からの派遣
主 事 業 内 容	・ 多摩地域全体の各種調査・分析 ・ マーケティングに基づく戦略策定 ・ 広域的事業の企画・実施 ・ 多摩地域のブランド化 ・ 商品開発 ・ 広報、プロモーション活動 ・ 各市や観光協会等の取組支援（相談・調整等） など

26 市から独立した存在として官民一体で設立し、代表者を民間から登用することで、民間の視点を生かした運営・事業展開を図る。

一般的なDMOは独自の収益事業により自立した運営が求められるとともに、観光地域づくりの推進主体としての役割も担う存在である。多摩地域においては、観光を地域活性化の一手段として活用することから、特に地域のマネジメントにより比重を置くことが求められる。すなわち、多摩地域版DMOは、各市や観光協会、更には小規模なDMOなどが組織された場合にはそこに対しても、民間事業者の参画により得られた専門的知見を生かした発想やノウハウ、マーケティング手法などを提供することで、地域全体でレベルアップしていけるよう活動支援を行うことも重要な業務として位置付けるべきである。

各市の観光協会は、多摩地域版DMOでは構成団体としていないが、観光地域づくりを推進する上で極めて重要な主体であり、中核となる存在である。多摩地域版DMOとは別個の独立した団体として緩やかな連携を保ち、必要に応じて協力・支援できる関係を構築することが不可欠である。そのためには、先進事例からも示されているとおり、DMOの設立により地域内に混乱を生じさせないように、事前に各市や観光協会との役割分担を明確にし、DMOの目的や事業内容について十分理解を得ておく必要がある。

多摩地域版DMOと関係主体の連携を担保する仕組みとして、主に観光協会や各市担当部署などから構成する連絡会議を設け、各団体の情報や意見・意向を集約し、多摩地域版DMOの事業内容に反映させていく。この会議を通じ、双方の情報共有が図られ、多摩地域版DMOの取組が浸透するとともに、円滑な事業実施が可能となる。

前述のとおり、多摩地域版DMOは、観光地域づくりにおける多様な主体の調整役であるとともに、市や観光協会等の既存組織の支援も重要な業務とすることから、一般的なDMOに比べて公的性格が強い。また、観光地域づくりの取組は、一朝一夕に成果が得られるものではなく、多摩地域を取り巻く社会状況の変化などに対応し、進むべき方向性を模索し続けていかなければならないことから、多摩 26 市全体でこの組織を支え、育てていく意識を共有することが求められる。

●多摩地域版DMO設立に向けた手順

新規に組織を設立する場合、以下のような手順が考えられる。

(i)多摩地域版DMO検討会

26市による検討会を設立し、観光地域づくりの方針や具体的なスケジュール等を検討する。

ここで検討、協議すべき内容は、次のようなものが考えられる。

○主な検討事項

- ・多摩地域版DMOの役割、組織の形態や構成、事業内容、事業資金、人員体制、担い手の整理等

○各種調査実施

- ・観光客（移動）動向調査
- ・観光資源の状況調査
- ・観光消費額の動向調査
- ・観光に関する住民意識調査
- ・誘致活動、受入体制等の状況 など

○民間企業への参画打診

(ii)多摩地域版DMO準備会

検討会での結果を踏まえ、26市からの派遣職員及び多摩地域版DMOに参画する民間事業者からの派遣職員により、新たに準備会を組織し、多摩地域版DMO設立に向け、法人化等の準備を進める。

○法人化の手続き

○代表者の選出

○既存組織との調整(観光協会、商工会、農協、市民団体等)

○観光地域づくりに関する理解促進

○説明会、講習会の開催、啓発用パンフレット等の作成

(iii)多摩地域版DMO設立

法人格を取得し、26市から独立し、自主的に事業を始める。

○マーケティング調査に基づく戦略策定

○広域的事業の企画・実施

○関係団体の事業支援 など

おわりに ―「観光地域づくり」の先にあるもの―

「観光は、平和へのパスポート (Tourism; Passport to Peace)」

これは、昭和 41 (1966) 年 11 月 4 日、国際連合が第 21 回総会において、1967 年を「国際観光年」に指定するに当たり定めたスローガンである。

合わせて、国際連合は、世界各国に対し、観光が社会、文化、教育、経済等に果たす役割を広く唱導し、かつ、観光の振興に関する諸施策を推進するよう要請している。

国際連合の決議には、観光は、世界各国の人々の相互理解を推進し、種々の文明の豊かな遺産に対する知識を豊富にし、また異なる文明の固有の価値をより正しく感得させることによって世界平和の達成にも大きな役割を果たすとある。

本提言では、多摩地域における「観光地域づくり」を取り上げ、多摩地域に所在する「地域資源」を生かし、地域の人たち、官民間わらず、地域に誇りを持ちつつ、多摩地域が一体となって取り組む方法を描きながら、検討を進めてきた。

日本版DMOは、まだ制度としてスタートしたばかりであり、既に候補法人として登録し、活動している先進事例を見ても、組織の成り立ちや在りようは様々である。

多摩地域の活性化を目指すためには、地域全体で観光地域づくりに取り組むことが有効である。今回、これを更に推進させる方策として、広域的な観光事業の実施を提案するとともに、新たな発想と地域経営の視点に立って、こうした取組を牽引できる組織の在り方などを含む推進体制の検討についても踏み込んだ。

世界中の注目が東京に集まるこの絶好の機会を生かし、世界平和の重さを感じつつ、これまで住民、行政が培ってきた「自主性」と「連携」という、多摩地域の最大の強みを生かし、多摩地域が住民にとって誇りと愛着のある豊かな地域であることを世界各国・各地の人々に発信したい。

【参考文献】

- 1) 財団法人東京市町村自治調査会 (2016)『2020 年東京オリンピック・パラリンピックにおける多摩・島しょ地域の可能性と展望に関する調査研究報告書』
- 2) 東京都 (2013)『東京都観光産業振興プラン』
- 3) 東京都 (2017)『PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2017～』
- 4) 東京都 (2016)『観光を取り巻く現状』
- 5) 国土交通省 観光庁 (2016)『観光白書 (平成 28 年度版)』
- 6) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局・国土交通省 観光庁(2015)『「日本版DMO」形成・確立に係る手引き』
- 7) 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議 (2016)『明日の日本を支える観光ビジョン-世界が訪れたくなる日本へ-』
- 8) 多摩信用金庫 (2016)「急増する外国人旅行者と多摩地域のインバウンド動向」、『多摩けいざい』、2016 年 4 月No.76
- 9) 大社充 (2016)「観光による地方創生」、『地域づくり』、2016 年 10 月号
- 10) デービッド・アトキンソン (2015)『新・観光立国論』、東洋経済新報社
- 11) 藻谷浩介・山田桂一郎 (2016)『観光立国の正体』、新潮社
- 12) 矢ヶ崎紀子 (2016)「都市におけるインバウンド観光戦略」、『市政』、2016 年 2 月号
- 13) 東京都市長会 (2014)『多摩地域におけるシティプロモーションについて - 市民に愛される、活性化したまちを目指して - 』
- 14) 東京都市長会 (2015)『多摩地域における「まち歩き」のすすめ-歩いて見つけよう、感じようわがまちの魅力-』
- 15) 東京都市長会 (2016)『多摩地域における誇るべき生活文化とは-生活文化の更なる発展・深化を目指して-』

資料

1 観光振興施策等に関するアンケート調査単純集計結果

地域資源の分類

自 然 資 源	森、林、里山、川、湖、農地、希少生物、身近な生物等
歴 史 資 源	遺跡、文化財、歴史的建造物、郷土出身者（故人）等
文 化 資 源	伝承文化、伝統芸能、民話、祭、生活文化、イベント等
都 市 資 源	建築物、施設、家屋、市街地、公園、街路、景観等
人 的 資 源	技能者、技術者、研究者、郷土出身者（生）等
情 報 資 源	研究成果、知財等
特 産 資 源	農林水産物、加工品等
産 業 資 源	地場産業、伝統産業、地元の有力企業、市における基幹産業、工業製品等

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（自然資源）								
自治体名	地域資源（自然資源）				色つきは共通するもの			
八 王 子 市	明治の森高尾 国定公園	都立高尾陣馬 自然公園	都立滝山自然 公園	都立長沼自然 公園	都立小宮公園	都立陵南公園	高尾梅林	タカオスミレ
	コボトケス ミレ	ムササビ						
立 川 市	玉川上水	根川緑道						
武 蔵 野 市	玉川上水	千川上水	仙川緑地	独歩の森	中央通り桜並 木	成蹊学園ケヤ キ並木		
三 鷹 市	井の頭恩賜 公園	玉川上水	仙川	野川	大沢の里	丸池の里	牟礼の里	北野の里 (仮称)
	神田川（夕 焼け橋）	竹林（井の 頭・牟礼）	大沢わさび 田	すだじい (ブナ科)	いちよう(イ チョウ科)	オオタカ		
青 梅 市	多摩川	御岳山	青梅丘陵	御岳溪谷	高水山	霞丘陵		
府 中 市	多摩川	浅間山	農地	府中崖線	馬場大門け やき並木			
昭 島 市	多摩川	多摩川崖線 の緑地	崖線の湧水 群	玉川上水	昭和用水			
調 布 市	多摩川	野川	深大寺・佐須 周辺の里山	崖線樹林地	野草園	大寒桜	千年乃藤(國 領神社)	農業高校神 代農場
	メジロ	カワセミ						
町 田 市	町田薬師池公 園四季彩の杜	尾根緑道	かたかごの森	野津田公園	かしの木山自 然公園	芹ヶ谷公園	北部丘陵	
小 金 井 市	小金井桜	野川	玉川上水					
小 平 市	小平グリーン ロード	コゲラ	じょうすいこ ばし	オープンガ ーデン	玉川上水	小金井サク ラ	竹内家の大 ケヤキ	
日 野 市	日野用水	七生丘陵	百草の里山	多摩川	浅川			

東 村 山 市	都立八国山緑地	淵の森緑地	けやき(梅岩寺、万年橋等)	トウキョウダルマガエル	ハクセキレイ	カワセミ		
国 分 寺 市	万葉植物園	お鷹の道・真姿の池湧水群	国分寺のコウヤマキ	姿見の池	祥応寺のコノテガシワ	都立殿ヶ谷戸庭園	新次郎池	
国 立 市	湧水	崖線	用水	田畑	桜			
福 生 市	多摩川	玉川上水	多摩川沿いの桜並木	文化の森				
狛 江 市	多摩川	狛江弁財天池特別緑地保全地区						
東 大 和 市	多摩湖	野火止用水	狭山緑地	トウキョウサンショウウオ	オオムラサキ	カタクリ		
清 瀬 市	柳瀬川	台田の杜	雑木林	カタクリ	空堀川	オオムラサキ	ホタル	鮎
	カワセミ	けやき並木(新東京100景)	桜並木					
東久留米市	南沢湧水	落合川	黒目川	竹林公園				
武蔵村山市	狭山丘陵	ひまわりガーデン						
多 摩 市	桜 ※1	川井家シダレ桜	からきだ百本シダレ(桜)	梅 ※2	花菖蒲(中沢池公園)	紅葉 ※3		
	※1 桜…乞田川沿い、さくら通り、いろは坂通り、都立桜ヶ丘公園、宝野公園・奈良原公園、一本杉公園、永山さくら通り、吉祥院							
	※2 梅…都立桜ヶ丘公園、一本杉公園、原峰公園、多摩中央公園							
	※3 紅葉…メタセコイア通り、多摩ニュータウン、上之根大通りモミジバフウ、永山いちよう通り、愛宕かえで通りトウカエデ、諏訪の谷通りトウカエデ、多摩よこやまの道							
稲 城 市	里山	アカシア林	三沢川の桜	梨の花	大丸用水(あじさい)	大塚牧場	れんげの花	イチヨウ
羽 村 市	多摩川	羽村草花丘陵						
あきる野市	秋川	平井川	養沢川	三内川	盆堀川	大沢岳	大滝	小滝
	白滝神社湧水	真城寺湧水	淵上石積井戸	二宮神社池	野辺神社池	大澄山	弁天山	城山
	金比羅山	刈寄山	馬頭刈山	高岩山	横沢入(里山)	大岳鍾乳洞	三ツ合鍾乳洞	養沢鍾乳洞
	ホタル	トウキョウサンショウウオ	モリアオガエル	カワセミ	セキレイ	カタクリ	ツツジ	アジサイ
	サクラ	深沢大カシ	大悲願寺シラハギ	光厳寺ヤマザクラ	地藏院カゴノキ	慈勝寺モッコクとタブノキ	広徳寺タラヨウ	山女
西 東 京 市	鮎							
	東大生態調和農学機構	玉川上水	小金井(サクラ)	聴持寺のケヤキ	田無神社のイチヨウ			

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（歴史資源）								
自治体名	地域資源（歴史資源）							
八王子市	八王子城跡	滝山城跡	絹の道と資料館	中村雨紅	船田石器時代遺跡	小仏関跡	梶田遺跡	薬王院飯縄権現堂
	薬王院仁二王門	小泉家屋敷						
立川市	普濟寺(国宝「六面石幢」)	諏訪神社	熊野神社	阿豆佐味天神社	川越道緑地古民家園	詩歌の道		
武蔵野市	中島飛行機等の戦争遺跡	国木田独歩文学碑	御門訴事件記念碑	ぞうのはな子	杵築大社	武蔵野八幡宮		
三鷹市	武者小路実篤(作家 名誉市民)	山本有三(作家、戯曲家 名誉市民)	鈴木平三郎(第3代三鷹市長 名誉市民)	福王寺法林(日本画家 名誉市民)	太宰治の墓	近藤勇墓	星と森と絵本の家	大沢の里水車経営農家
	井の頭池(神田上水水源地)	出山遺跡出土注口土器	出山横穴群8号墓	鷹場標石	レプソルド子午儀	みたか井心亭	太陽分光写真儀室(アインシュタイン塔)	国立天文台大赤道儀室
	国立天文台門衛所	森林太郎墓	高橋亭之助墓	三木露風墓	柴田勝重墓	井の頭池遺跡群	国立天文台文化財群	天文台構内古墳
	辛夷の碑	豊臣秀吉御禁制書						
青梅市	吉川英治	川合玉堂	塩船観音寺	武蔵御嶽神社	金剛寺	藤本能道	旧宮崎家住宅	旧稲葉家住宅
府中市	大國魂神社	武蔵国府跡	熊野神社古墳	高安寺	東郷寺	多磨霊園	掩体壕	
昭島市	北泉寮	アキシマクジラ	拝島のフジ					
調布市	深大寺	布多天神社	調布七福神	糟嶺神社	調布不動尊	國領神社	下布田遺跡	水木しげる
	近藤勇	武者小路実篤						
町田市	高ヶ坂石器時代遺跡(国指定文化財)	旧永井家住宅(国指定文化財)	東京都指定文化財(16件)	町田市指定文化財(51件)				
小金井市	旧浴恩館	平右衛門橋	滄浪泉園	旧前川家住宅主屋	旧自証院霊屋			
小平市	鈴木遺跡資料館	ふるさと村	平櫛田中	齊藤素巖	江藤俊哉			
日野市	土方歳三	井上源三郎	佐藤彦五郎	日野宿本陣	渡邊家蔵	小島善太郎	旧蚕糸試験場第一蚕室	日野煉瓦
	山口家蔵	真慈悲寺	平山季重	林丈太郎	秋間為子	高幡不動尊	金剛寺不動堂(高幡不動尊)	金剛寺仁王門(高幡不動尊)
	木造不動明王坐像(高幡不動尊)	鰐口(高幡不動尊)	高幡不動尊像内文書(高幡不動尊)	銅像阿弥陀如来坐像(百草八幡神社)	落川遺跡			
東村山市	下宅部遺跡	国宝正福寺地藏堂	鎌倉古街道	徳蔵寺「元弘の板碑」	久米川古戦場	多磨全生園	小池喜孝(歴史研究者)	
国分寺市	伝鎌倉街道	武蔵国分寺跡	武蔵国分尼寺跡	東山道武蔵路跡	土師堅穴住居跡	国分寺薬師堂	木造薬師如来坐像	国分寺仁王門
	国分寺楼門	川崎平右衛門及ひ観音寺中興開山供養塔	川崎・伊奈両代官謝恩塔					
国立市	古墳	谷保天満宮						

福 生 市	古民家	中西悟堂						
狛 江 市	古民家園	古墳群	万葉歌碑	泉龍寺				
東 大 和 市	旧日立航空機 (株)変電所	(仮)東大和 郷土美術園	吉岡堅二画伯	豊鹿島神社				
清 瀬 市	旧森田家	能谷元一	外気舎記念館	清戸下宿遺跡	野塩西原遺跡	野火止野塩移籍	伊勢遺跡	下宿内山遺跡
	野塩外山遺跡	野塩前原遺跡	野塩地域遺跡群					
東久留米市	村野家住宅	自由学園						
武蔵村山市	眞福寺梵鐘	眞福寺格天井花鳥画	指田日記	細田山庚申塔	大日堂庚申塔	三本榎	地頭大河内氏墓	神明ヶ谷戸 大日堂の大日如来像
	堂山墓地の如意輪観音像	原山の馬頭観世音菩薩	萩ノ尾薬師堂の宝篋印塔	猿久保尾根の庚申塔	村山織物協同組合事務所	屋敷山遺跡出土人面装飾付土器(把手部位破片)	屋敷山遺跡出土中世常滑窯大甕	東京陸軍少年飛行兵学校跡地
	乙幡市郎右衛門家文書	内野佐兵衛家文書	渡辺源蔵家文書					
多 摩 市	旧富澤家住宅	小野神社	熊野神社	相沢五流・伴主の墓(観音寺)	旧多摩聖蹟記念館	木造隨身倚像	霞ノ関南木戸柵跡	関戸古戦場跡
	横溝八郎の墓	無名戦士の墓	安保入道の墓	旧有山家・加藤家住宅	稲荷塚古墳			
稲 城 市	穴澤天神社	妙見尊	常楽寺	高勝寺	妙覚寺			
羽 村 市	玉川上水	玉川上水羽村陣屋跡	羽村取水堰	旧下田家	一峰院と鐘楼門	禅福寺・山門	禅林寺	玉川神社
	宗禅寺・薬師堂	阿蘇神社・シイの木	まいまいず井戸					
あきる野市	二宮神社	雨武主神社	阿伎留神社	正一位岩走神社	広徳寺	大悲願寺	光厳寺	真照寺
西 東 京 市	下野谷遺跡	田無神社本殿・拝殿	東伏見稲荷神社	石幢六角地藏尊	延慶の板碑	安房 直子(児童文学作家)	寺村 輝夫(児童文学作家)	宇沢 弘文(経済学者)

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（文化資源）								
自治体名	地域資源（文化資源）							
八王子市	八王子車人形	八王子まつり	八王子いちよう祭り	各地域の獅子舞	八王子花火大会	滝山城跡桜まつり	高尾山もみじまつり	元八王子氏照まつり
	八王子七福神めぐり	説経浄瑠璃	八王子音楽祭	オリンパスホール八王子				
立川市	ファール立川のパブリックアート（109作品）	子ども未来センター（まんがパーク）	たちかわ創造舎	たましんRISURUホール	都市軸（サンサンロード）の「よいと祭り」	国営昭和記念公園の「花火大会」	箱根駅伝予選会	立川いったい音楽まつり
	立川市民オペラ							
武蔵野市	吉祥寺囃	吉祥寺秋まつり	武蔵野桜まつり	むさしの青空市	吉祥寺アニメワンダーランド	吉祥寺音楽祭	武蔵境ジャズセッション	各地域の祭り
三鷹市	山本有三記念館	新川囃子	野崎八幡社薬師殿団子まき	国際交流フェスティバル	旧三鷹市消防団第十分団大沢火の見櫓（付 半鐘）	ルーテル学院大学チャペル・本館・図書館・寮棟	三鷹太陽系ウォークスタンプラリー	阿波踊り
	市民駅伝大会	三鷹囃子	泰山荘					
青梅市	青梅だるま市	青梅大祭	太々神楽	高水山獅子舞	青梅マラソン	吹上花しょうぶまつり	納涼花火大会	梅の里再生まつり
	つつじまつり							
府中市	くらやみ祭	府中小唄	府中囃子	漫画「ちはやふる」	府中市美術館	梅まつり	すももまつり	ラグビーワールドカップの開催
	オリパラ※の開催	※2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のこと						
昭島市	拝島日吉神社例大祭 榊祭り	郷土芸能まつり	昭島くじら祭	産業まつり	昭島ブランド・フードグランプリ	拝島大師だるま市		
調布市	調布花火	調布映画祭	調布市商工まつり	深大寺だるま市	よさこい祭り	薪能	市民文化祭	まち活フェスタ
	ゲゲゲの女房	赤駒						
町田市	町田さくらまつり	フェスタまちだ	町田時代祭り	キラリ☆まちだ祭	まちだエコフェスタ	町田大道芸	ほおずき・あさがお市	大賀ハス観蓮会
	町田市菊花展	町田天満宮例大祭						
小金井市	小金井薪能	江戸糸あやとり人形結城座	小金井市民文化祭	小金井なかよし市民まつり	小金井ウォーキングフェスタ	お月見のつどい	農業祭	小金井阿波おどり
	貫井囃子							
小平市	灯りまつり	市民まつり	産業まつり	鈴木ばやし				
日野市	ひの新選組まつり	ひのよさこい祭	日野市産業まつり	日野市民フェア	ひのアートフェスティバル	平山季重まつり	手をつなごう子どもまつり	たかはたもみじ灯路
	勝五郎生まれ変わり物語	日野の祭ばやし	歳の鬼あしマラソン	鰻を食べない集落（四谷）	八坂神社例大祭			
東村山市	神社の例大祭	浦安の舞	祭囃子	地藏まつり（正福寺）	菖蒲まつり（北山公園）	東村山音頭	四方山話	市民大運動会
	まちジャム							
国分寺市	日本の宇宙開発発祥の地顕彰記念碑							
国立市	谷保天満宮例大祭	天下市	市民まつり	一橋祭	朝顔市	旧車祭	さくらフェスティバル	

福 生 市	福生七夕まつり	ほたる祭	ふっさ桜まつり					
狛 江 市	狛江古代カップ多摩川いかだレース							
東 大 和 市	うまかんべえ祭	産業まつり	よもやまばなし	清水ばやし	高木獅子舞	狭山ばやし	芋窪囃子	
清 瀬 市	うちおり	下宿囃子	中里の火の花祭	下宿のふせぎ行事	清戸獅子	清瀬ひまわりフェスティバル	石田波郷俳句大会	
東久留米市	南沢獅子舞	市民みんなのまつり	ダイヤモンド富士	七福神めぐり				
武蔵村山市	村山デエダラまつり	観光納涼花火大会	三ツ木天王様祇園ばやし	重松囃子	横中馬獅子舞	村山大島紬	双盤念仏(薬師念仏鉦はり)	谷津仙元神社富士講
多 摩 市	都立埋蔵文化センター	グリーンライプセンター	多摩美術大学美術館	ベネッセスタードーム	バードウォッチング鳥見台	ドラマ・映画ロケ地	アニメ聖地巡礼(耳をすませば)	グリーティング(ハローキティの散歩)
	イルミネーションスペシャルパレード	ガーデンシティこどもまつり	ハロウィン in 多摩センター	イルミネーション	スプリングフェスタ	多摩センター桜まつり	落合盆踊り大会	多摩くらふとフェア
	多摩ニュータウン野外コンサート	せいせき桜まつり	せいせき朝顔市	せいせきみらいフェスティバル	ラスカル子ども映画祭	「DrinkOut」多摩クラフトビールフェア	KAOFES	サンタマラソン
	人形劇まつり	地域ふれあいフォーラム TAMA	桜まつり	夏まつり(盆踊り)	都立桜ヶ丘公園さくらまつり	乞田さくらまつり	秋の例大祭	どんど焼き
	よこやまのみちウォーキングフェスティバル	多摩ロードレース大会	永山フェスティバル	TAMA CINEMA FORUM				
稲 城 市	穴澤天神社(江戸の里神楽)	妙見尊(蛇より行事)	常楽寺(木造阿彌陀如来及び両脇侍像)	常楽寺(木造閻魔王坐像)	高勝寺(木造観世音菩薩立像)	高勝寺(カヤの木)	小沢城跡	新日本歩く道紀行 100 選文化の道ウォーキングコース
	桜・梨の花まつり	大丸用水れんげまつり						
羽 村 市	はむら花と水のまつり	はむら夏まつり	観蓮会	あさがお・ほおずき市	灯ろう流し	神輿の川入れ	羽村市産業祭	ホテル観察会
	はむらイルミネーション	だるま市	どんど焼き	はむらふるさと祭り	羽村にぎわい音楽祭	羽村太鼓	羽村市無形民俗文化財羽村の祭ばやし	
あきる野市	二宮考古館	五日市郷土館	五日市憲法草案	軍道紙	黒八丈	前田耕地	西秋留石器	瀬戸岡古墳群
	深沢家屋敷跡	戸倉城址	南沢鳥の巣石灰岩採掘跡	伊奈石採掘遺跡	小机家住宅	旧市倉家住宅	菅生組舞台	土屋美術館
	深沢小さな美術館	二宮神社例大祭(しょうが祭り)	正一位岩走神社祭礼	阿伎留神社祭礼	夏まつり	映画祭	ヨルイチ	産業祭
	とうろう流し	百日紅まつり	芋煮会と伝統漁法	七福神めぐり	山岳耐久レース	和の響き	ステゴドン・ミエンシス	パレオパレード
西 東 京 市	健康チャレンジ	西東京市平和の日	市民まつり	ロードレース大会	ひまわりプロジェクト DEOIL	田無ばやし	保谷囃子	保谷和太鼓
	西東京サマーフェスティバル							

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」 (都市資源)								
自治体名	地域資源 (自然資源) 色つきは共通するもの							
八王子市	中町黒塀	いちよう並木	高尾 599 ミュージアム	京王高尾山温泉	多摩御陵のケヤキ並木	高尾駅駅舎	夕やけ小やけふれあいの里	栃谷戸公園
	長池公園	高尾駒木野庭園						
立川市	ファーレ立川等の再開発街区	広域防災基地	みの一れ立川	ペDESTリアンデッキ	サンサンロード	国営昭和記念公園	立川競輪	
武蔵野市	井の頭自然文化園	小金井公園	武蔵野中央公園	武蔵野プレイス	ハモニカ横丁	吉祥寺の各商業施設	武蔵野文化会館	吉祥寺シアター
	武蔵野総合体育館	武蔵野ふるさと歴史館	吉祥寺美術館	吉祥寺の各ライプハウス	NTT 技術資料館			
三鷹市	三鷹の森ジブリ美術館	国立天文台	野川公園	仙川公園	牟礼の里公園	丸池公園	風の散歩道	農業公園
	太宰治文学サロン	陸橋	渡辺家住宅主屋	安藤家住宅主屋	中近東文化センター			
青梅市	青梅宿	昭和レトロ商品博物館	赤塚不二夫会館	吹上しょうぶ公園	岩蔵温泉郷	青梅きもの博物館	櫛かんざし美術館	青梅織物工業協同組合
	梅の公園	花木園						
府中市	府中の森公園	郷土の森公園	郷土の森博物館	JRA 東京競馬場				
昭島市	昭島駅北口のショッピングモール	昭島駅北口のショッピングモール街のいちよう並木	国営昭和記念公園	昭和公園	くじらグラウンド			
調布市	東京スタジアム	武蔵野の森総合スポーツ施設	調布飛行場	実篤記念館	郷土博物館	せんがわ劇場	グリーンホール	マヨテラス
	神代植物園	都立野川公園						
町田市	町田駅を核とする中心市街地	鶴川駅周辺 (副次核)	南町田駅周辺 (副次核)	多摩境駅周辺 (副次核)	仲見世商店街			
小金井市	小金井市立はけの森美術館	小金井 宮地楽器ホール	江戸東京たてもの園	都立武蔵野公園	都立野川公園	小金井の地上絵	都立小金井公園	
小平市	なかまちテラス	ルネこだいら	中央公園	たけのこ公園	小金井公園	ふれあい下水道館	FC 東京小平グランド	ガスミュージアム
	日本一丸ポスト	平櫛田中彫刻美術館						
日野市	多摩動物公園	高幡不動尊	新選組のふさと歴史館	京王百草園	新選組関係 3 資料館	日野図書館	向島用水親水路	黒川清流公園
	よそう森公園	ふれあい橋						
東村山市	北山公園 (菖蒲田)	都立中央公園	都立狭山公園 (多摩湖)	東村山浄水場	野火止用水	さくら通り (都計道 3・4・27 号線)	廻田緑道	
国分寺市								
国立市	大学通り	滝乃川学園						
福生市	国道 16 号沿いの商店街	柳山公園	みずくらいど公園	南稲荷神社	清岩院	熊川神社	神明社	
狛江市	狛江駅前緑の三角広場	エコルマホール						

東 大 和 市	プラネタリウム	フィールドアスレチック	吉岡堅二邸					
清 瀬 市	けやき通り (ケヤキロードギャラリー)	金山調節池	児童センター ころぼっくる	清瀬けやきホール	清瀬内山運動公園（サッカー場ほか）	柳瀬川回廊		
東久留米市	富士見テラス	スターハウス	南沢水辺公園					
武蔵村山市	野山北・六道山公園	村山温泉「かたくりの湯」						
多 摩 市	パルテノン多摩	サンリオピューロランド	イオンシネマ多摩センター	永山コパボウル	アクアブルー多摩	天然温泉極楽湯	永山健康ランド	おふろの王様
	ハローキティ&しまじろう モニュメント	すぺーすピコロン	交通公園	歩行者専用道路 (ニュータウン内)	歴史と文化の散歩道	からきだの道	遊歩道※1	眺望※2
	多摩市&富士見町共同 アンテナショップ Ponte	※1 遊歩道… 勾田川、多摩川・一ノ宮公園、大栗川、多摩よこやまの道（鎌倉古街道・古道跡） ※2 眺望…パルテノン大階段上、いろは坂公園、富士見通り、ゆうひの丘、よこやまの道						
稲 城 市	上谷戸親水公園	若葉台公園	よみうりランド	巨人への道	よみうりV通り	ニュータウンの パブリックアート	よみうりランド丘の湯	稲城天然温泉 季乃彩
	ゴルフ場（4箇所）	いなぎ発信基地 ペアテラス（観光案内所）						
羽 村 市	動物公園	水上公園	スイミングセンター	農産物直売所	生涯学習センター ゆとろぎ	郷土博物館		
あきる野市	秋川橋河川公園	リバーサイド パークの谷	ふれあいランド	東京サマーランド	秋川国際マス釣場	養沢フライフィッシング	あきる野ふるさと工房	小峰ビジターセンター
	キャンプ場	秋川ファーマーズセンター	五日市ファーマーズセンター	瀬音の湯「朝露」（直売所）	秋川溪谷瀬音の湯	南沢あじさい山	立川国際カントリークラブ	五日市カントリークラブ
	市民体育館	ファインプラザ	草花野球場	市民プール	秋留台公園	総合グラウンド		
西 東 京 市	保谷こもれびホール	西東京いこいの森公園	多摩湖自転車歩行者道	都立東伏見公園	西原自然公園	多摩六都科学館	スカイタワー西東京	高橋家 屋敷林
	石神井川遊歩道	ダイドードリンコアイスアリーナ						

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（人的資源）	
自治体名	地域資源（人的資源）
八 王 子 市	八王子芸者 西川古柳・八王子車人形西川古柳座五代目家元 北島三郎 羽生善治 ニューロティカ グッドモーニングアメリカ フラチナリズム ヒロミ 東京八王子トレインズ アローレはちきたFC
立 川 市	山下洋輔（ジャズピアニスト） 四元奈生美（卓球） はいだしょうこ（タレント） アジャ・コング（女子プロレス） ゲッツ板谷（作家）
武 蔵 野 市	成蹊大学 亜細亜大学 日本獣医生命科学大学 国際交流協会フラチナリズム 前進座 東京武蔵野シティFC
三 鷹 市	古在由秀（天文学者、元国立天文台長）（名誉市民） 宮崎駿（アニメーション映画監督、三鷹市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館）館主）（名誉市民） 津村節子（作家）（名誉市民）
青 梅 市	篠原ともえ
府 中 市	武蔵国府中大使
昭 島 市	
調 布 市	映画俳優 電気通信大学 中畑清 調布リトルリーグ・リトルシニア LIXIL DEERS（アメフト） FC東京
町 田 市	八木重吉
小 金 井 市	観光大使 宮崎駿 星野哲郎
小 平 市	鳳真由 上田初美 小林顕作 吉本一謙 大林素子
日 野 市	
東 村 山 市	清水 市代（棋士） 志村けん（コメディアン） オコエ瑠偉（プロ野球選手） 小林祐希（サッカー選手）
国 分 寺 市	
国 立 市	
福 生 市	吉増剛造
狛 江 市	近藤春菜（お笑い芸人・観光大使）
東 大 和 市	
清 瀬 市	澄川喜一 太田隆司 ましませつこ 是枝裕和 南雲義男 根岸正 城田孝一郎 土田和歌子 木野雅之 村野武範 川本ゆかり
東 久 留 米 市	
武 蔵 村 山 市	
多 摩 市	
稲 城 市	大河原邦男
羽 村 市	玉川兄弟 中里介山
あ き る 野 市	千葉卓三郎 萩原タケ トーマス・ブレイクモア 田中丘隅 三ヶ島霞子 坂本雅城 南野一郎 坂龍之輔 三遊亭歌笑 疋田浩四郎 犬塚勉
西 東 京 市	広瀬舟雲（書家） 小出菟（切り絵作家） 井口資仁（プロ野球選手） 海老澤敏（モーツァルト研究家） 中村彰彦（小説家） 岡田正義（日本サッカー協会・トップレ フェリーインストラクター） 石井正己（国文学者） 李忠成（プロサッカー選手） 菅原珠 子（東京雑学大学理事長） 田邊 慶子（伝統工芸士）

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（情報資源）								
自治体名		地域資源（情報資源）						
八王子市								
立川市								
武蔵野市								
三鷹市	三鷹ネットワーク大学	国立天文台	国際基督教大学	ルーテル学院大学	杏林大学	アジア・アメリカ語学院	市政情報デジタル化公開サイト	中高生 Ruby プログラミングコンテスト
	Wi-Fi 三鷹	三鷹フィルムコミッション	コンビニ交付					
青梅市								
府中市								
昭島市								
調布市	JAXA	UEC アンスセンター	コサイト	調布若者サポートステーション				
町田市	町田市観光マップ							
小金井市								
小平市	コダレンジャー							
日野市	「新選組のふるさと」	選之介	エコアラ・エコマ	ごみゼロマン	ピノックル			
東村山市								
国分寺市								
国立市	一橋大学	東京女子体育大学	ヤクルト中央研究所					
福生市								
狛江市								
東大和市								
清瀬市	大林組技術研究所	気象衛星センター	結核研究所	労働安全衛生総合研究所				
東久留米市								
武蔵村山市								
多摩市	ハローキティ	あらいぐまラスカル	ちびまる子ちゃん	さくにゃん	永どん			
稲城市								
羽村市								
あきる野市								
西東京市	「健康」応援都市	西東京しゃきしゃき体操	西東京市マスコットキャラクターいこいこ一な	西東京市農産物キャラクターめぐみちゃん	しーた・のーや	縄文体操		

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（特産資源）								
自治体名	地域資源（特産資源） 色つきは共通するもの							
八王子市	江戸東京野菜	東京エックス	陣馬りんご	松姫もなか	高尾せんべい	ブルーベリー	パッションフルーツ	プリンセスカレー
	トマトゼリー	江戸押絵羽子板	八王子ラーメン					
立川市	うど※	立川観光協会推奨認定品	くるりんラベルシリーズ					
	※うど…立川こまち、うどパイ、うどせんべい、うどラーメン等							
武蔵野市	うど	武蔵野うどん	油そば					
三鷹市	キウイフルーツ	銀杏	ブドウ	トウモロコシ	キャベツ	カリフラワー	ブロッコリー	ばれいしょ
	ナス	トマト						
青梅市								
府中市	こまつな	ブルーベリー	黒米	わけぎ	梨	武蔵野日誌	国府鶴	その他府中観光推奨品
昭島市	深層地下水 100%の水道水	拝島ねぎ						
調布市	深大寺そば	デカ盛りウォークラリー	ホッピー					
町田市	町田市名産品 60品目(菓子・調味料・酒等)							
小金井市	江戸東京野菜	ルバーブ	黄金の水	幕府献上栗				
小平市	ブルーベリー	梨	うど	糧うどん	こげらサブレ	夢ちゃん	菓夢果夢	ブルーベリーワイン
	ブルーベリーエール	小平吟醸						
日野市	梨	ブドウ	リンゴ	ブルーベリー	トマト	TOYODA BEER	焼きカレーパン	トマトピューレ
	平山陸稲							
東村山市	多摩湖梨	多摩湖ぶどう	武蔵野うどん	東村山黒焼きそば				
国分寺市	国分寺ブランド認定品							
国立市	くにたち野菜							
福生市								
狛江市	地元産野菜							
東大和市	多摩湖梨	東京紅茶	茶うどん					
清瀬市	人参	はちみつ	にんじんジャム	ほうれん草	里芋	さくらチップ		
東久留米市	柳久保小麦	柳久保うどん	柳久保かりんとう	柳久保まんじゅう	芋焼酎黒目川	地酒ひがしくるめ	しそすっきり	ひがしくるめの梅酒さん
	Tokyo ひがしくる麺							
武蔵村山市	小松菜	地域認証ブランド	村山かてうどん	みかん	東京狭山茶			
多摩市	原峰のいづみ（地酒）	おらがまちの梅酒・白加賀	原峰のかおり（手作り味噌）	桜ぼるぼろん	春爛の府（最中）	酒まんじゅう		
稲城市	稲城の梨	高尾ぶどう	ブルーベリー	稲城の太鼓判認証商品				
羽村市	羽村モヒート	ハムライスバーガー	まいまいずポテト	ハムライスコロッケ	はむライススティック	いろはかるた	水はむら	兄弟まんじゅう
	桜サブレ							
あきる野市	のらぼう菜	とうもろこし	栗	醤油	日本酒	おやき		
西東京市	保谷梨	キャベツ	小松菜	かりんとう	保谷ブドウ	保谷納豆	西東京小町（日本酒）	

◎問 1-1 「貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。」（産業資源）									
自治体名	地域資源（産業資源）								
八王子市	八王子織物	ネクタイ	多摩織	東京こけし					
立川市	多摩信用金庫	(株)立飛ホールディングス	伊勢丹立川店	高島屋立川店	(株)いなげや本社	超音波工業(株)	(株)メトロール		
武蔵野市	横河電気	武蔵野研究開発センタ	すかいらーく	タツノコプロ					
三鷹市	SOHO 集積	データセンター	まちづくり三鷹	富士重工株式会社	東京ガスクリエイティブ	メルコファシリティーズ	丸利根アベックス	三鷹光器	
	テスコ	日立アロカメディカル	白石建設	丸栄建設	桂建設				
青梅市	小澤西造	ホットマン							
府中市	サントリー武蔵野ビール工場	読売新聞工場	大東京綜合卸売センター						
昭島市	昭和飛行機工業株式会社	日本電子株式会社							
調布市	角川大映スタジオ	日活調布撮影所	東京現像所	高津装飾美術	水木プロダクション	林建設	ホッピービバレッジ	アフラック	
	京王閣競輪								
町田市	町田市トライアル発注認定商品								
小金井市	(株)スタジオジブリ	情報通信研究機構 (NICT)							
小平市	ブリヂストン	日立国際電気	ルネサスエレクトロニクス	第一製パン	有楽製菓				
日野市	工業	都市農業	日野自動車	コニカミノルタ	富士電機	セイコーエプソン	GE ヘルスケア・ジャパン		
東村山市	豊島屋酒造	ポールスタア（ソース等の製造）	日機装(株)東村山製作所						
国分寺市									
国立市	指定企業等	エコール社							
福生市	石川酒造	田村酒造場	大多摩ハム	福生ハム					
狛江市									
東大和市	森永乳業(株)								
清瀬市	病院のまち	大林組技術研究所	農業						
東久留米市	三河屋製麺	コカ・コーリーストジャパン							
武蔵村山市	村山大島紬	村山温泉「かたくりの湯」	天乃屋（歌舞伎揚）	文明堂（カステラ）					
多摩市									
稲城市									
羽村市	日野自動車(ランドクルーザー等)	カシオ計算機(Gショック)							
あきる野市									
西東京市	シチズンホールディングス(株)	住友重機(株)	シンエイ動画	治具部品	マイコントレーナー	アルマイト加工	CO2 配管器具	消音ユニット	

◎問 1-2 「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、現在、貴市で最も活用されている地域資源をご記入ください。（3つまで）」

◎問 1-3 「問 1-1 でご回答いただいた地域資源のうち、今後、貴市が積極的に活用したいとお考えの地域資源をご記入ください。（3つまで）」

	現在最も活用している資源			今後活用したい資源		
八王子市	明治の森高尾 国定公園	滝山城跡	高尾 599 ミュ ージアム	明治の森高尾 国定公園	滝山城跡	高尾 599 ミュ ージアム
立川市	サンサンロード	国営昭和記念公 園	-	ファール立川	-	-
武蔵野市	井の頭自然文化 園	武蔵野プレイス	吉祥寺の各商業施 設	井の頭自然文化園	武蔵野プレイス	吉祥寺の各商業施 設
三鷹市	三鷹の森ジブリ 美術館	国立天文台	井の頭恩賜公園	三鷹の森ジブリ美 術館	国立天文台	井の頭恩賜公園
青梅市	御岳山	塩船観音寺	小澤酒造	梅の公園	赤塚不二夫会館	岩蔵温泉郷
府中市	くらやみ祭	大國魂神社	郷土の森博物館	くらやみ祭	大國魂神社	郷土の森博物館
昭島市	深層地下水 100%の水道水	アキシマクジラ	拝島日吉神社例大 祭神祭り	深層地下水 100% の水道水	拝島ねぎ	拝島日吉神社例大 祭神祭り
調布市	深大寺	調布花火	東京スタジアム	深大寺	東京スタジアム	-
町田市	町田薬師池公園 四季彩の杜	-	-	町田市名産品 60 品目	-	-
小金井市	小金井 宮地楽器 ホール	小金井公園	小金井阿波おどり	観光大使	小金井桜	江戸東京たてもの 園
小平市	小平グリーンロー ード	ブルーベリー	日本一丸ポスト	小平グリーンロー ード	ブルーベリー	FC 東京小平グラ ンド
日野市	新選組	TOYODA BEER	焼きカレーパン	新選組	TOYODA BEER	焼きカレーパン
東村山市	菖蒲まつり	-	-	国宝正福寺地藏堂	多磨全生園	-
国分寺市	お鷹の道・真姿 の池湧水群	日本の宇宙開発 発祥の地（顕彰 記念碑）	武蔵国分寺跡	お鷹の道・真姿 の池湧水群	日本の宇宙開発 発祥の地（顕彰 記念碑）	武蔵国分寺跡
国立市	桜	大学通り	くにたち野菜	東京女子体育大学	ヤクルト中央研究 所	田畑
福生市	石川酒造	田村酒造場	-	石川酒造	田村酒造場	-
狛江市	多摩川	狛江駅前緑の三 角広場	エコルマホール	狛江駅前緑の三角 広場	近藤春菜（お笑い 芸人・観光大使）	地元産野菜
東大和市	多摩湖	旧日立航空機機 変電所	プラネタリウム	多摩湖	旧日立航空機機 変電所	プラネタリウム
清瀬市	清瀬ひまわりフ ェスティバル	はちみつ	-	台田の杜	病院のまち	清瀬内山運動公園 （サッカー場ほ か）
東久留米市	南沢湧水	柳久保小麦	竹林公園	富士見テラス		-
武蔵村山市	狭山丘陵	村山温泉「かた くりの湯」	村山かてうどん	狭山丘陵	村山温泉「かた くりの湯」	村山かてうどん
多摩市	ハローキティ	多摩よこやまの 道	耳をすませばモデ ル地	遊歩道	日本アニメーショ ン	-
稲城市	里山	よみうりランド	稲城の梨	大河原邦男氏	穴澤天神社（江戸 の里神楽）	桜・梨の花まつり
羽村市	玉川上水	羽村取水堰	はむら花と水のま つり	玉川上水	羽村取水堰	はむら花と水のま つり
あきる野市	川	植物	温泉	川	加工品（特産品）	温泉
西東京市	「健康」応援都 市	いこいーな	下野谷遺跡	「健康」応援都市	いこいーな	下野谷遺跡

※色付きは新たに活用したい資源

◎問 2-1 「貴市では、観光振興計画を策定されていますか。」

◎問 2-2 「問 2-1 で「あり」「策定中」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

策 定 状 況	あり (9 市)	策定中 (2 市)	なし (15 市)
策 定 年 度	平成 19 年度 (1 市)	平成 23 年度 (3 市)	
	平成 25 年度 (2 市)	平成 27 年度 (3 市)	
	平成 28 年度 (2 市)		
計 画 期 間	10 年 (4 市)、5 年 (3 市)、9 年 (1 市)、4 年 (1 市)、6 年 (1 市)		

◎問 2-3 「貴市で取り組まれている観光振興事業についてご記入ください。」

総 事 業 数	62 事業
主 な ター ゲ ャ ッ ト	年代を限定 (3 事業)、地域・年代を限定 (1 事業)、事業者 (2 事業)、外国人 (4 事業)、市外の観光客 (3 事業)、市民 (5 事業)、市民と近隣住民 (2 事業)、全般 (ターゲットなし) (41 事業)、その他 (1 事業)

◎問 3-1 「貴市では、地域特性を活かしたツーリズムを提供していますか。」

◎問 3-2 「問 3-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

地域特性を活かした ツ ー リ ズ ム	あり (11 市)	なし (15 市)
実 施 主 体	市 (7 事業)、その他 (観光協会や実行委員会等) (8 事業)	

◎問 4-1 「貴市には、観光協会(類似組織を含む)がありますか。」

◎問 4-2 「問 4-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような組織ですか。」

組 織 に つ い て	あり (20 市)	なし (6 市)
法 人 種 別	一般社団法人 (6 市) 特定非営利活動法人 (4 市)	公益社団法人 (1 市) その他 (9 市)
設 立 時 期	昭和の時期 (6 市) 平成 10 年～19 年 (5 市)	平成元年～9 年 (1 市) 平成 20 年～28 年 (8 市)
代 表 者 の 身 分	元市職員 (5 市) その他 (10 市)	市派遣 (5 市)
主 な 事 業 内 容	イベント企画・開催、情報発信、観光案内等	
事 務 局 所 在 地	市有施設 (8 市)	その他民有建物 (12 市)
市 の 設 立 支 援	人的支援あり (10 市)	財政的支援あり (13 市)
市 の 運 営 支 援	人的支援あり (9 市)	財政的支援あり (16 市)

◎問 5-1 「貴市では、シティプロモーションに関する基本方針、計画等を策定されていますか。」

◎問 5-2 「問 5-1 で「あり」「策定中」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

基本方針・計画策定状況	あり (6 市)	策定中 (4 市)	なし (16 市)
策 定 年 度	平成 23 年度 (1 市)	平成 24 年度 (1 市)	
	平成 26 年度 (2 市)	平成 27 年度 (1 市)	
	平成 28 年度 (4 市)	平成 29 年度 (1 市)	
担 当 部 署	企画政策部門 (2 市)、観光・商工部門 (3 市)、広報部門 (5 市)		
計 画 期 間	10 年 (3 市)、1 年 (1 市)、なし (未定含む) (6 市)		

◎問 5-3 「貴市で取り組まれているシティプロモーション事業についてご記入ください。」

総 事 業 数 76 事業

主 な ター ゲ ッ ト 年代を限定 (2 事業)、世帯を限定 (7 事業)、地域を限定 (2 事業)、地域・年代を限定 (1 事業)、事業者 (2 事業)、外国人 (3 事業)、市外在住者 (29 事業)、市民 (3 事業)、全般 (ターゲットなし) (31 事業)

◎問 5-4 「貴市では、「まち歩き」に取り組まれていますか。」

◎問 5-5 「問 5-4 で「あり」と回答した方にお伺いします。どのような内容ですか。」

まち歩き事業の取組 あり (20 市) なし (6 市)

総 事 業 数 29 事業

事 業 実 施 主 体 市(※市単独以外も含む) (13 事業)、その他 (観光協会など) (18 事業)

住民ボランティア活用 25 事業

◎問 6-1 「貴市では、大学等と協定を締結されていますか。(観光振興・産業振興分野以外も含めず)」

協 定 締 結 あり (18 市) なし (8 市)

◎問 7-1 「貴市では、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携して取り組む事業はありますか。」

◎問 7-2 「問 7-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

◎問 7-3 「貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携したいとお考えですか。」

◎問 7-4 「問 7-3 で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。」

連携状況 あり (13 市) なし (13 市)

連携方法 協定 (3 事業) 委託 (7 事業)
その他 (13 事業: 委員委嘱、イベント参加、運営協力、協働、ボランティア、文書による依頼、会場提供、インターンシップ等)

事業内容 市の PR に関すること (5 事業: 情報冊子・CM 作成、キャラクターデザイン等)、観光商品の開発 (1 事業: ハイキングルートの企画)、計画策定への参画 (4 事業: 既存施設の利活用、計画策定委員委嘱、計画への助言等)、イベントの企画・運営・出店 (8 事業)、審査委員派遣 (1 事業: 観光推奨品審査会)、ボランティア (2 事業: イベント、美術品維持管理)、調査 (1 事業)、創業支援事業 (2 事業)、生涯学習 (1 事業: 講座の実施)

開始年度 平成 17 年度 (1 事業) 平成 18 年度 (1 事業)
平成 20 年度 (1 事業) 平成 23 年度 (3 事業)
平成 25 年度 (1 事業) 平成 26 年度 (4 事業)
平成 27 年度 (7 事業) 平成 28 年度 (5 事業)

今後の連携意向 あり (19 市) なし (7 市)

連携希望分野 旅行商品開発 (3 市) 特産品開発 (8 市) 観光ボランティア (13 市) 情報発信 (13 市) 計画・戦略策定 (8 市)
その他 (5 市: ・特定分野における連携については、現時点で具体的な案はないが、観光施策を立案・推進する上で多様な視点からの意見を参考にしたい・産業振興・観光ルートの新規開拓・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会・協定に基づき様々な分野で連携を図っていきたい)

◎問 8-1 「貴市では、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携して取り組む事業はありますか。」

◎問 8-2 「問 8-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

◎問 8-3 「貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携したいとお考えですか。」

◎問 8-4 「問 8-3 で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。」

連 携 状 況	あり	14 市	なし	12 市
連 携 方 法	協定（6 事業）、委託（4 事業）、その他（10 事業：補助金、協賛、実行委員会等）※協定・委託の重複あり			
事 業 内 容	創業支援（7 事業）、イベントへの協賛（2 事業：イルミネーション事業、チューリップオーナー）、イベント企画・実施（5 事業：コンテスト、ハイキング、映画祭、その他大規模イベント等）、プロモーション・情報発信（3 事業：ロゴマーク、キャッチフレーズの使用等）、商品開発（3 事業：ご当地グルメ、ブランディング推進等）産業・観光振興全般（2 事業）			
開 始 年 度	平成 10 年度（1 事業）	平成 12 年度（1 事業）	平成 13 年度（1 事業）	
	平成 14 年度（1 事業）	平成 16 年度（1 事業）	平成 17 年度（1 事業）	
	平成 20 年度（2 事業）	平成 21 年度（1 事業）	平成 23 年度（1 事業）	
	平成 24 年度（2 事業）	平成 25 年度（1 事業）	平成 26 年度（2 事業）	
	平成 27 年度（3 事業）	平成 28 年度（3 事業）	不明（1 事業）	
今後の連携意向	あり	19 市	なし	7 市
連 携 希 望 分 野	旅行商品開発（9 市）、特産品開発（13 市）、観光ボランティア（8 市）、情報発信（14 市）、計画・戦略策定（9 市）その他（4 市：・新産業の創出・産業振興イベント・検討中・市民、事業者、行政が連携したまちづくりを目指し、連携を図っていききたい）			

◎問 9-1 「貴市では、地域ブランドの開発、認定等の取組がありますか。」

◎問 9-2 「問 9-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

◎問 9-3 「貴市では、今後、地域ブランド化に取り組むお考えがありますか。」

取 組	あり（18 市）	なし（8 市）
開 始 年 度	昭和 59 年度（1 事業）	平成 17 年度（1 事業）
	平成 19 年度（2 事業）	平成 20 年度（2 事業）
	平成 23 年度（2 事業）	平成 24 年度（5 事業）
	平成 26 年度（2 事業）	平成 27 年度（3 事業）
大学との連携	その他（5 事業）※協定、委託、その他の別	
民間との連携	委託（1 事業）、その他（15 事業）※協定、委託、その他の別	
今後の取組意向	あり（17 市）	なし（5 市）

◎問 10-1「貴市が観光振興事業等に取り組むに当たって、どのような課題があるとお考えですか。」

①担い手に関すること（24市）、②事業費に関すること（22市）、③地域資源に関すること（23市）、④計画・戦略策定等に関すること（18市）、⑤広報（情報発信）に関すること（24市）、⑥その他（8市）

問 10 観光振興事業等の課題						最大の課題
①担い手に関する こと	②事業費に関する こと	③地域資源に関する こと	④計画・戦略策定等 に関すること	⑤広報（情報発信） に関すること	⑥その他	項目番号 内容
・「観光」を業とする民間事業者の発掘 ・オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたおもてなしの人材育成及び大会後において地元で活躍してもらえる仕組みづくりの検討 ・外国人対応の可能な人材や観光を専門とした事務局人材の継続的な確保が課題。また、ボランティアアガイドの高齢化も進んでいる。 ・観光の関係者をまとめて引っ張っていく地域のリーダーの不在。観光協会のスタッフ不足 ・観光協会との連携 ・観光ボランティアの育成 ・観光ボランティアアガイドの育成・確保（複数団体の統一、新規登録者の確保等）・観光の推進母体となる「観光推進機構」の立ち上げ ・観光案内人だけではなく、地元の住民も一緒に来訪	・パンフレット、看板等の作成や更新費用の拡大 ・運営について、補助金頼みとなっているため自主財源の確保 ・観光イベントに関する予算の確保（ハード・ソフト共に） ・観光客の増加に対する受け入れ環境の整備 ・観光協会の自立化のため、費用面でいかに支援を行うべきか検討する必要がある。 ・観光施設や登山道の整備などハード事業に関する事業費が不足している。 ・観光振興と地域活性化は密接に関わっているため、市内4駅のうち、二大拠点地区に絞って賑わい空間の創出など地域の活性化事業を支援している。現在、地区の特性や事業主体、事業の規模によって投入する事業費のボリュームに格差があるため、今後、バランスを考慮した事業	・2019 ラグビーワールドカップ、2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人にも PR できる地域資源の掘り起こし ・観光地として PR できる地域資源が乏しい ・既存の地域資源同士の連携不足 ・近隣の市町との明確な違いがあるわけではないので、差別化が難しい。 ・広域連携の視点で、市内の地域資源を活用した取組みにより、交流人口増と共に来街者の滞在時間の拡大を図る。 ・市には、多く存在するため、如何に発信していくか ・市は都市型観光とグリーンツーリズムとの中間に位置しているが観光資源に乏しい事もあり、観光の枠組みを超えた取組みをして存在感を出していくことが課題である。 ・市内に点在する地域資源をど	・2019 ラグビーワールドカップ、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた計画をブレイクダウンする計画づくり ・まちの特性に見合った戦略の検討・まち全体で統一した事業展開の検討 ・インバウンドなど目標をしっかりと定めていくこと ・インバウンド対策に関する総合的な計画が策定されていない。 ・観光に関する計画等が未策定である。 ・観光まちづくり振興プランのアクションプランの円滑な実施 ・観光振興に関する市の計画を策定していないこと。 ・観光振興計画が策定されていない。 ・計画の実施のための具体的な事業 ・計画や戦略を策定することはできるが、予算や職員数等の問題が解決するわけではないので、目標を	・HP、フェイスブック、おでかけ図鑑及び各種イベントで対応 ・PR の相手を見据えた広報を実施する。 ・いかに効果的な情報発信を行うか検討する必要がある。 ・インターネットの発信力・外国人への効果的な PR の手法 ・一部を NPO 法人に委託しているが、人員の確保及び研修等によるスキルの維持発展 ・観光協会では、フェイスブックなどの SNS を利用した情報拡散に取組んでいるものの、情報の充実などさらなる強化が必要 ・観光ガイドの作成などにより、市内外に対して周知 PR を図っているが、広域的な周知ができていない。 ・観光サイト掲載内容の充実・ターゲットを見据えた情報発信 ・関係団体と連携した効果的な情報発信、市の認知度を高めるとシティブ	・外国人観光客に対する受入環境の整備（言語・wifi など）、また海外へ向けた情報発信の手法 ・各市が事業ごとに、近隣市と連携しているが、広域的な観光に ・観光推進プラットフォームの必要性（観光推進施策を効果的に企画・実行していくための組織作り） ・既存観光施設の活用方策の検討 ・商業・工業・農業との連携強化 ・代表的な地域資源、宿泊施設の少なさ ・年間を通じた観光客の増加に向けた取組み、外国人観光客への対応 ・魅力あるイベント、グルメの展開・体験型イベントの展開（工場見学等）・移動手段や交通手段等の利便性の確保	①観光協会との連携 ①観光案内人だけではなく、地元の住民も一緒に来訪者に現地案内してもらおう ①観光協会の自立化を図る必要がある。 ①市の観光振興事業への市民参加の度合いが低い。 ①市民や観光業者の取組を支援できる組織づくり・地域を代表する特産品やグルメの開発が遅れており、PR できる商品が少ない。 ①地域密着の NPO などの育成 ①当市の観光事業を担う観光協会の体制が脆弱である。 ①本市には観光協会のような観光振興に取り組む民間組織がなく、行政による観光施策の中だけで観光振興事業に取り組んでいる。今後、行政や事業者、関係団体等が相互に連携・協力し、地域の資源を活かすとともに、まちの魅力を高めるような観光振興

者に現地案内してもらおう

- ・観光客の増加への対応
- ・観光振興を市民の手に委ねていく方法を検討する必要がある。
- ・既存の観光協会は市職員の併任となっているため、専属で運営する体制づくり
- ・行政だけでなく、観光関連団体は基より、商業団体や地域住民等をいかし巻き込む事ができるか
- ・市、関係団体、事業者、市民等の役割分担が曖昧
- ・市が直営で行う観光振興には、縛りも多く限界があることから観光協会等の設立が必要である。
- ・市に存在する観光案内所は駅から離れたところに存在していることもあり、利用者が少なく市民の利用も十分ではない状況から観光案内所のスタッフを市内に精通したスタッフに対応させることにより、観光案内の枠を超えた取組みを実施して利用者を増やしていくことが課題である。
- ・市の観光振興を進める上で、観光協会を中心として活動を行っているが、新たな会員の入会が伸び悩んでいる。
- ・市の観光振興事業への市民参加の度合いが低い。

費の配分が必要となる。また、イベントの集客数だけでは費用対効果を測るための指標として設定することが難しい。

- ・観光振興に関する事業に関しては予算も縮小傾向にあるなかで、費用に見合った効果的な施策を展開していくことが課題である。
- ・厳しい財政状況が続いているため、事業費や人件費を増やすことができない。補助金があったとしても、手続きを行う職員に余裕がない。
- ・厳しい財政状況の中、観光分野に振り分けられる財源は限られるため、国・都の補助制度の活用もふくめ効率的・効果的な施策の実施が求められる。
- ・限られた予算の中での優先順位により、先送りになってしまう事業も多く発生する
- ・市から観光協会への基盤強化を目的とした補助金を出しているが、金額的に小額である。
- ・市以外の団体の費用負担が不足
- ・市民の参加が少ないため、事業として成り立たないことがある。また、市民の参加が少ないため、全て市の事業費で実施する必要がある。

のように活用し発信していくのか

- ・市民による新たな資源の発掘
- ・市民全体の感覚として、市の地域資源となるものが認知されていない。
- ・地域に埋もれている地域資源を掘りおこしの手法
- ・地域の素地を生かした食の活用、商品開発・土産物づくり・地域を代表する特産品やグルメの開発が遅れており、PRできる商品が少ない。
- ・地域資源が都の所有で活用が難しかったり、整備ができず活用までに至れない。
- ・地域資源の老朽化等の維持管理等の問題
- ・特出した観光資源が乏しい。
- ・農産物や農業文化などの既存の地域資源の保全、新しい地域資源の開発や視点の必要性
- ・本市にはアミューズメント施設があり、ここには多くの利用客が訪れている。ただし、高尾山や深大寺のような大きな自然景観や名所旧跡がないため、外国人も含めて多くの観光客が訪れる観光資源はない。今後、市内に点在する資源を結びつけ、街歩きにつながるようなコースを仕立て上げ魅力として発信していく必要がある。

達成することは困難である。

- ・現行の産業振興マスタープラン施策の中で対応し、新規策定は未定
- ・現在、それぞれで運営している観光協会と観光案内所での連携を進めていくこと。
- ・市として作成する予定はない。
- ・市観光振興計画の推進を確実なものとするため、各種団体、市民、事業者などの各主体の特性を活かした役割分担により、強固な連携体制を構築する必要がある。
- ・市全体としてのビジョンがない
- ・施策を進める中で必要となる振興計画・指針が策定出来ていないが、施策を進めるうえでの基準となる指針を策定予定
- ・方針がない(平成28年度策定中)
- ・本市では、観光振興に特化した計画や戦略はなく、総合計画や地域創生による総合戦略、さらにオリンピック・パラリンピックに向けた取組み方針など、大きな目標の中での観光施策をたてて事業を進めている。今後、観光振興の担い手も含めて、官民協働による観光振興の計画を検討する必要がある。

ロモーションの強化

- ・効果的な情報発信の方法について検討している。
- ・広報紙、HP、SNS及びポスター、チラシにて広報を行っているが、これ以上は難しい。
- ・事業の中に参加者が参加したくなる理由(うまみ、利益等)が必要である。
- ・市の認知度・地域資源の認知度向、情報発信力
- ・市の魅力をきめ細かく、多様な手段を用いて情報発信すること。また、観光案内機能の充実、強化
- ・市外への情報発信・プロモーションが弱い
- ・市広報だけでは、市外に対する発信力に欠ける。
- ・市場調査の結果を踏まえたプロモーション活動の実施・多言語対応した観光Webサイトが未整備である。
- ・市内・市外への情報発信が不足・関係団体間の連携不足
- ・市内の観光資源を市内外に広くPRするとともに、地域資源を活用した観光事業を推進していくことが課題である。
- ・情報の発信が質量ともに不十分である。
- ・地域資源を戦略的に広報(情報発信)するノウハウに乏しい。
- ・低予算で効果的な広報の実施
- ・本市は訪れる前の事前情報の

のための組織づくりが必要である。

- ②多摩地域の観光資源を考えると、各自治体が個別に観光事業を展開するのはやや効率が悪く、効果的に感じられる。
- ②滞在型の観光資源から回遊施策の必要性、アクセスの利便性を活用した回遊施策の必要性
- ②東京都等の補助金はあるが、補助対象経費や補助率の拡大の問題
- ②平成28年に設立された観光協会は、市から補助金交付により運営費・事業費の一部を賄っており、協会独自の収入を得ることが課題となっている。
- ③2019 ラグビーワールドカップ、2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人にもPRできる地域資源の掘り起こし
- ③多くの人が集まる場所(駅等)がなく、近隣の市町との明確な違いがない。
- ③都心からのアクセスの利便性などを考慮し、観光地化ではなく市内交流人口の増加を目指す施策を展開する
- ③特出した観光資源が乏しい。
- ③魅力のある観光資源が乏しい。
- ④観光スポットの環境整備等

・市内観光振興については、観光協会が中心に行っている。協会では職員が不足しており、ボランティアの活用を積極的に行っているが、人材育成等が課題となっている。 ・市民や観光業者の取組を支援できる組織づくり・来訪者のおもてなしにおいて大きな役割を担う「観光ボランティアガイド」が人員不足である。 ・市民や市民団体等が主体的に取組めるような仕組みづくり ・地域観光協会役員の高齢化の問題 ・地域密着のNPOなどの育成 ・当市の観光事業を担う観光協会の体制が脆弱である。 ・本市では、市や事業者、市民団体等との連携や協力により観光振興に取り組んでいるが、中心になって牽引する観光協会のような担い手組織がない。今後、まちの観光振興に関する取り組みを総合的に推進する組織づくりが必要である。	あり、事業費の確保が難しい。 ・滞在型の観光資源から回遊施策の必要性、アクセスの利便性を活用した回遊施策の必要性 ・地域資源の整備や修繕、観光案内拠点整備、観光事業に関わる財源不足 ・低予算で効果的な事業の実施 ・当市の観光事業を担う観光協会の体制が脆弱である ・独立採算のできる事業運営 ・年々事業は増加しているが、事業内容を充実させられるだけの事業費を毎年捻出するのは困難。また、観光機構が独自事業により収入を確保することも困難 ・費用対効果の面から、継続的な財政措置は困難 ・平成 28 年に設立された観光協会は、市から補助金交付により運営費・事業費の一部を賄っており、協会独自の収入を得ることが課題となっている。	・魅力ある地域づくり（現在ある観光資源の再認識と新たな観光資源の発掘） ・魅力ある本市の観光資源をより効果的に活用するため、広域的な集客力を持つ観光資源を開発する。 ・魅力のある観光資源が乏しい。 ・魅力的な観光資源を活かしきれていない・隠れた観光資源の発掘ができていない。（スボット、グルメ等） ・様々な、地域資源があるが、どれを市の一番の魅力としてPRしていくのかが明確でないため、PRの印象が分散してしまう。 ・来訪先に偏りがあり、市内全体を回遊できるだけの地域資源には乏しい。		提供が中心で、本市を訪れてからの情報はあまり多く発信できていない。また、広報や公式ホームページ・ツイッターなど内部媒体が主で、その範囲の中では、合理的な理由がない限り、特定の企業や飲食店の紹介と観光資源とを結びつけた情報の連動が難しい。今後、観光の担い手も含めて、受けて側に分かりやすい観光情報として、魅力スポットとおすすめ飲食店を連動させたまち歩きコースを仕立て上げ、魅力として発信していきたい。 ・本市への興味を引き寄せるための情報発信の手法 ・様々なツールを活用して情報発信をできるよう市内で連携を強化する必要がある。		のハード面及びイベント等のソフト面を総合的に見据えた、まち全体の観光まちづくりを検討・推進 ④現在、それぞれで運営している市観光協会と観光案内所との連携を進めていくこと。 ⑤市の魅力をきめ細かく、多様な手段を用いて情報発信すること。また、観光案内機能の充実、強化。 ⑤対外的な情報発信が弱く、昔からの本市のイメージを塗り替えることができていない。 ⑥観光により地域産業を振興するためには、年間を通じて観光客に市を訪れてもらう必要があることから、既存のイベントの充実を図るとともに、観光客の増加に対する受け入れ環境を整備していく必要がある。 全て
--	--	---	--	--	--	---

◎問 10-2 「問 10-1 で課題とされた項目のうち、貴市における最大の課題は何ですか。」

①担い手に関すること	8 市	・観光案内人だけではなく、地元の住民も一緒に来訪者向けの案内をしてもらう ・観光まちづくり協会との連携 ・観光協会の自立化 ・地域密着のNPO等の育成 ・観光事業を担う観光まちづくり協会の体制が脆弱 ・市の観光振興事業への市民参加の度合いが低い ・市民や観光業者の取組を支援できる組織づくり ・地域を代表する特産品やグルメの開発が遅れており、PRできる商品が少ない ・観光協会のような観光振興に取り組む民間組織がなく、行政による観光施策の中だけで観光振興事業に取り組んでいるため、今後、行政や事業者、関係団体等が相互に連携・協力し、地域の資源を活かすとともに、まちの魅力を高めるような観光振興のための組織づくりが必要
②事業費に関すること	4 市	・多摩地域の観光資源を考えると、各自治体が個別に観光事業を展開するのはやや効率が悪いようにも感じられる ・東京都等の補助金はあるが、補助対象経費や補助率の拡大の問題 ・市観光協会は、市から補助金交付により運営費・事業費の一部を賄っており、協会独自の収入を得ることが課題 ・滞在型の観光資源から回遊施策の必要性、アクセスの利便性を活用した回遊施策の必要性
③地域資源に関すること	5 市	・2019 ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人にもPRできる地域資源の掘り起こし ・特出した観光資源が乏しい ・多くの人が集まる場所（駅等）がなく、近隣の市町との明確な違いがない ・都心からのアクセスの利便性等を考慮し、観光地化ではなく市内交流人口の増加を目指す施策を展開する
④計画・戦略策定等に関すること	2 市	・観光スポットの環境整備等のハード面及びイベント等のソフト面を総合的に見据えた、まち全体の観光まちづくりを検討・推進 ・現在、それぞれで運営している市観光協会と観光案内所の連携を進めていくこと
⑤広報（情報発信）に関すること	2 市	・市の魅力をきめ細かく、多様な手段を用いて情報発信すること ・観光案内機能の充実、強化 ・対外的な情報発信が弱く、昔からの市のイメージを塗り替えることができていない
⑥その他	1 市	・観光により地域産業を振興するためには、年間を通じて観光客に市を訪れてもらう必要があることから、既存のイベントの充実を図るとともに、観光客の増加に対する受け入れ環境を整備していく必要がある
なし	3 市	

◎問 11-1 「貴市では、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や 2019 年ラグビーワールドカップ開催に向けた取組方針、計画等を策定されていますか。」

◎問 11-2 「問 11-1 で「あり（予定）」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

◎問 11-3 「貴市では、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や 2019 年ラグビーワールドカップ開催に向け、新たに、又は既存の事業を改編し、取り組まれる事業がありますか。」

基本方針等の策定状況	あり（13 市）	なし（13 市）
策定年度	平成 27 年度（2 市）	平成 28 年度（11 市）
大会に向けた事業について	あり（19 市）	なし（7 市）

◎問 12-1 「貴市では、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムを実施する予定がありますか。」

具体的な事業について	あり（14 市）	なし（12 市）
------------	----------	----------

◎問 12-3 「平成 27 年度市長会政策提言において、多摩地域独自の文化プログラムとして、『多摩地域全域での「第九」演奏会の同時開催』を提言しましたが、ご存知ですか。」

第九に関する政策提言の認知	知っている（11 市）	知らない（15 市）
---------------	-------------	------------

◎問 12-4 「「第九」演奏会を開催する予定がありますか。」

「第九」演奏会を開催する予定	あり（3 市）	なし（23 市）
----------------	---------	----------

◎問 12-6 「問 12-4 で「なし」と回答した方に伺います。今後取り組まれる可能性はありますか。」

今後取り組む可能性あり（8 市）、今後取り組む可能性なし（14 市）、未定（1 市）、既に開催予定あり（3 市）

◎問 13-1 「貴市が主催または共催する事業において、学生が運営主体として参画した事業がありますか。」

◎問 13-2 「問 13-1 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

学生が運営
主体となっ
た事業

事業内容 タウンミーティング（2 事業）、計画策定（3 事業）、事業企画（1 事業）、イベント企画・運営（7 事業）、成人式（6 事業）、マップ作成（1 事業）

報酬 あり（1 事業） なし（18 事業） 委託料支払い（1 事業）

募集方法 市の広報媒体を活用した公募（7 事業）、学校を媒介（11 事業）、実行委員会による募集（2 事業）

◎問 13-3 「貴市が主催する審議会等において、学生が委員に就任しているものはありますか。」

◎問 13-4 「問 13-3 で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。」

学生が委員に就任している審議会等	あり（7 市）	なし（19 市）
学生が委員に就任している審議会等の数	1 つ（5 市）	把握なし（2 市）
報酬	あり（4 審議会）	なし（1 審議会）
学生委員数	1 人（3 審議会）	2 人（2 審議会）
募集方法	公募（5 審議会）	学生枠等（0 審議会）

◎問 13-5 「学生の市政参画を推進するため、取り組まれていることはありますか。」

審議会委員等における特別枠の設置（2 市）

大学等を通じての審議会委員募集や行事等の周知（10 市）

会議の夜間・休日開催（10 市）

学生による事業提案制度の実施（3 市）

学生を主な対象とする意見交換会の実施（タウンミーティングなど）（8 市）

若者（学生）議会の開催（0 市）

その他（1 市）

◎問 13-6 「貴市が、今後、学生の参画を推進したいと考える分野は、どの分野ですか。」

シティプロモーション（地域資源の発掘、発信など）（20 市）

観光振興（ツアーやイベントの企画、ガイドボランティアなど）（18 市）

情報発信（SNS の活用、マップ作成など）（18 市）

まちづくり（市の都市計画、施設整備計画など）（16 市）

地域社会づくり（町会・自治会等が行う地域行事など）（15 市）

教育・文化（学習支援、芸術振興など）（15 市）

地域福祉（子育て支援、高齢者支援、障害者支援など）（14 市）

健全育成（スポーツ指導、健康促進、読書活動など）（14 市）

地域経済（商店活性化、商品開発など）（14 市）

環境保全（リサイクル、自然環境保護、緑化、美化、清掃など）（10 市）

その他（2 市）

アンケート用紙

I 地域資源について

問1 地域資源について

問1-1 貴市の市域には、どのような地域資源がありますか。

※貴市で既に作成されている一覧表などがありましたら、そちらを添付していただいても結構です。

分 類	地 域 資 源						
自 然 資 源							
歴 史 資 源							
文 化 資 源							
都 市 資 源							
人 的 資 源							
情 報 資 源							
特 産 資 源							
産 業 資 源							

【分類例】

自然資源	森、林、里山、川、湖、農地、希少生物、身近な生物など
歴史資源	遺跡、文化財、歴史的建造物、郷土出身者（故人）など
文化資源	伝承文化、伝統芸能、民話、祭、生活文化、イベントなど
都市資源	建築物、施設、家屋、市街地、公園、街路、景観など
人的資源	技能者、技術者、研究者、郷土出身者（生）など
情報資源	研究成果、知財など
特産資源	農林水産物、加工品など
産業資源	地場産業、伝統産業、地元の有力企業、市における基幹産業、工業製品など

問1-2 問1-1でご回答いただいた地域資源のうち、現在、貴市で最も活用されている地域資源をご記入ください。

（3つまで）

--	--	--

問1-3 問1-1でご回答いただいた地域資源のうち、今後、貴市が積極的に活用したいとお考えの地域資源をご記入ください。（3つまで）

--	--	--

II 観光振興施策について

問2 観光振興計画について

問2-1 貴市では、観光振興計画を策定されていますか。

- ☐ あり → 問2-2へ
☐ 策定中 → 問2-2へ
☐ なし → 問2-3へ

問2-2 問2-1で「あり」「策定中」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

計 画 名	
策 定 年 度	年度（予定）
担 当 部 署	
計 画 期 間	
基本方針・コンセプト	

問2-3 貴市で取り組まれている観光振興事業についてご記入ください。

(回答欄が不足する場合は、列を挿入してください)

事業名	①	②
事業概要		
主なターゲット		
担当部署		

問3 ニューツーリズムについて

問3-1 貴市では、地域特性を活かしたツーリズムを提供していますか。

☐ あり → 問3-2へ

☐ なし

問3-2 問3-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

(回答欄が不足する場合は、列を挿入してください)

事業名	①	②
事業概要		
実施主体		
広報媒体		

問4 観光振興協会について

問4-1 貴市には、観光協会（類似組織を含む）がありますか。

☐ あり → 問4-2へ

☐ なし

問4-2 問4-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような組織ですか。

組織名			
法人格	☐ (一社) ☐ (一財) ☐ (公社) ☐ (公財) ☐ (株) ☐ (特非) ☐ その他		
設立年月日			
事務局代表者の属性	☐ 市派遣 ☐ 元市議員 ☐ 一般		
事務局職員数	人(内専従 人)		
主な事業内容			
事務局所在地	☐ 公共施設内(施設名:) ☐ その他		
市の支援	設立時(準備期間)	☐ 人的支援	☐ 財政支援
	運営	☐ 人的支援	☐ 財政支援

Ⅲ シティプロモーション事業について

問5 シティプロモーション事業について

問5-1 貴市では、シティプロモーションに関する基本方針、計画等を策定されていますか。

- ☐ あり → 問5-2へ
☐ 策定中 → 問5-2へ
☐ なし → 問5-3へ

問5-2 問5-1で「あり」「策定中」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

計 画 名	
策 定 年 度	年度（予定）
担 当 部 署	
計 画 期 間	
基 本 方 針	

問5-3 貴市で取り組まれているシティプロモーション事業についてご記入ください。

（回答欄が不足する場合は、列を挿入してください）

事 業 名	①	②
事 業 概 要		
主 な ター ゲ ャ ッ ト		
担 当 部 署		

問5-4 貴市では、「まち歩き」に取り組まれていますか。

※本アンケートにおける「まち歩き」とは、H26年度市長会政策提言『多摩地域における「まち歩き」のすすめ』において定義している「まちの魅力を発見し、住民が地域に愛着を持つこと」を主な目的として行うものをいう。

参照 <http://www.tokyo-mayors.jp/katsudo/selsaku.html>

- ☐ あり → 問5-5へ
☐ なし

問5-5 問5-4で「あり」と回答した方にお伺いします。どのような内容ですか。

事 業 名	①	②
事 業 概 要		
事 業 実 施 主 体		
住民ボランティアの活用		
担 当 部 署		

Ⅳ 観光振興・産業振興分野における大学等（大学、短期大学、専門学校、高等専門学校）や民間企業との連携について

問6 大学等との協定締結について

問6-1 貴市では、大学等と協定を締結されていますか。（観光振興・産業振興分野以外も含めます）

- ☐ あり → 問6-2へ
☐ なし

問6-2 問6-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

（回答欄が不足する場合は、列を挿入してください）

協 定 名	①	②
締 結 年 月 日		
協 定 の 概 要		
締 結 先		

問7 観光振興・産業振興分野における大学等との連携について

※問7から問9については、平成26年度以降の取組についてお答えください。

問7-1 貴市では、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携して取り組む事業はありますか。

（地域ブランド化に関する取組については、問8でお答えください。）

- ☐ あり → 問7-2へ
☐ なし → 問7-3へ

問7-2 問7-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

（回答欄が不足する場合は、列を挿入してください）

事 業 名	①	②
事 業 概 要		
連 携 す る 大 学 等		
連 携 方 法	☐ 協定	☐ 協定
	☐ 委託	☐ 委託
	☐ その他（ ）	☐ その他（ ）
開 始 年 度	年度	年度

問7-3 貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、大学等と連携したいとお考えですか。

- ☐ あり → 問7-4へ
☐ なし

問7-4 問7-3で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。

(複数回答可)

- ☐ 旅行商品開発
- ☐ 特産品開発
- ☐ 観光ボランティア
- ☐ 情報発信
- ☐ 計画・戦略策定
- ☐ その他 ()

問8 観光振興・産業振興分野における民間企業との連携について

問8-1 貴市では、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携して取り組む事業はありますか。

(地域ブランド化に関する取組については、問8でお答えください。)

- ☐ あり → 問8-2へ
- ☐ なし → 問8-3へ

問8-2 問8-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

(回答欄が不足する場合は、列を挿入してください)

事業名	①	②
事業概要		
連携する民間企業		
連携方法	☐ 協定	☐ 協定
	☐ 委託	☐ 委託
	☐ その他 ()	☐ その他 ()
開始年度	年度	年度

問8-3 貴市では、今後、観光振興又は産業振興分野において、民間企業と連携したいとお考えですか。

- ☐ あり → 問8-4へ
- ☐ なし

問8-4 問8-3で「あり」と回答した方に伺います。どのような分野での連携をお考えですか。

(複数回答可)

- ☐ 旅行商品開発
- ☐ 特産品開発
- ☐ 観光ボランティア
- ☐ 情報発信
- ☐ 計画・戦略策定
- ☐ その他 ()

問9 地域ブランド化の取組について

問9-1 貴市では、地域ブランドの開発、認定等の取組がありますか。

- ☐ あり → 問9-2へ
☐ なし → 問9-3へ

問9-2 問9-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

(回答欄が不足する場合は、列を挿入してください)

事業名	①	②
事業概要		
開始年度	年度	年度
大学等との連携	☐ 協定 ☐ 委託 ☐ その他 ()	☐ 協定 ☐ 委託 ☐ その他 ()
民間企業との連携	☐ 協定 ☐ 委託 ☐ その他	☐ 協定 ☐ 委託 ☐ その他

問9-3 貴市では、今後、地域ブランド化に取り組むお考えがありますか。

- ☐ あり
☐ なし

V 観光振興に関する課題について

問10 観光振興に関する課題について

問10-1 貴市が観光振興事業等に取り組むに当たって、どのような課題があるとお考えですか。

項目	具体的な内容
① 担い手に関すること	
② 事業費に関すること	
③ 地域資源に関すること	
④ 計画・戦略策定等に関すること	
⑤ 広報（情報発信）に関すること	
⑥ その他	

問10-2 問10-1で課題とされた項目のうち、貴市における最大の課題は何ですか。

項目	具体的な内容

Ⅵ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた取組について

問11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組について

問11-1 貴市では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2019年ラグビーワールドカップ開催に向けた取組方針、計画等を策定されていますか。

☐ あり（予定） → 問11-2へ

☐ なし → 問11-3へ

問11-2 問11-1で「あり（予定）」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

名 称	
策 定 年 度	年度（予定）
担 当 部 署	
計 画 期 間	
基 本 方 針	

問11-3 貴市では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や2019年ラグビーワールドカップ開催に向け、新たに、又は既存の事業を改編し、取り組まれる事業がありますか。

☐ あり（予定） → 問11-4へ

☐ なし → 理由（ ）

問11-4 問11-3で「あり（予定）」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

（回答欄が不足する場合は、列を挿入してください）

事 業 名	①	②
事 業 概 要		
実 施 時 期		
担 当 部 署		

問12 文化プログラムについて

問12-1 貴市では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムを実施する予定がありますか。

☐ あり（予定） → 問12-2へ

☐ なし → 理由（ ）

問12-3へ

問12-2 問12-1で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

(回答欄が不足する場合は、列を挿入してください)

事業名	①	②
事業概要		
実施時期		
担当部署		

問12-3 平成27年度市長会政策提言において、多摩地域独自の文化プログラムとして、『多摩地域全域での「第九」演奏会の同時開催』を提言しましたが、ご存知ですか。

- ☐ 知っている
☐ 知らない

問12-4 「第九」演奏会を開催する予定がありますか。

- ☐ あり → 問12-5へ
☐ なし → 問12-6へ

問12-5 問12-4で「あり」と回答した方に伺います。どのような内容ですか。

事業名	
事業概要	
対象者	
開催時期	
担当部署	

問12-6 問12-4で「なし」と回答した方に伺います。今後取り組まれる可能性はありますか。

- ☐ あり
☐ なし

平成27年度 東京都市長会政策提言

『多摩地域における誇るべき生活文化とは—生活文化の更なる発展・深化を目指して—』より抜粋

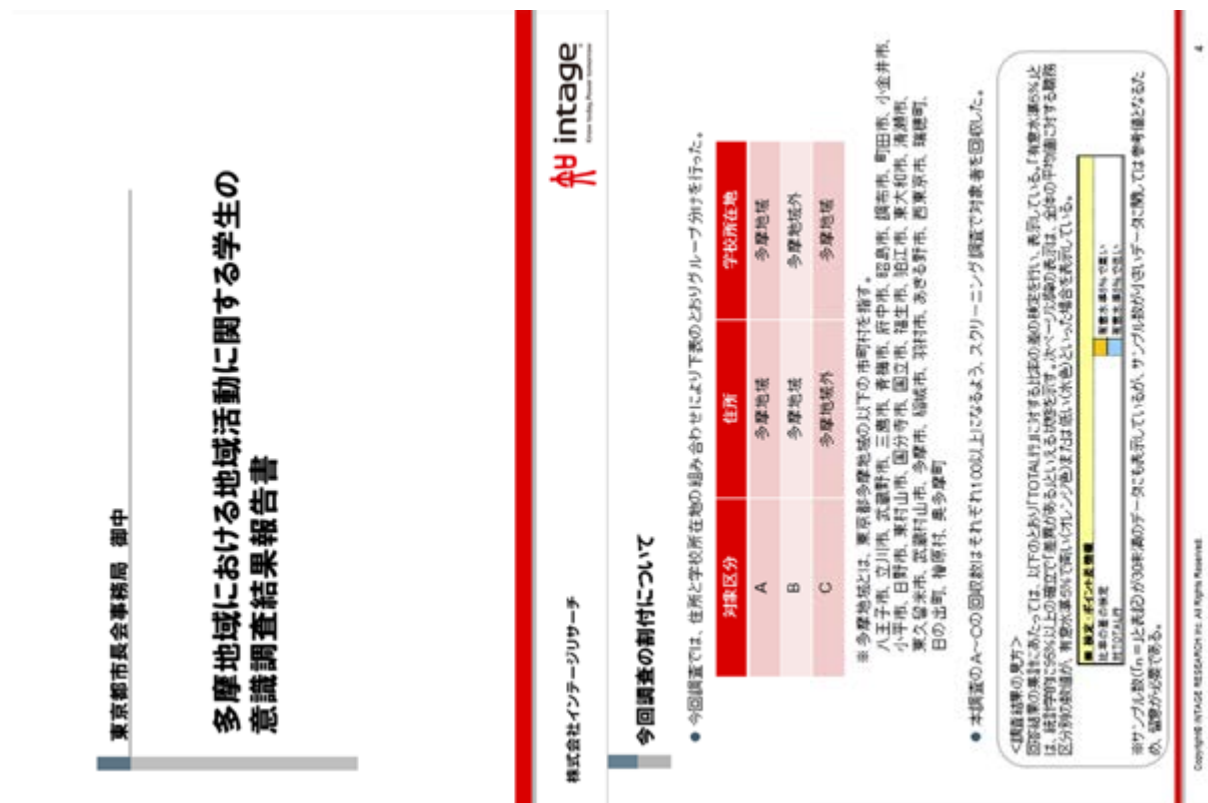
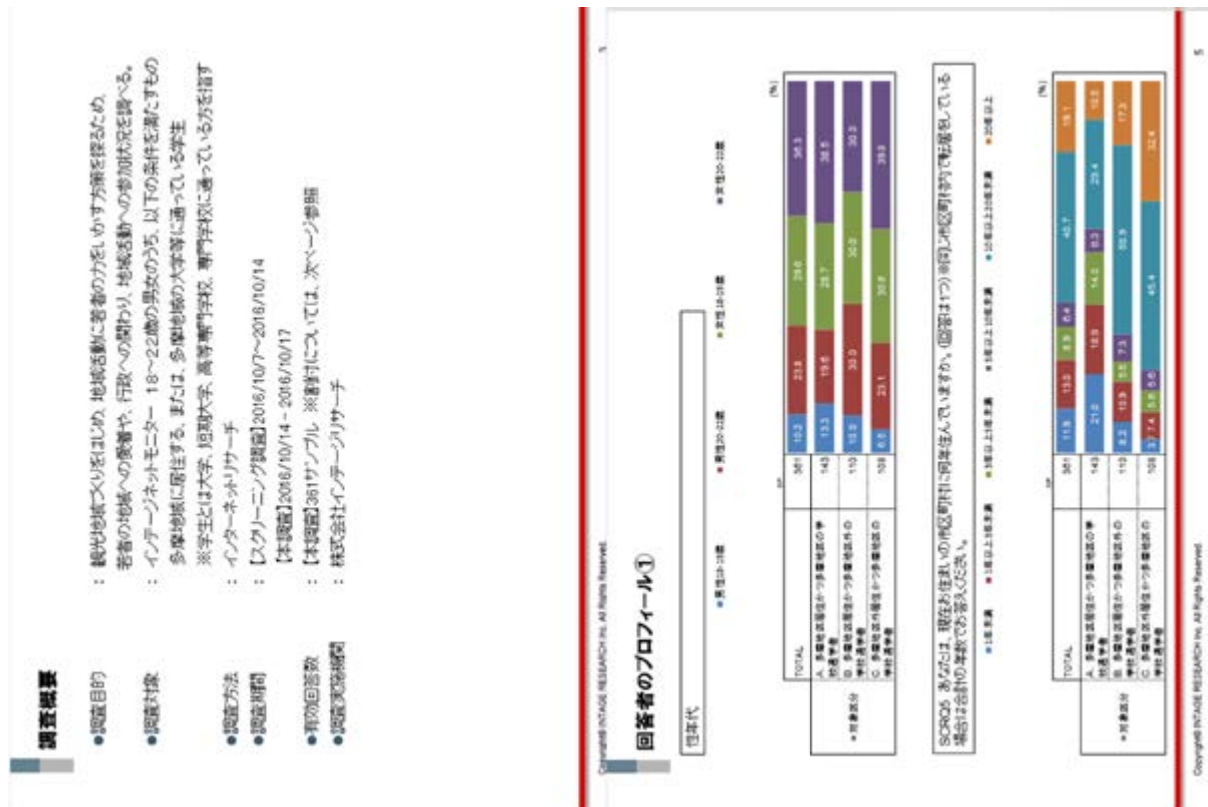
■【提言+】2020年大会開催に向けた多摩地域独自の「文化プログラム」について

○多摩地域全域での「第九」演奏会の同時開催について

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもある。…(略)…例えば、オリンピック閉会式又はパラリンピック閉会式の開催予定日に合わせて、全26市の文化施設・小中学校等で同時に世界平和を願う「第九」の演奏会を開催し、子ども・障害者・お年寄等すべての人達が参加できる「多摩地域独自の文化プログラム」として、オリンピック・パラリンピックの気運醸成を図っていくとともに、多摩地域の文化水準の高さを国内外に示していくことができれば、多摩地域居住者の誇りの醸成にもつながっていくものと考えます。

参照 <http://www.tokyo-mayors.jp/katsudo/seisaku.html>

2 多摩地域における学生の地域活動に関する意識調査結果



回答者のプロフィール②

SCRQ3 あなたのご出身の市区町村(高校まで)で一番長く過ごしていた(住所地)をお答えください。(回答は1つ)



Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

回答者のプロフィール④

SCRQ5 あなたが、現在通っている学校の所在地をお答えください。(回答は1つ)



Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

回答者のプロフィール③

SCRQ4 あなたが現在お住まいの市区町村をお答えください。(回答は1つ)



Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

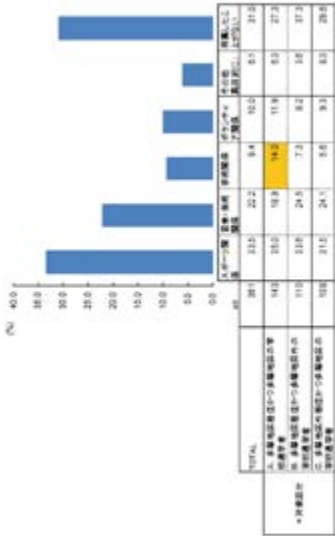
調査結果の詳細



Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

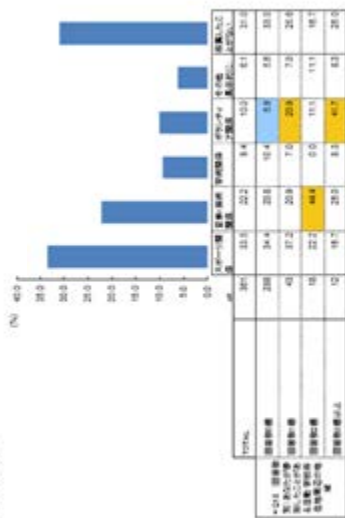
所属しているサークルや部活動

Q5 あなたは、現在通っている学校でサークル、部活動等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。(国
答はいくつでも)※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。
※10%未満は、スポーツ関係が20%と最も高く、次いで音楽・部活動が22%、ボランティア活動が10%となっている。
※付帯区分別では、A、多摩地区在住かつ多摩地区の学校の通学生で学級関係が14%と最も高く、B、多摩地区在住かつ多摩地区の学校の通学生で学級関係が10%となっている。



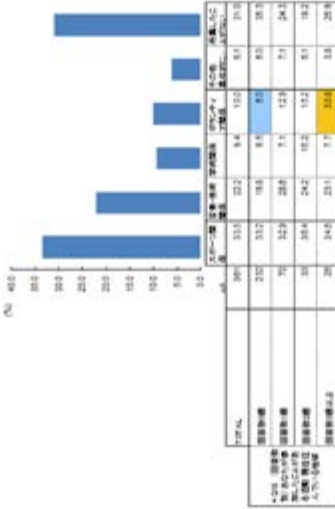
所属しているサークルや部活動：学校所在地周辺の地域で参加した地域活動別

Q6 あなたは、現在通っている学校でサークル、部活動等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。(国
答はいくつでも)※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。
※付帯区分別では、A、多摩地区在住かつ多摩地区の学校の通学生で学級関係が14%と最も高く、B、多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校の通学生で学級関係が10%となっている。
※の0%未満は、平均値となる。



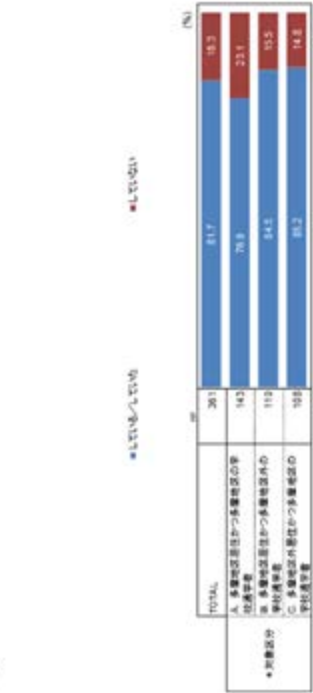
所属しているサークルや部活動：現在住んでいる地域で参加した地域活動別

Q5 あなたは、現在通っている学校でサークル、部活動等に所属されていますか。あてはまるものを選んでください。(国
答はいくつでも)※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。
※10%未満は、スポーツ関係が20%と最も高く、次いで音楽・部活動が22%、ボランティア活動が10%となっている。
※付帯区分別では、A、多摩地区在住かつ多摩地区の学校の通学生で学級関係が14%と最も高く、B、多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校の通学生で学級関係が10%となっている。



アルバイト経験

Q6 あなたは、現在アルバイトをしていますか。あるいは過去にしていたことがありますか。アルバイトとは、月1回以上の定期的な
ものを指します。(国答はいくつでも)※現在は所属していないが、過去に所属したことがある場合も、あてはまるものを選んでください。
※10%未満は、アルバイト経験が10%と最も高く、次いで音楽・部活動が22%、ボランティア活動が10%となっている。
※付帯区分別では、A、多摩地区在住かつ多摩地区の学校の通学生で学級関係が14%と最も高く、B、多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校の通学生で学級関係が10%となっている。

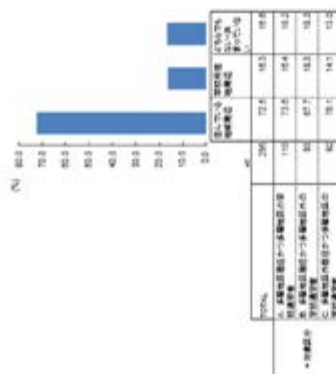


アルバイトの勤務地

Q6 アルバイトをしている。いる。はと回答の方にあります。
Q7 あなたのアルバイトの経験は、どちらですか。回答は、より多く請うているほうを、学校の所在地とみなしていただきます。

●TOTALでは、「住んでいる地域周辺が25%、『学都所在地周辺』が40%となっている。

●対象区分別では、有意差はみられず、



Copyright © 2004 Blackwell Publishing Ltd. All Rights Reserved

アルバイトの頻度

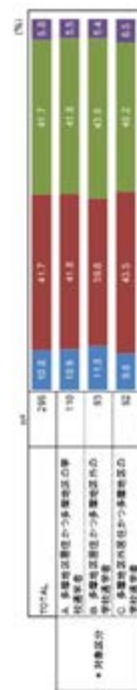
Q6 エルピオを求めている／／しているという点と関係した方にお話しします。

Q9 あなたのアルパカの性質は、どのくらいですか。送るものを選んでください。(回答は1つ)

※TOTALでは、「選べない」という一選がないで、選べないで1月に1〜2選が10選となっている。

対象区分別では、希望車種はみられない。

●消費区分別別は、消費税率は6.5%。



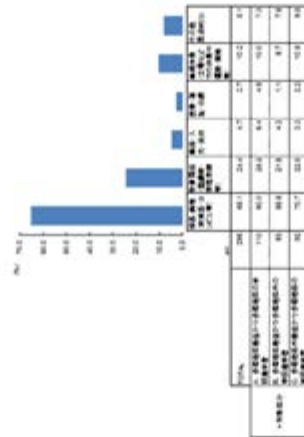
Copyright © 2004 WILEY-Blackwell Inc. All Rights Reserved

アルバイトの職種

Q6 アマルガムを削っているへるへるに閉鎖した方がよいと思います。
Q7 劣化が早いというアマルガムは、どのような歯痛ですか。恐らく歯を患うので、歯痛は、すべてです。

[illegible]

●付添区分別では、得意な道はみられたい。



Copyright © 2004 INTELLIGENCE Inc. All Rights Reserved.

同居家族の人数

Q10 現在お住まいの家の周囲の家族は何人ですか。非あな自身を含め、人数が何人ですか。(回答は1つ)

○07歳で、「へん」の90%と最も多い。若い世代世代別(20歳未満)が最も「へん」が90%以上である。

○18歳～24歳で、A、平均年齢は24歳で、平均年齢が最も低い世代世代別(20歳未満)が最も「へん」が90%以上である。

[illegible]

Copyright © 2004, McGraw-Hill Education. All Rights Reserved.

今後の居住意向

Q11 あなたは、これから現在住んでいる地域に住み続けたいと思いますか。(回答は1つ)※「地域」は、市区町村単位でお考えください。※「希望地域」とは、東京郊外の23区及び近き地域を除いた地域のことです。

●TOTALでは、「地方は住み続けたい」「が61.6%と最も高く、次いでずっと住み続けたい」が44.0%、「他の方を近所村(今暮電城以外)へ移したい」が16.2%となっている。

●対象区分別では、有意な差はみられない。

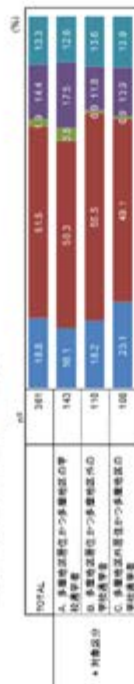
● ずっと僕と遊んでほしい

● 高中地理人地综合观

● 地址：新加坡坡底 11 号 11 楼 1101 室

● 德州市區新河(多量地塊出賣)● 德州地產網 ● 德州地產網

● 德州市區新河(多量地塊出賣)● 德州地產網 ● 德州地產網



Copyright © 2004 WILEY-Blackwell

卒業後の居住地を決める際に重要な要素

Q12 あなたが、卒業後に住む場所を決めるのに重要な要素を選んでください。(回答は3つまで)

※TOTALでは、「交通の便がよい」が64.6%と最も高く、次いで「家賃が安い」が32.1%となっている。

●対象区分別では、中央区外居住かつ中央区の学校通学者で「交通の便がよい」が64.8%、「新築施設が充実」で40.1%、最も多い。大塚の区外居住かつ中央区の学校で「交通の便がよい」が60.7%、「新築施設が充実」で37.9%、最も多い。大塚の区外居住かつ中央区の学校で「交通の便がよい」が60.7%、「新築施設が充実」で37.9%、最も多い。

●また、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校通学者では、「実家で暮らす」と同居できものがAと有難に感じている。



Copyright © 2004 WILEY-INTERSCIENCE, Inc. All Rights Reserved.

今後の居住意向：参加した地域活動別

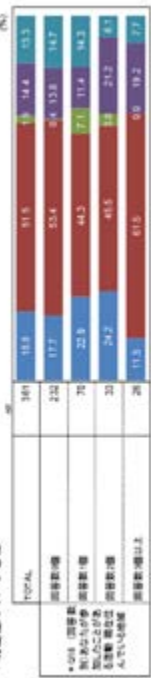
Q11 あなたは、これから現在住んでいる地域に住み続けたいと思いますか。(回答は「はい」か「いいえ」です。)
 A11 はい、いいえ、どちらでもなく、どちらか一方に決まらずに、地域を離れて他地域に移住したいという希望は、決してありません。むしろ、住み慣れた地域で暮らしたいという希望は、非常に強いと思います。また、住み慣れた地域で暮らすことは、生活の安定感や安心感、そして、地域社会とのつながりやコミュニティの形成に貢献できる点も、非常に魅力的だと思います。また、住み慣れた地域で暮らすことは、生活の安定感や安心感、そして、地域社会とのつながりやコミュニティの形成に貢献できる点も、非常に魅力的だと思います。

●参加、大規模活動の盛況例では、地域活動に1つ参加したことがあ人も、「他の町区町村(市警地域)へ1歩出た」のが何割と高くなる。

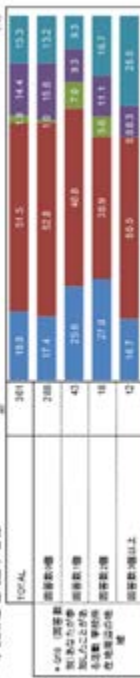
● 德意志通讯社 (多倫多總社) ● 約 800 名

● 德意志通讯社 (多倫多總社) ● 約 800 名

＜現在住んでいる地域＞



<学校所在地周辺地図>



Copyright © 2006 WILEY-Blackwell. All Rights Reserved.

都市ポランディアについての考え

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、1万人以上の都市ボランティア(聖火・旗・観光スポットなどで国内外からの観光客へ観光案内や交通案内を行う)を募集することが予定されています。

Q13 創作ボランティアについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(回答は1つ)

・TOTALでは「選ばれたら応募するか」ではなく「応募するつもりはない」が60%、(「応募ボランティア」として

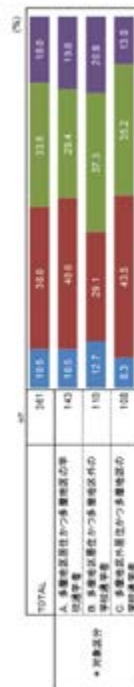
② 対象区分別では、対象地区居住かつ対象地区外の学校通学者で割り切れたら応募するかもしれないが、2017年度と異様に低くなっている。

● 国産のりんごジュースとして、選ばれる。

● 国産のりんごジュースとして、選ばれる。

● 本書は、**「読む」**が目的の書ではない。読むのではなく、**「読む」**が目的の書ではない。読むのではなく、**「読む」**が目的の書ではない。

● 本書は、**「読む」**が主眼である。



Copyright © 2007 by John Wiley & Sons, Inc.

日常生活における考えや行動：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

44

日常生活における考えや行動：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

45

日常生活における考えや行動：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：住んでいるまちで住民同士あいざつを交わすことは大切であると思う

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

46

日常生活における考えや行動：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

※回答は、あなたの考えや行動の両方について、(回答は1つ)：学業以外に、地域や社会に役立つ活動をしてみたいと思う

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
TOTAL	241	11.6	36.6	25.8	8.6
A. 多摩地区在住かつ多摩地区の学校に通学	143	11.6	45.2	27.7	8.4
B. 多摩地区在住かつ多摩地区以外の学校に通学	119	18.2	44.5	28.6	8.2
C. 多摩地区以外の学校に通学	160	11.8	49.7	37.5	19.2

47

日常生活における考えや行動：家族を大切にしたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を記入してください。（回答は1つ）：家族を大切にしたいと思う

※TOTALでは、1つでもあてはまるものが40%に達し、3つ以上あてはまるものが40%に達している。
※対象区分別では、希望な意見はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	人	世帯	(%)
TOTAL	281	65.7	48.2
A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市 民生活者	142	43.4	37.1
B. 多摩地区居住かつ多摩地区外の 市生活者	110	37.2	40.3
C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の 市生活者	106	45.7	48.4

※ 世帯別

日常生活における考えや行動：市区町村の広報紙をよく読む

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を記入してください。（回答は1つ）：市区町村の広報紙をよく読む

※TOTALでは、「ほとんどあてはまらない」が20%と最も多く、次いで「ほとんどあてはまる」が20%、「どちらとも言いえない」が20%、「どちらとも言いえない」が20%となっている。

※対象区分別では、B. 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者で、「どちらとも言いえない」が30%と最も多く、次いで「ほとんどあてはまる」が20%となっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	※	(%)
A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市生活者	142	4.4	12.2
B. 多摩地区居住かつ多摩地区内の市生活者	110	4.3	14.7
C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市生活者	106	5.4	9.1
D. 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者	106	3.7	12.6

日常生活における考えや行動：家族を大切にしたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を記入してください。（回答は1つ）：家族を大切にしたいと思う

※TOTALでは、1つでもあてはまるものが40%に達し、3つ以上あてはまるものが40%に達している。
※対象区分別では、希望な意見はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	人	%	(%)
TOTAL	343		
調査地域	210	43.7	42.2
調査地域外	133	37.8	38.7
調査地域内	71	45.7	44.3
調査地域外	62	36.3	36.7
調査地域内	33	35.3	34.0
調査地域外	24	69.2	19.3

※学校所在地周辺の地域

	TOTAL	※	(%)
A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市生活者	142	45.7	48.2
B. 多摩地区居住かつ多摩地区内の市生活者	110	43.6	38.5
C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市生活者	43	33.5	48.2
D. 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者	18	27.8	61.3
計	313	167.6	53.5

日常生活における考えや行動：市区町村の広報紙をよく読む

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を記入してください。（回答は1つ）：市区町村の広報紙をよく読む

※TOTALでは、「ほとんどあてはまらない」が20%と最も多く、次いで「ほとんどあてはまる」が20%、「どちらとも言いえない」が20%、「どちらとも言いえない」が20%となっている。

※対象区分別では、B. 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者で、「どちらとも言いえない」が30%と最も多く、次いで「ほとんどあてはまる」が20%となっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

※学校所在地周辺の地域

	世帯数	割合	割合	割合	割合	割合
TOTAL	367	4.4	12.2	33.5	30.2	29.6
多摩地区居住者	210	4.4	8.9	22.9	32.3	32.3
多摩地区外居住者	157	4.2	12.6	21.4	28.8	28.8
※ G11 多摩地区外居住かつ多摩地区内の市生活者	50	6.1	12.2	28.6	27.3	12.3
※ G12 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者	49	11.5	20.9	23.3	3	13.2

※学校所在地周辺の地域

	TOTAL	※	(%)
A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市生活者	142	4.4	12.2
B. 多摩地区居住かつ多摩地区内の市生活者	110	3.7	12.6
C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市生活者	106	5.4	9.1
D. 多摩地区外居住かつ多摩地区外の市生活者	106	3.7	12.6

※ 0.12 (四捨五入)
注 1. 世帯数
注 2. 世帯数割合
注 3. 世帯数割合
注 4. 世帯数割合
注 5. 世帯数割合

日常生活における考えや行動：毎日テレビやインターネットでニュースを見る

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：毎日テレビやインターネットでニュースを見る。
 ※TOTALでは、「まああてはまるがやや多い」「どちらとも言いえない」「どちらとも言いえない」が1つになっている。
 ※対象区分別では、A、多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者で、「まああてはまる」が40.1%と、割合が高くなっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※どちらとも言いえない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	27.6	48.2	21.1	6.5	2.8
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	25.8	50.5	20.8	9.8	4.2
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	108	33.3	33.8	22.7	8.1	3.6
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	28.7	49.1	19.7	6.9	2.9
※						

日常生活における考えや行動：学校に行くことが楽しい

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：学校に行くことが楽しい。
 ※TOTALでは、「まああてはまるがやや多い」「どちらとも言いえない」「どちらとも言いえない」が27.3%と、割合が高くなっている。
 ※対象区分別では、A、多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者で、「ほとんどあてはまらない」が17.8%と、割合が高くなっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※どちらとも言いえない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	25.8	42.8	22.5	7.8	3.5
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	33.6	38.5	27.3	6.8	3.1
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	110	28.6	42.7	24.5	8.2	4.5
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	25.1	47.2	17.8	10.2	3.8
※						

日常生活における考えや行動：毎日テレビやインターネットでニュースを見る

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：毎日テレビやインターネットでニュースを見る。
 ※対象区分別では、「まああてはまるがやや多い」「どちらとも言いえない」「どちらとも言いえない」が42.8%と、割合が高くなっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※どちらとも言いえない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	27.6	48.2	21.1	6.5	2.8
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	25.8	50.5	20.8	9.8	4.2
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	108	33.3	33.8	22.7	8.1	3.6
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	28.7	49.1	19.7	6.9	2.9
※						

<現在住んでいる地域>

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	27.6	48.2	21.1	6.5	2.8
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	25.8	50.5	20.8	9.8	4.2
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	108	33.3	33.8	22.7	8.1	3.6
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	28.7	49.1	19.7	6.9	2.9
※						

日常生活における考えや行動：学校に行くことが楽しい

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：学校に行くことが楽しい。
 ※対象区分別では、「まああてはまるがやや多い」「どちらとも言いえない」「どちらとも言いえない」が27.3%と、割合が高くなっている。
 ※対象区分別では、A、多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者で、「ほとんどあてはまらない」が17.8%と、割合が高くなっている。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも言いえない ※どちらとも言いえない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	25.8	42.8	22.5	7.8	3.5
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	33.6	38.5	27.3	6.8	3.1
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	110	28.6	42.7	24.5	8.2	4.5
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	25.1	47.2	17.8	10.2	3.8
※						

<現在住んでいる地域>

	TOTAL	※	※	※	※	※
A. 多摩地区が居住かつ多摩地区の学校通学者	143	25.8	42.8	22.5	7.8	3.5
B. 多摩地区が居住かつ多摩地区以外の学校通学者	143	33.6	38.5	27.3	6.8	3.1
C. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区の学校通学者	110	28.6	42.7	24.5	8.2	4.5
D. 多摩地区以外の居住かつ多摩地区以外の学校通学者	108	25.1	47.2	17.8	10.2	3.8
※						

日常生活における考えや行動：生活に新しいことを取り入れたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：生活に新しいことを取り入れたいと思う
 ※TOTALでは、「まああてはまるが40%と最も高い、次いでどちらとも思えないが33%」とてもあてはまるが16%となっている。
 ※付帯区分別では、概要な趣はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも思えない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	14.6	47.8	21.8	8.4	4.2
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	14.1	42.4	20.6	7.2	3.3
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	36.1	27.8	12.5	4.9
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	15.8	43.8	20.3	8.3	3.3

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

56

日常生活における考えや行動：サークル活動に頻繁に参加している

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：サークル活動に頻繁に参加している
 ※TOTALでは、「どちらとも思えないが10%と最も高い、次いであてはまるが33%」とてもあてはまるが16%となっている。
 ※付帯区分別では、概要な趣はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも思えない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	13.3	20.8	23.3	14.4	23.3
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	13.9	23.8	18.2	18.4	23.6
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	18.1	20.3	9.0	24.5
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	19.4	18.5	23.3	17.8	21.3

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

58

日常生活における考えや行動：生活に新しいことを取り入れたいと思う

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：生活に新しいことを取り入れたいと思う
 ※TOTALでは、「まああてはまるが40%と最も高い、次いでどちらとも思えないが33%」とてもあてはまるが16%となっている。
 ※付帯区分別では、概要な趣はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも思えない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	14.6	47.8	21.8	8.4	4.2
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	14.1	42.4	20.6	7.2	3.3
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	36.1	27.8	12.5	4.9
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	15.8	43.8	20.3	8.3	3.3

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	14.6	47.8	21.8	8.4	4.2
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	14.1	42.4	20.6	7.2	3.3
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	36.1	27.8	12.5	4.9
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	15.8	43.8	20.3	8.3	3.3

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

57

日常生活における考えや行動：サークル活動に頻繁に参加している

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：サークル活動に頻繁に参加している
 ※TOTALでは、「どちらとも思えないが10%と最も高い、次いであてはまるが33%」とてもあてはまるが16%となっている。
 ※付帯区分別では、概要な趣はみられない。

※とてもあてはまる ※まああてはまる ※どちらとも思えない ※あまりあてはまらない ※ほとんどあてはまらない

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	13.3	20.8	23.3	14.4	23.3
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	13.9	23.8	18.2	18.4	23.6
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	18.1	20.3	9.0	24.5
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	19.4	18.5	23.3	17.8	21.3

	TOTAL	A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村
※TOTAL	361	143	110	100	109
※付帯区分					
※A. 多摩地区居住かつ多摩地区の市町村	13.3	20.8	23.3	14.4	23.3
※B. 多摩地区居住かつ多摩地区以外の市町村	13.9	23.8	18.2	18.4	23.6
※C. 多摩地区外居住かつ多摩地区の市町村	18.4	18.1	20.3	9.0	24.5
※D. 多摩地区外居住かつ多摩地区以外の市町村	19.4	18.5	23.3	17.8	21.3

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

59

日常生活における考えや行動：ゼミの活動に頻繁に参加している

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：ゼミの活動に頻繁に参加している。
 *TOTALでは、「まあまあ」が20.0%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が20.0%、「ほとんど否定的」が19.2%となっている。
 *対男女別では、男性は「まあまあ」が20.0%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が20.0%、「ほとんど否定的」が19.2%となっている。

<現在住んでいる地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的	否定的
TOTAL	341	11.8	20.5	26.6	19.7
性別別					
男性	222	8.5	24.1	28.9	24.1
女性	79	16.1	27.1	22.9	12.9
年齢別					
18歳未満	25	20.2	33.3	21.2	9.1
18歳以上	26	2.8	24.6	42.3	15.5

<学校所在地周辺の地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	341	11.8	20.5	26.6	14.4	19.7
性別別						
男性	222	8.5	24.1	28.9	18.4	24.1
女性	79	16.1	27.1	22.9	12.9	12.9
年齢別						
18歳未満	25	20.2	33.3	21.2	9.1	9.1
18歳以上	26	2.8	24.6	42.3	7.7	15.5

Copyright © 2014 N/A&E RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

身近な地域への愛着度合：参加した地域活動別

住んでいる地域および学校所在地周辺の地域についてお答えします。
 Q15 あなたは現在住んでいる地域および学校所在地周辺の地域にどのくらい愛着を感じていますか。あてはまるものを選んでください。(回答は1つ)※学校の敷地が複数ある場合は、より多く愛着を感じているほうを、学校の所在地とみなしてください。
 *TOTALでは、現在住んでいる地域に愛着を感じないが40.2%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が27.7%、「あまり愛着を感じない」が19.2%となっている。

<現在住んでいる地域>

＜現在住んでいる地域＞

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	341	9.8	48.3	18.3	13.2	14.4
性別別						
男性	222	13.5	52.2	18.5	13.2	13.2
女性	79	27.1	42.9	18.5	12.9	12.9
年齢別						
18歳未満	25	20.2	51.6	18.5	9.1	13.2
18歳以上	26	42.3	38.8	18.5	11.7	11.7

<学校所在地周辺の地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	241	4.4	41.3	27.1	18.3	8.9
性別別						
男性	210	2.6	48.6	28.9	17.9	10.4
女性	43	7.6	44.2	23.3	23.3	2.3
年齢別						
18歳未満	58	13.5	38.8	18.5	18.5	9.1
18歳以上	12	24.6	23.8	23.8	23.8	23.8

Copyright © 2014 N/A&E RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

日常生活における考えや行動：ゼミの活動に頻繁に参加している

Q14 以下の内容に対する、あなたの考えや行動を教えてください。(回答は1つ)：ゼミの活動に頻繁に参加している。
 *TOTALでは、「まあまあ」が20.0%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が20.0%、「ほとんど否定的」が19.2%となっている。
 *対男女別では、男性は「まあまあ」が20.0%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が20.0%、「ほとんど否定的」が19.2%となっている。

<現在住んでいる地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	341	11.8	20.5	26.6	14.4	19.7
性別別						
男性	222	8.5	24.1	28.9	18.4	24.1
女性	79	16.1	27.1	22.9	12.9	12.9
年齢別						
18歳未満	25	20.2	33.3	21.2	9.1	9.1
18歳以上	26	2.8	24.6	42.3	7.7	15.5

<学校所在地周辺の地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	341	11.8	20.5	26.6	14.4	19.7
性別別						
男性	222	8.5	24.1	28.9	18.4	24.1
女性	79	16.1	27.1	22.9	12.9	12.9
年齢別						
18歳未満	25	20.2	33.3	21.2	9.1	9.1
18歳以上	26	2.8	24.6	42.3	7.7	15.5

Copyright © 2014 N/A&E RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

身近な地域への愛着度合

住んでいる地域および学校所在地周辺の地域についてお答えします。
 Q15 あなたは現在住んでいる地域および学校所在地周辺の地域にどのくらい愛着を感じていますか。あてはまるものを選んでください。(回答は1つ)※学校の敷地が複数ある場合は、より多く愛着を感じているほうを、学校の所在地とみなしてください。
 *TOTALでは、現在住んでいる地域に愛着を感じないが40.2%最も高く、次いで「どちらとも言いえない」が27.7%、「あまり愛着を感じない」が19.2%となっている。

<現在住んでいる地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的	ほとんど肯定的
TOTAL	341	9.8	48.3	18.3	13.2
性別別					
男性	222	13.5	52.2	18.5	13.2
女性	79	27.1	42.9	18.5	12.9
年齢別					
18歳未満	25	20.2	51.6	18.5	9.1
18歳以上	26	42.3	38.8	18.5	11.7

※ 横断的調査結果

<学校所在地周辺の地域>

	賛成	どちらとも言いえない	どちらとも言いえない	ほとんど否定的		
TOTAL	341	4.4	41.3	27.6	18.3	8.9
性別別						
男性	222	2.6	48.6	28.9	17.9	10.4
女性	79	7.2	44.2	23.3	23.3	2.3
年齢別						
18歳未満	25	13.3	38.8	18.5	18.5	9.1
18歳以上	26	25.8	23.8	23.8	23.8	23.8

Copyright © 2014 N/A&E RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

地域に愛着を感じる理由：現在住んでいる地域

- Q15で「とても感じる」「まあ感じる」と回答した方にお伺いします。
Q16 あなたが、その地域に愛着を感じる理由は何ですか。（回答は3つまで）：現在住んでいる地域
※1074人中、「自然が美しいから」が28.0%と最も高く、次いで「交通の便が良いから」が20.0%、
「家賃が安いから」が19.0%と続いています。
※1074人中、A. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者で、「自然が美しいから」が24.7%、「友人・知人宅が近いから」が
22.4%、「学校が近いから」が11.0%と続いています。
※また、B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「自然で静かな暮らしが送れるから」が20.0%と最も高く、次いで「交通の便が良いから」が19.0%と続いています。



64

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved

地域に不満を感じる部分：現在住んでいる地域

- Q17 あなたが、その地域に不満を感じる部分はどれですか。（回答は3つまで）：現在住んでいる地域
※1074人中、「交通の便が悪い」が23.0%と最も高く、次いで「家賃が高すぎる」が21.0%、「静けさやプライバシーが足りない」が14.7%
と続いています。
※対象区分別では、A. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者で、「交通の便が悪い」が21.5%、「家賃が高すぎる」が20.0%と続いています。
B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「自然が美しいから」が24.7%、「友人・知人宅が近いから」が22.4%、
「学校が近いから」が11.0%と続いています。
※また、B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「家賃が高すぎる」が19.0%、「静けさやプライバシーが足りない」が14.7%と続いています。
C. 多摩地区外在住かつ
多摩地区外の学校通学者では、「交通の便が悪い」が13.0%、「家賃が高すぎる」が10.0%と続いています。



65

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved

地域に愛着を感じる理由：学校所在地周辺の地域

- Q15で「とても感じる」「まあ感じる」と回答した方にお伺いします。
Q18 あなたが、その地域に愛着を感じる理由は何ですか。（回答は3つまで）：学校所在地周辺の地域
※1074人中、「学校が近いから」が20.0%と最も高く、次いで「自然が美しいから」が19.0%、「交通の便が良いから」が19.0%と
続いています。
※対象区分別では、A. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者で、「自然が美しいから」が24.7%、「友人・知人宅が近いから」が
22.4%、「学校が近いから」が11.0%と続いています。
※また、B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「交通の便が良いから」が19.0%と最も高く、次いで「自然が美しいから」が19.0%と続いています。



66

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved

地域に不満を感じる部分：学校所在地周辺の地域

- Q17 あなたが、その地域に不満を感じる部分はどれですか。（回答は3つまで）：学校所在地周辺の地域
※1074人中、「交通の便が悪い」が23.0%と最も高く、次いで「家賃が高すぎる」が21.0%、「静けさやプライバシーが足りない」が14.7%と続
いていて、
※対象区分別では、A. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者で、「交通の便が悪い」が21.5%、「家賃が高すぎる」が20.0%と続
いていて、
B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「自然が美しいから」が24.7%、「友人・知人宅が近いから」が22.4%、
「学校が近いから」が11.0%と続いています。
※また、B. 多摩地区在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「家賃が高すぎる」が19.0%、「静けさやプライバシーが足りない」が14.7%と続
いています。
C. 多摩地区外在住かつ多摩地区外の学校通学者では、「交通の便が悪い」が13.0%、「家賃が高すぎる」が10.0%と続いています。



67

Copyright INTAGE RESEARCH Inc. All Rights Reserved

参加したことがある活動：現在住んでいる地域

Q18/Q19 次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）

※TOMでは、現在住んでいる地域で参加したことがある活動は、「市民参加イベントの参加者」が最も多く、次いで「市民参加イベントの運営スタッフ」が19%、「自治会などの活動」の参加者が11%、自治会以上の活動が10%と続いている。

※対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校に通学する「市民参加イベントの参加者」が10%と最も多く、次いで「自治会などの活動」が9%と続いている。



Copyright ©TOM RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

68

参加したことがある活動：回答数別

Q18/Q19 次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）

※TOMでは、現在住んでいる地域で参加したことがある活動は、「市民参加イベントの参加者」が最も多く、次いで「市民参加イベントの運営スタッフ」が19%、「自治会などの活動」の参加者が11%、自治会以上の活動が10%と続いている。

※対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校に通学する「市民参加イベントの参加者」が10%と最も多く、次いで「自治会などの活動」が9%と続いている。

<現在住んでいる地域>



<学校所在地周辺の地域>



Copyright ©TOM RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

70

参加したことがある活動：学校所在地周辺の地域

Q18/Q19 次の活動に関して、参加したことがあるものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）

※TOMでは、現在住んでいる地域で参加したことがある活動は、「市民参加イベントの参加者」が最も多く、次いで「市民参加イベントの運営スタッフ」が19%、「自治会などの活動」の参加者が11%、自治会以上の活動が10%と続いている。

※対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校に通学する「市民参加イベントの参加者」が10%と最も多く、次いで「自治会などの活動」が9%と続いている。



Copyright ©TOM RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

69

今後参加したい活動：現在住んでいる地域

Q18/Q19 次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお答えください。（回答はいくつでも）

※TOMでは、現在住んでいる地域で参加したい活動は、「市民参加イベントの参加者」が最も多く、次いで「市民参加イベントの運営スタッフ」が19%、「自治会などの活動」の参加者が11%、自治会以上の活動が10%と続いている。

※対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校に通学する「市民参加イベントの参加者」が10%と最も多く、次いで「自治会などの活動」が9%と続いている。

<現在住んでいる地域>



<学校所在地周辺の地域>



Copyright ©TOM RESEARCH Inc. All Rights Reserved.

71

今後参加したい活動：学校所在地周辺の地域

Q18/Q19 次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお書きください。
(回答はいくつでも)

●TOTALでは、学校所在地周辺の単位で今年参加した活動は、「中学生との交流(国策の補助等)」が60%と最も高く、次いで「外国人との交流(親睦訪問等)」が79%、「市民団体のイベントへの参加等」が84となっている。

●対象区分別では、A、B、C各地区居住かつ各地区の学級通学者で、「小中学生との交流(授業の補助等)」が110%と有意に高くなっていく。



Copyright © 2004 by Humana Press. All rights reserved.

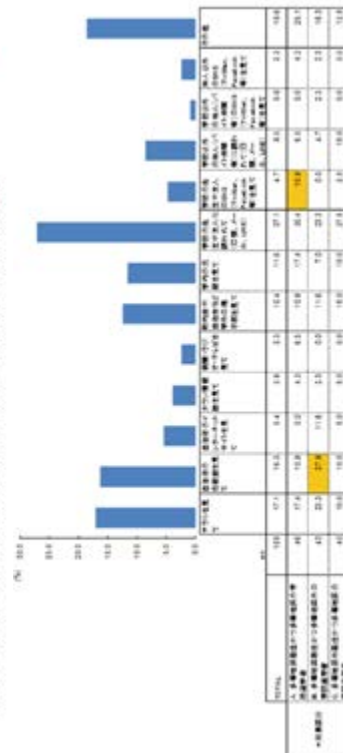
地域での活動に参加したきっかけ：現在住んでいる地域

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお伺いします。

Q20 参加のきっかめは国ですか。(回答はいくつでも) 現在住んでいる地域

●TOTALでは、「学校の先生や友人に誘われて（正確、 $\mu=0$ ）が27.8と最も高く、次いでオカシな意見が17.8、「自治体の広報誌を見てが16.3」となっている。

●対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校通学者で「学校の先生や友人のSNS(Twitter, Facebook)で、多摩地区居住かつ多摩地区外の学校通学者で自治体の広報誌を見て」が2割強と希望に届いていない。



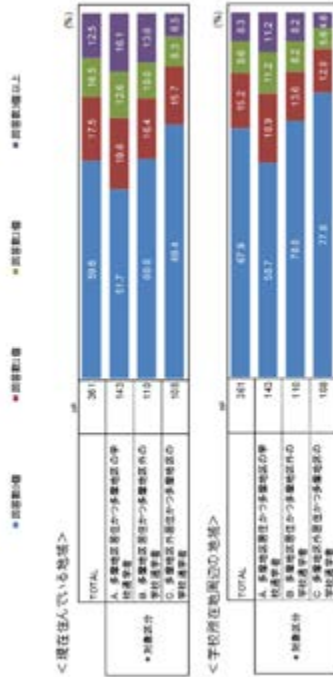
Published by the American Psychological Association or one of its allied publishers. This article is intended solely for the personal use of the individual user and is not to be disseminated broadly.

今後参加したい活動：回答数別

Q18/Q19 次の活動に関して、今後参加してみたいものはどれですか。あてはまるものをそれぞれお書きください。
(回答はいくつでも)

●TOTALでは、現在任で、札幌市では、今年参加したい運動が17回、2割以上が10回以下、また学校の所在地も6割の地域では、今年参加したい運動が15回、2割以上が10回以下となっている。

●対象区分制では、C、多摩地区外居住かつ多摩地区の学校通学者で、今後は増加したい運動が5項目の割合が有意に高くなっている。(現在入っている地域では69.4%、学校所在地周辺の地域では77.0%)



Copyright © 2006 by Elsevier Inc. All rights reserved.

地域での活動に参加したきっかけ：現在住んでいる地域で参加した活動別

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお限ります。

Q20 参加の皆さんは岡ですか。(岡田はいくつでも)、現在住んでいる地域

●現在住んでいる地域で参加した運動として、回答がなかった上104つの回答結果では、「市民科学」やイベントの参加などでは「子ども」を見て「若者」が最も多く参加していることがわかった。また、地域で行われた「防災訓練」では「学校の先生や友人」に誘われて「防災訓練」に参加していることが多かった。



Copyright © 2004 INTELLIGENT MEDICATIONS. All Rights Reserved.

地域での活動に参加したきっかけ：学校所在地周辺の地域

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお伺いします。

Q20 参加のきっかけは何ですか。(回答はいくつでも)：学校所在地周辺の地域

●TOTALでは「学校の先生や友人に誘われて(口頭、メール、LINE)」が全体の半分以上、次いで「学内の広場を見て」が10.2%、「チラシを見て」が10.4%となっている。

●対象区分別では、サンブル数が少なく、有意な差はみられない。



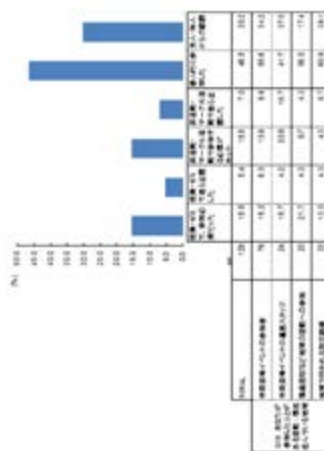
Copyright INTAGE RESEARCH INC. All Rights Reserved

地域での活動に参加した経緯：現在住んでいる地域で参加した活動別

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお知らせします。

Q21 参加形態は次のうちどれですか。(回答はいくつでも)：現在住んでいる地域
これまで住んでいた地域への活動に参加したことある方にお答えください。

●現在住んでいる地域で参加した活動として回答が多かった上、**2つ**の選択肢の中では、有償活動はみられず、



Copyright © 2004, Elsevier Inc. All Rights Reserved.

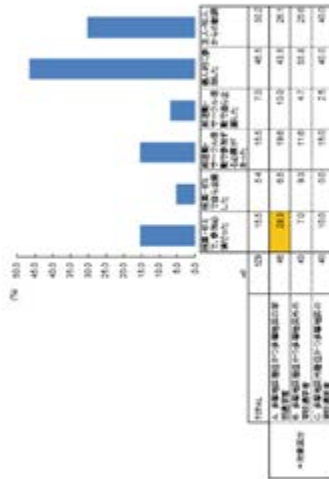
地域での活動に参加した経緯：現在住んでいる地域

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお伺いします。

Q21 参加形態は次のうちどれですか。(回答はいくつでも)。現在住んでいる地域
 へ移るために帰郷している親類や家族がいたところから、片づいて帰郷します。

●TOTALでは、「個人的に勉強した」が60%と最も高く、次いで「友人・知人から」の勉強が50%、「授業・ゼミで学習した」が45%、「図書館・サウナ」で勉強する必要がある」が35%となっている。

●対象区分別では、A、多摩地区居住かつ多摩地区の学校通学者で、「関東・ゼミ」で、参加必須だった「が20歳と年齢に満たない」。



Copyright © 2014 John Wiley & Sons, Inc.

地域での活動に参加した経緯：現在住んでいる地域で参加した地域活動別

これまでに4回までの活動に参加したことがある方にお知らせします。

Q21 貴校の目標は次のうちどれですか、(回答は、すべてでも) 現在進んでいる地域
これまでに達成できている目標に照らしながら、どの部分の方に力を入れています。

●現在在人で、最も深く悩んでいることの裏面が、最も顕著の個性であり、かつ上りの者類に多い。たことが多く人は、「経済活動」サークル活動で知られている。たが（？）とある（？）が（？）である。



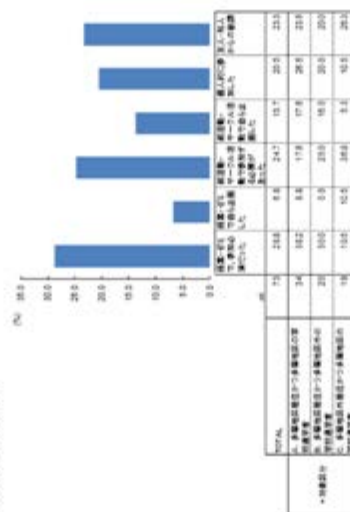
Downloaded At: 11:53 11 September 2009

地域での活動に参加した経緯：学校所在地周辺の地域

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお集まります。

Q21 参加形態は次のうちどれですか。(回答はいくつでも)：学校所在地周辺の地域

人・知人からの信頼感が半減となっている。



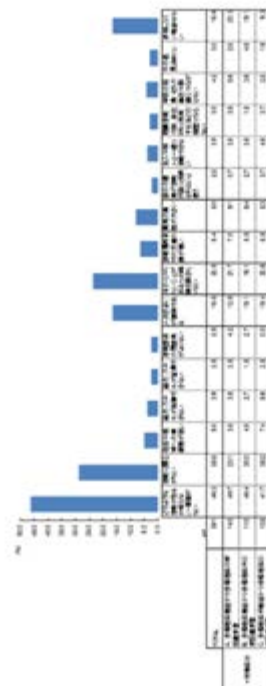
Copyright © 2004 West Group. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しない理由

Q22 あなたが、地域での活動に参加しない、または参加しにくい理由は何ですか。(回答はいくつでも)

●TOTALでは、「どのような活動があるのか?」「誰がやるのか?」「いつやるのか?」が3つの問いかけで活動の中心になっている。この3問、「誰がやるのか?」が最も重要だといっている。

●対象区分別では、有意な差はみられず、



Copyright © 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675,

地域での活動に参加した経緯：学校所在地周辺の地域で参加した地域活動別

これまでに地域での活動に参加したことがある方にお届けします。

Q21 参加形態は次のうちどれですか。(回答はいくつでも)：学校所在地周辺の地域



Copyright © 2006 Pearson Education, Inc. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しない理由：現在住んでいる地域で参加した地域活動別

Q22 あなたが、地域での活動に参加しない、または参加しにくい理由は何ですか。(回答はいくつでも)

● 前述している地域で参加したことがある地域活動の感想としては、1つは地域活動に参加したことがある人は、「社会や地域への貢献が思いがけず大きくなった」という感想が聞かれています。



Copyright © 2014 by Elsevier Inc. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しない理由：学校所在地周辺の地域で参加した地域活動別

Q22 あなたが、地域での活動に参加しない、または参加しにくい理由は何ですか。(回答は1つでも)
 ※学校所在地周辺の地域で参加しない地域活動の理由としては、12%の活動に参加しない人は「活動に参加しない理由がわからないが60%、17%の理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。
 ※また、12%の地域活動に参加しない人は「活動に参加しない理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。



地域での活動に参加しない理由：学校所在地周辺の地域で今後参加したい地域活動別

Q22 あなたが、地域での活動に参加しない、または参加しにくい理由は何ですか。(回答は1つでも)
 ※学校所在地周辺の地域で参加しない地域活動の理由としては、12%の活動に参加しない人は「活動に参加しない理由がわからないが60%、17%の理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。
 ※また、12%の地域活動に参加しない人は「活動に参加しない理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。



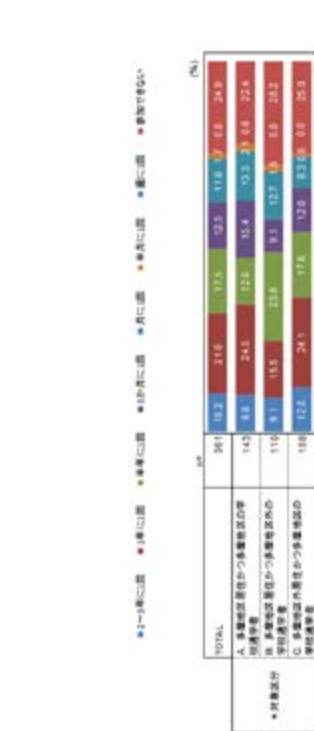
地域での活動に参加しない理由：現在住んでいる地域で今後参加したい地域活動別

Q22 あなたが、地域での活動に参加しない、または参加しにくい理由は何ですか。(回答は1つでも)
 ※現在住んでいる地域で参加しない地域活動の理由としては、12%の活動に参加しない人は「活動に参加しない理由がわからないが60%、17%の理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。
 ※また、12%の地域活動に参加しない人は「活動に参加しない理由が不明」が最も多いが、その他の理由が不明になっている。



地域での活動に参加できる頻度

Q23 あなたは、どのくらいの頻度で地域での活動に参加できると感じますか。(回答は1つ)※地域での活動としては、回答した2-3つの活動のうち最も多いものを回答してください。
 ※TOTALでは、「参加できない」が最も多いが、10%未満の割合で回答されている。
 ※対象区分別では、回答が最も多いのは「参加できない」が最も多いが、10%未満の割合で回答されている。



地域での活動に参加できる頻度：参加した地域活動別

Q20 あなたは、どのような地域の活動に参加できると思いますか。(回答は1つ) 地域での活動としては、1回あたり2～3時間程度とお考えください。

●市川小・地城活動の開始期代は、現在市川市にある市川市立地城小学校の地城でも、1つも活動に参加したことがない人は、「参加できない」割合が有意に高くなっている。(横濱市立地城小学校、市川市立地城小学校、27頁)

大正時代小説 ①
 大正時代小説 ②
 大正時代小説 ③
 大正時代小説 ④
 大正時代小説 ⑤
 大正時代小説 ⑥
 大正時代小説 ⑦
 大正時代小説 ⑧
 大正時代小説 ⑨
 大正時代小説 ⑩
 大正時代小説 ⑪
 大正時代小説 ⑫
 大正時代小説 ⑬
 大正時代小説 ⑭
 大正時代小説 ⑮
 大正時代小説 ⑯
 大正時代小説 ⑰
 大正時代小説 ⑱
 大正時代小説 ⑲
 大正時代小説 ⑳
 大正時代小説 ㉑
 大正時代小説 ㉒
 大正時代小説 ㉓
 大正時代小説 ㉔
 大正時代小説 ㉕
 大正時代小説 ㉖
 大正時代小説 ㉗
 大正時代小説 ㉘
 大正時代小説 ㉙
 大正時代小説 ㉚
 大正時代小説 ㉛
 大正時代小説 ㉜
 大正時代小説 ㉝
 大正時代小説 ㉞
 大正時代小説 ㉟
 大正時代小説 ㊱
 大正時代小説 ㊲
 大正時代小説 ㊳
 大正時代小説 ㊴
 大正時代小説 ㊵
 大正時代小説 ㊶
 大正時代小説 ㊷
 大正時代小説 ㊸
 大正時代小説 ㊹
 大正時代小説 ㊺
 大正時代小説 ㊻
 大正時代小説 ㊼
 大正時代小説 ㊽
 大正時代小説 ㊾
 大正時代小説 ㊿



＜学校所在地周辺の地域＞



Copyright © 2004, SAGE Publications Inc. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しやすくなる条件

Q24 あなたは、地域での活動に参加するにあたり、どのような条件が望まば参加したいと思えますか、または参加、や
すくなると思いますか。(図表15(つても))

●TOTALでは、「活動内容」興味・関心があるが40.5%と最も高く、次いで収入が得られるが50.2%、「活動内容の希望先がよいが20.0%となっている。

● 対象区分別では、日・土曜地区居住かつ土曜地区外の学校通学者で、「通勤・通学」での交通手段が「車」が7.2%と割合に低くなっている。



Copyright © 2004 INTECH RESEARCH INC. All Rights Reserved.

8

地域での活動に参加できる頻度：今後参加したい地域活動別

Q23 あなたは、どのくらいの頻度で、船屋での活動に参加できると思っていますか。(回答は1つ)※船屋での活動としては、恒例行事2〜3時間程度と考える下さい。

●中絶手術の多い地域と少ない地域の差が顕著に表れている。人口10万人以上の地域では、1人あたり年間1.1回の手術を受ける人がいる。人口10万人未満の地域では、1人あたり年間0.7回の手術を受ける人がいる。

●学校所在地周辺の地域で1つの活動に参加したい人は、「丹」地区が2倍と希望が高くなっている。

[illegible]

＜現在住んでいる地域＞



＜学校所在地関係＞



Copyright © 2006, All Rights Reserved

地域での活動に参加しやすくなる条件:現在住んでいる地域で参加した地域活動別

Q24 あなたは、地域での活動に参加するにあたり、どのような条件が望まば参加したいと思いますか、または参加しやうとなると思いますか。(図表はいくつでも)

●現在住人では地場で開催された地域活動の参加割合では、17歳の活動に参加したことがある人は、「活動場所が家の近辺にあり、通いやすいが500m以内」活動場所までの交通の便が利便性が良いが500m以上の活動に参加したことがある人は、「社会や地域への参加意識が強い」

「ういっ」の音に直ぐに気がついて、



Copyright © 2004 Pearson Education, Inc. All Rights Reserved.

19

地域での活動に参加しやすくなる条件:現在住んでいる地域で今後参加したい地域活動別

Q24 あなたは、地味での活動に参加するにあたり、どのような条件が望ましいと思いますか、または参加しやすくすると思いますか。(回答はいつでも)

●はななでんという地域で今は学校はない地域運動の組織としては、9つ以上の運動に参加している人は、ほとんど全ての層には有数に属している。

●1つの活動に参加したい人は「能力・スキルが習得できる」が90.9%、2つの活動に参加したい人は「活動内容に興味・関心がある」が95.9%、「活動場所が近所にある」に次ぎ、速く、やすいのが90.9%と希望が高くなっている。



Copyright © 2004, McGraw-Hill, a division of The McGraw-Hill Companies, Inc. All Rights Reserved.

町会・自治会への加入状況

Q25 あなたは町会・自治会に加入していますか。また、あなたの家族は町会・自治会に加入していますか。ご家族については、市販・別冊を配りますお答えください。（別冊は1つ）

●TOTALでは、回答者自身は「加入していない」がabout 1%、質問では「加入している」がabout 20%になっている。

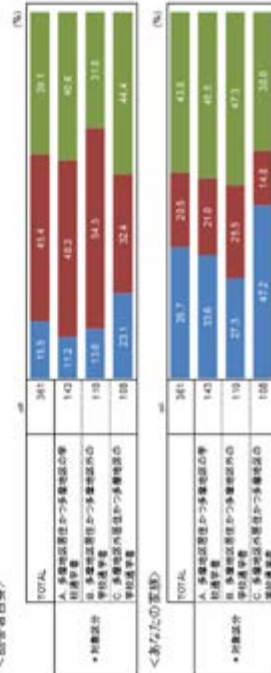
●対象区分別では、○、△層地区外居住かつ△層地区の学校通学者が増加している。割合が他の区分より割増になっている。(図表 4 頁 23 頁、35 頁 28)

●また、今宵地区居住かつ今宵地区外の高校通学者で、国定者自身が加入していないが54.5%、他の区分より国定に高くなっている。

- 加入してもいい。
- 入れかたない。

● 15-74 ●

〈新聞雑誌〉



Copyright © 2004 Elsevier Inc. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しやすくなる条件：学校所在地周辺の地域で参加した地域活動別

Q24 あなたは、地域での活動に参加するに当たり、どのような条件が整えば参加したいと思えますか、または参加しやすくなると思えますか。(回答はいくつでも)

●学校所在地は、旧17の地域で構成した地域活動の単位では、**1つも活動に参加したことがない人**は、「活動参加者が学校の表にあり、通りくいびが分り、と、無難に保たれている。

●*arg*が0未満は、空列となる。

●この本は、参考書となる。

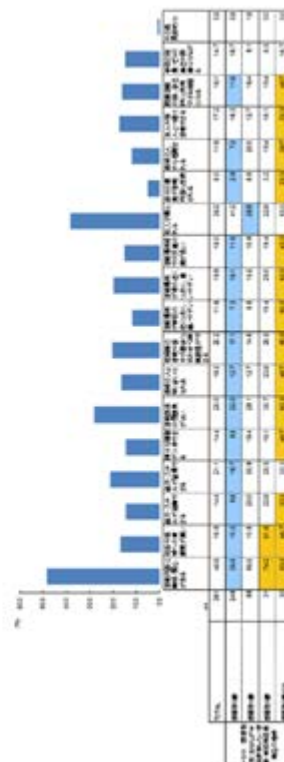


Copyright © 2006 Blackwell Publishing Inc. All Rights Reserved.

地域での活動に参加しやすくなる条件: 学校所在地周辺の地域で今後参加したい地域
活動別

Q24 あなたは、地域での活動に参加するにあたり、どのような条件が望まば参加したいと思えますか、または参加し、や
くくなると思えますか。(四択はいくつでも)

● 学校所在地周辺の地域で今般事象がない地域活動の事例としては、つる活動に参加したくない人は、ほとんど全ての事例で報告されている。

[illegible]

Copyright © 2004, HILLARON INC. All Rights Reserved.

調査票(スクリーニング)

■ 2ページ

Q15. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Q16. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Copyright © 2014 NIKKEI RESEARCH. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 2ページ

Q17. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Q18. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Q19. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

■ 2ページ

Q20. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Q21. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Copyright © 2014 NIKKEI RESEARCH. All rights reserved.

調査票(スクリーニング)

■ 2ページ

Q15. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Q16. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Copyright © 2014 NIKKEI RESEARCH. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 2ページ

Q17. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Q18. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Q19. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

■ 2ページ

Q20. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

- ☐ 1. 東京23区
- ☐ 2. 特別区
- ☐ 3. 市町村
- ☐ 4. その他
- ☐ 5. その他

Q21. あなたは、東京23区、特別区、市町村のいずれかに住んでおられますか。

Copyright © 2014 NIKKEI RESEARCH. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 13ページ④

Q13. 以下の質問に「とても、あなたの学校でよく行われている」と答える場合は、あなたの学校の先生に「とても、あなたの学校の先生に」を記入してください。

Q13. 100

先生に教えることを教える人はいないと思う

とても あてはまる	まあ あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる
--------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------

Q14. 以下の質問に「とても、あなたの学校の先生に」を記入してください。

Q14. 100

サークル活動に積極的に参加している

とても あてはまる	まあ あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる
--------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------

Q15. 以下の質問に「とても、あなたの学校の先生に」を記入してください。

Q15. 100

先生の活動に積極的に参加している

とても あてはまる	まあ あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる
--------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 14ページ⑤

Q16. 以下の質問に「とても、あなたの学校の先生に」を記入してください。

Q16. 100

先生に教えることを教える人はいないと思う

とても あてはまる	まあ あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる
--------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 15ページ⑥

Q17. 以下の質問に「とても、あなたの学校の先生に」を記入してください。

Q17. 100

先生に教えることを教える人はいないと思う

とても あてはまる	まあ あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる	どちらか あてはまる
--------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

15N-102

Q10 如何防止因设备故障造成数据丢失?

DOI: 10.1002/for

6/9

學校內有連環圖之嫌疑

- [illegible]

1998

Copyright © 2014 John Wiley & Sons, Ltd.

調査票(本調査)

■ 16X-270

© 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 2680,

On the Authors

11

謝國興, A. 2004. 12月 9日。

- [illegible]

1998年

Copyright © 2012 John Wiley & Sons, Ltd. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 154-270

(2) 1980—1984年，平均每年造林6.7万公顷。

1-800-368-6868

6/5

那時候人, 更何況他城內之軍隊馬匹也盡力地竭

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 学校で習ったことを | ② 学校で習ったことを |
| ③ 音楽や美術の授業で習ったこと | ④ 音楽や美術の授業で習ったこと |
| ⑤ 読書の楽しさ | ⑥ 読書の楽しさ |
| ⑦ 読書が大好きになったこと | ⑧ 読書が大好きになったこと |
| ⑨ 読書が大好きになったこと | ⑩ 読書が大好きになったこと |
| ⑪ 読書が大好きになったこと | ⑫ 読書が大好きになったこと |
| ⑬ 読書が大好きになったこと | ⑭ 読書が大好きになったこと |
| ⑮ 読書が大好きになったこと | ⑯ 読書が大好きになったこと |
| ⑰ 読書が大好きになったこと | ⑱ 読書が大好きになったこと |
| ⑲ 読書が大好きになったこと | ⑳ 読書が大好きになったこと |
| ㉑ 読書が大好きになったこと | ㉒ 読書が大好きになったこと |
| ㉓ 読書が大好きになったこと | ㉔ 読書が大好きになったこと |
| ㉕ 読書が大好きになったこと | ㉖ 読書が大好きになったこと |
| ㉗ 読書が大好きになったこと | ㉘ 読書が大好きになったこと |
| ㉙ 読書が大好きになったこと | ㉚ 読書が大好きになったこと |
| ㉛ 読書が大好きになったこと | ㉜ 読書が大好きになったこと |
| ㉝ 読書が大好きになったこと | ㉞ 読書が大好きになったこと |
| ㉟ 読書が大好きになったこと | ㊱ 読書が大好きになったこと |
| ㊲ 読書が大好きになったこと | ㊳ 読書が大好きになったこと |
| ㊴ 読書が大好きになったこと | ㊵ 読書が大好きになったこと |
| ㊶ 読書が大好きになったこと | ㊷ 読書が大好きになったこと |
| ㊸ 読書が大好きになったこと | ㊹ 読書が大好きになったこと |
| ㊺ 読書が大好きになったこと | ㊻ 読書が大好きになったこと |
| ㊼ 読書が大好きになったこと | ㊽ 読書が大好きになったこと |
| ㊾ 読書が大好きになったこと | ㊿ 読書が大好きになったこと |

Page 10

Copyright © 2012 Pearson Education, Inc. All rights reserved.

調査票(本調査)

■ 1000-2000

© 1997 American Psychological Association 0893-3200/97/\$12.00 DOI: 10.1037/0893-3200.11.4.575

CONCLUSIONS

1000

0000-0001-9300-1000

- [illegible]

北京 100000

Copyright © 2002 by John Wiley & Sons, Inc. All rights reserved.

調査票(本調査)

■1ページ目

※1. 本人が、本会職員、事務局職員等が記入する。

調査票記入日

3/3

現在行っている活動から、学校利用施設等の利用

☐ 児童・生徒の学習活動	☐ 職員・教員の研修活動
☐ 児童・生徒の運動活動	☐ 児童・生徒の健康活動
☐ 児童・生徒の文化活動	☐ 児童・生徒の社会活動
☐ 児童・生徒の国際交流活動	☐ 児童・生徒の職業体験活動
☐ 児童・生徒のボランティア活動	☐ 児童・生徒の環境活動
☐ 児童・生徒の防災活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動

調査票記入日

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

■1ページ目

※1. 本人が、本会職員、事務局職員等が記入する。

調査票記入日

3/3

現在行っている活動から、学校利用施設等の利用

☐ 児童・生徒の学習活動	☐ 職員・教員の研修活動
☐ 児童・生徒の運動活動	☐ 児童・生徒の健康活動
☐ 児童・生徒の文化活動	☐ 児童・生徒の社会活動
☐ 児童・生徒の国際交流活動	☐ 児童・生徒の職業体験活動
☐ 児童・生徒のボランティア活動	☐ 児童・生徒の環境活動
☐ 児童・生徒の防災活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動

調査票記入日

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

■1ページ目

※1. 本人が、本会職員、事務局職員等が記入する。

調査票記入日

3/3

現在行っている活動から、学校利用施設等の利用

☐ 児童・生徒の学習活動	☐ 職員・教員の研修活動
☐ 児童・生徒の運動活動	☐ 児童・生徒の健康活動
☐ 児童・生徒の文化活動	☐ 児童・生徒の社会活動
☐ 児童・生徒の国際交流活動	☐ 児童・生徒の職業体験活動
☐ 児童・生徒のボランティア活動	☐ 児童・生徒の環境活動
☐ 児童・生徒の防災活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動

調査票記入日

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

■1ページ目

※1. 本人が、本会職員、事務局職員等が記入する。

調査票記入日

3/3

現在行っている活動から、学校利用施設等の利用

☐ 児童・生徒の学習活動	☐ 職員・教員の研修活動
☐ 児童・生徒の運動活動	☐ 児童・生徒の健康活動
☐ 児童・生徒の文化活動	☐ 児童・生徒の社会活動
☐ 児童・生徒の国際交流活動	☐ 児童・生徒の職業体験活動
☐ 児童・生徒のボランティア活動	☐ 児童・生徒の環境活動
☐ 児童・生徒の防災活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動
☐ 児童・生徒の交通安全活動	☐ 児童・生徒の交通安全活動

調査票記入日

Copyright © 2014 Tokyo Association of Mayors. All rights reserved.

調査票(本調査)

218-2

[illegible]

17-00000

Copyright © 2012 John Wiley & Sons, Ltd. All rights reserved.

調査票(本調査)

24N-2

[illegible]

Copyright © 2004 by John Wiley & Sons, Inc. All rights reserved.

調査票(本調査)

235C-12

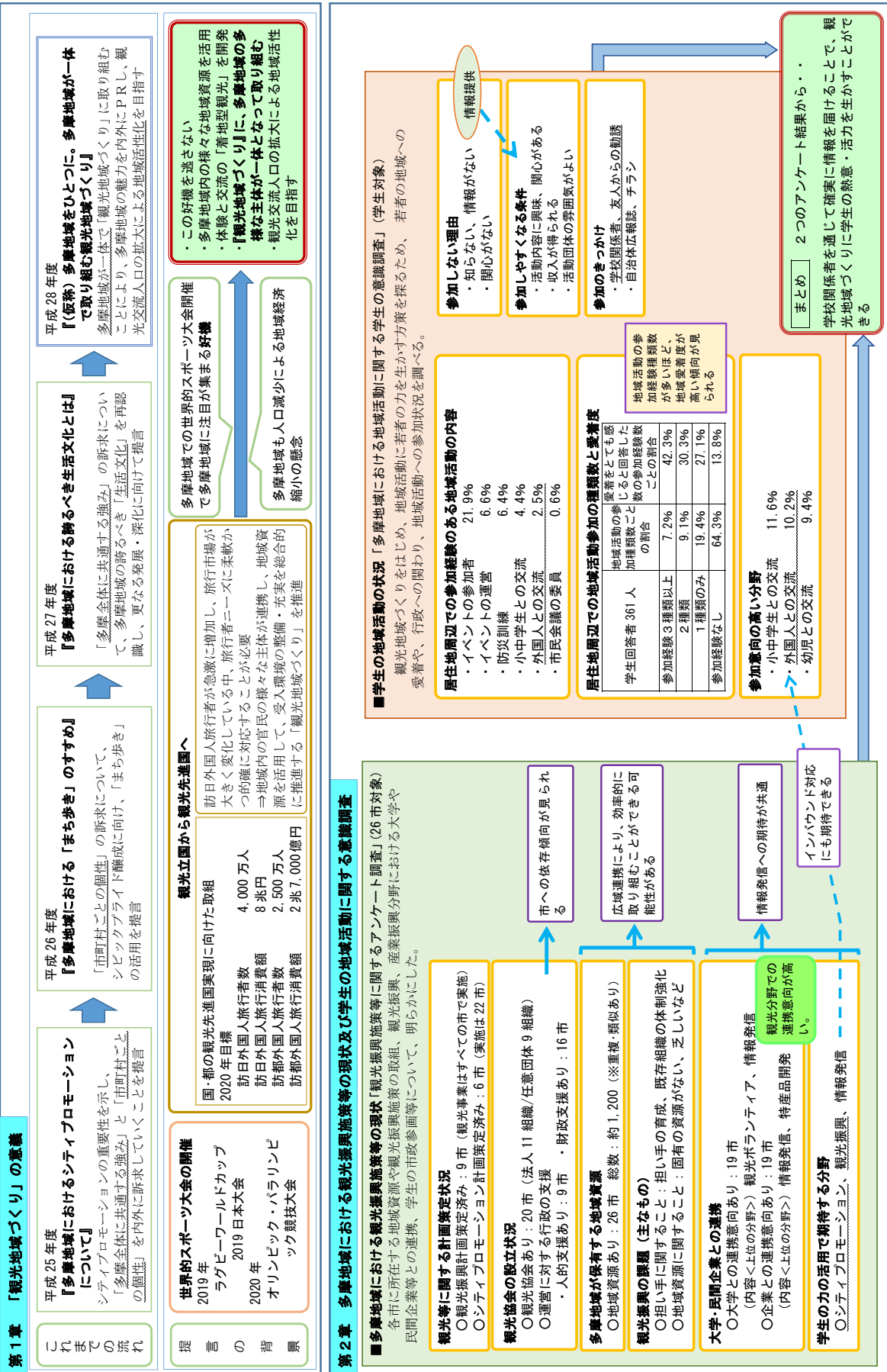
[illegible]

114

Copyright © 2014 John Wiley & Sons, Ltd. All rights reserved.

3 政策提言 概要版

平成 28 年度 政策提言「多摩地域が一体で取り組む観光地域づくりに向けて」概要版



第3章 先進事例調査

第3章 先進事例調査

区分	名称	対象エリア	主な活動している団体への調査
都心部 DMO	(一社)豊田区観光協会 (一社)秩父地域おこし協力隊 観光公社	東京都豊田区 秋丈夫・横瀬町・皆野町・長瀬町・小籠町 市町	旅行代理店、鉄道事業者、観光事業者、外遊事業者 対象エリア内各自治体、観光土産物組合、観光土産物販売センター 農園、京産物をWELLER 会館、京産物をWELLER 馬場行、但馬信用金庫
地域連携 DMO	(一社)東京都北部地域連携都市振興公社 光ハバナ	東京都府知山市・舞鶴市・緑島市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝郡	対象エリア内各自治体、観光事業者組合、交通事業者組合、旅館組合、漁業組合、酒造組合

■多摩地域の連携組織による観光事業・プロモーション事業の調査

組織	秋川流域ジオパーク推進会議(あきる野市)	昭島、福生・羽村観光光景
特徴	・連携してジオパーク認定を目指す ・ご当地観光パンフレット	

第4章 提言 ―多摩地域の魅力協創に向けて―

- 《現状》
- ・ 多様な地域資源を各市が各々で活用
 - ・ 専門的知見の不足
 - ・ 連携活動を進めるための意見調整が困難

【提言】多摩地域が一体となって取り組む広域的観光事業の実施

多摩地域が一体となって取り組む広域的な観光事業として、次の3事業の提案を

摩地域が一体で取り組む効果…
観光のプラットフォーム確立・戦略的事業推進・ブランド化・スケールメリット・各市のスキルアップ など

- プロモーション事業
多摩地域のブランド化及び認知度向上を推進
- 蓄型型ツアアの開発・提供（地域主導型ツアー）
各市の地域資源を集約し、有機的に連携させることで多摩圏内各自治体でできる新たな魅力を創出

- ・多摩地域全体の情報集約、提供

・ 地域ツアーなどの参加申込受付

十和田市プロモーション

全日規模の展示云、イベント等への出展
例・ウィーリアム・EVDO

西・ノース・セント・ルイスにある約90もの産業資源を活用
 ・工場見学ツアー ・リクルートツアー

六國幣十

光緒廿年無錫周小石

交通事業者とも連携し、多摩地域内の交通利便性向上を図る

シエアサイクル

多摩地域を全域で公共交通を利便化する仕組みとして、
共通化する
⇒多摩地域の情るべき「開かれた緑の高さ」のPR
エコセメント事業など、他の地域ではあまり例のない取組
活用し、環境先進地域としての多摩地域をPR
・子ども環境学習ツアー ・外国人環境学習ツアー

周遊パスによる回遊促進

日帰りの農業観光
 住宅地と農地が共存する魅力を提供
 ・都市部における農身体験ツアー
 ・交通事業者の連携による就農・ハイクー開拓
 ・タクシーの活用も視野にルートの開発
 来訪者の利便性向上・域内の周遊促進

總目

多摩地域が一体となって『観光地域づくり』に取り組み、観光をきっかけとした人的・経済的交流による多摩地域全体の活性化を目指す

(*) 将来的には町村との連携もありうる)

【提言】観光地域づくりの推進手法の検討

観光地域づくりの推進体制検討のため、次の3つを提案

日光地域づくりの担い手…
地域の多様な主体と直接的な関わりがなかった者（交通事業者・金融機関・住民・学生等）を巻き込む必要あり
※地域住民、学生など、地域における豊富な人財が主体的に活躍できる環境が重要

田原の領主は

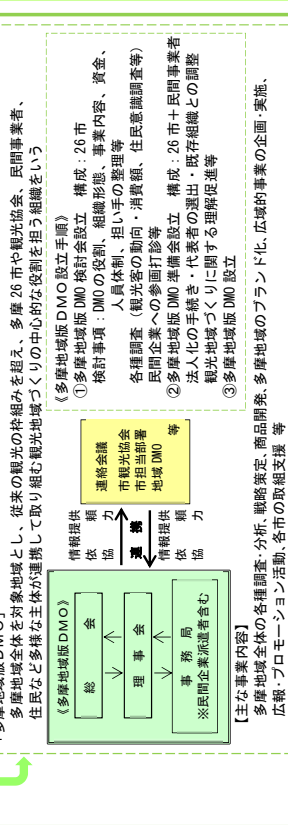
- ・基本方針に基づき、26市が各々の市域で観光地域づくりを推進
- ・26市相互に切磋琢磨しつつ、ソウハロを共有する多摩圏地帯全体のレベルアップ

[illegible]

- ・観光協会や民間事業者等の連携組織加入を積極的に促進
- ・連携活動を拡大、発展させていき、26市全てで連携した取組を目指す

■DMOの設立

広域連携活動の発展型とも言える
法人格を有し、地域のマネジメントと地域の稼ぐ力を引き出すという役割を持つ



平成 2 9 年 2 月

多摩地域が一体で取り組む観光地域づくり

—誇りと愛着のある豊かな地域づくりに向けて—

発行 東京都市長会事務局 企画政策室

〒183-0052

東京都府中市新町二丁目 77 番地の 1 東京自治会館内

TEL : 042-384-6396

FAX : 042-384-6978

印刷 東京都市長会事務局 企画政策室

東京都市長会

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
TEL: 042-384-6396 FAX: 042-384-6978



再生紙を使用しています